

# UIターン者等への意識調査業務 報告書

令和6年3月

# 目次

<b>1. 業務の内容</b> .....	<b>1</b>
1-1. 業務の概要.....	1
1-2. 業務の内容.....	3
1-3. 業務の工程.....	8
1-4. 成果品.....	8
<b>2. 移住実践層の調査結果</b> .....	<b>9</b>
2-1. 回答者属性の概要.....	9
2-2. 集計・分析の結果.....	14
2-3. ヒアリング調査の結果.....	32
<b>3. 移住検討層の調査結果</b> .....	<b>33</b>
3-1. 回答者属性の概要.....	33
3-2. 集計・分析の結果.....	36
3-3. ヒアリング調査の結果.....	68
<b>4. 移住関心層の調査結果</b> .....	<b>69</b>
4-1. 回答者属性の概要.....	69
4-2. 集計・分析の結果.....	72
4-3. ヒアリング調査の結果.....	88
<b>5. 移住低関心層の調査結果</b> .....	<b>89</b>
5-1. 回答者属性の概要.....	89
5-2. 集計・分析の結果.....	91
<b>6. 前回調査との経年比較</b> .....	<b>102</b>
6-1. 実践層.....	102
6-2. 検討層.....	106
6-3. 関心層.....	115

<b>7. 階層間の比較.....</b>	<b>120</b>
7-1. 分析の目的と方針 .....	120
7-2. 属性の推移.....	120
7-3. UI ターン意識の推移.....	122
<b>8. 課題分析.....</b>	<b>129</b>
8-1. 分析の目的と方針 .....	129
8-2. UI ターン者の分類に用いる指標 .....	129
8-3. UI ターン者のカテゴリの特徴 .....	130
8-4. ステップアップ要因の抽出 .....	152
<b>9. 総括.....</b>	<b>155</b>

## 業務の内容

### 業務の概要

#### 背景と目的

島根県では、平成4年に「ふるさと島根定住財団（以下、定住財団）を立ち上げ、移住希望者に対する支援制度を確立し、都市部における相談窓口の設置や人材誘致機能の強化を行うなど他県に先駆けて移住・定住対策を推進してきた。

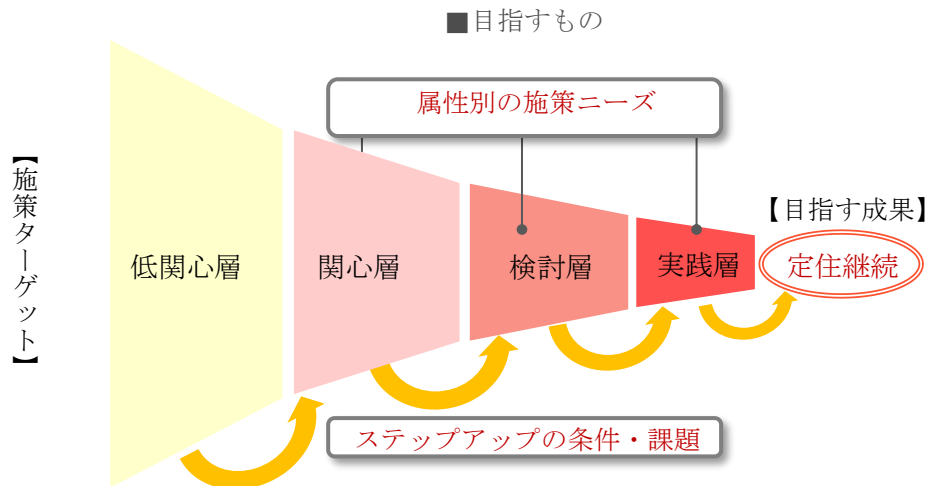
また、平成28年度には都市部の移住希望者や既に島根に移住してきた方等を対象に移住に係る意識調査を実施した。調査により「現在の地域に暮らし続けたい」という意向を持つ者が移住者の半数程度しかいないことが分かったため、市町村と協調して移住者の定着支援を強化したところである。

前回調査から7年が経過し、この間地方創生の実施により地方自治体間の移住者獲得競争が激しくなったほか、コロナ禍を経て地方移住への関心の変化や転職なき移住といった新しい移住スタイルも現れている。

近年は、全国的に人口減少が課題となる中、他の自治体も移住・定住対策に力を入れており、取組みを拡大している状況。

そこで、現在の定住施策の点検とコロナ禍を経た移住検討層・実践層の意識やニーズを把握し、今後の施策の方向性を検討するため、島根県への移住希望者や既に島根に移住してきた方等を対象に移住に係る意識調査を実施する。

#### ■ 目指す成果のイメージ



#### 実施期間及び対象範囲

実施期間： 令和5年6月12日～令和6年3月31日

- 対象範囲： (1) 移住実践者(島根への移住実践層)  
(2) 移住希望者1(島根への移住検討層)

- (3) 移住希望者 2(島根への移住関心層)
- (4) Uターンに低関心な者(島根への移住低関心層)

### 実施項目

本業務の実施項目は、下表に示すとおりである。

なお、調査票はインターネットを活用したアンケート調査(Microsoft Forms)により電子的に回収し、回答率向上のためデジタルギフトとして回答者に謝礼を送付した。調査票の送付は、Webアンケート調査票ページへのリンクを送付することによって実施した。また、各調査の一部の対象者に対して、ヒアリング調査を実施した。各調査で得られた回答から課題分析をし、今後の施策検討の基礎資料とする。

### 業務項目 一覧

業務項目	対象者と調査手法
(1) 移住実践者への調査 (島根への移住実践層)	平成 30 年～令和 4 年にくらしまねっと登録企業へ就職した者を対象とした。就職先の企業を介して、移住者及び同伴家族へアンケート調査票を送付した。 回収率向上のため、企業宛に電話案内を実施した。
(2) 移住希望者への調査1 (島根への移住検討層)	くらしまねっとに「求職登録」(Web 履歴書入力)している県外在住者(約 2,400 名)を対象とした。登録者へアンケート調査票を送付した。回収率向上のため、求職登録者宛のチラシ送付、及び定住財団が実施する「しまね移住フェア」にて来場者に案内の声掛けを実施した。
(3) 移住希望者への調査 2 (島根への移住関心層)	県外在住の島根県出身者等で、移住に関心を持つ者を対象とした。くらしまねっと登録者のうち求職登録者を除く者へアンケート調査票を送付すると共に、くらしまねっとに調査票へ誘導するバナーを設置し、サイト閲覧者に対し調査を実施した。
(4) Uターンに低関心な者への調査 (島根への移住低関心層)	島根県出身者のうち Uターンの意向が低い者を対象とした。定住財団が実施する「しまねサブリプロジェクト」に参加する者に対し、アンケート調査票を送付した。

※ くらしまねっと: 定住財団が実施する無料職業紹介サイト

※ しまねサブリプロジェクト: 県内在住者から県外在住の出身者へ物品およびメッセージを送付し Uターンを促進する事業

## 業務の内容

### 移住実践者への調査(島根への移住実践層)

#### 調査の目的

島根県にU I ターンをした方を対象として、アンケート調査を実施した。主な狙いは、①U I ターンの意思決定への影響要因分析、②U I ターン後の県内定住継続に向けた要因分析等を行うことで、今後の移住・定住促進施策のターゲットの設定や施策検討の基礎資料とすることを目的とする。

#### 調査対象者

平成 30 年～令和 4 年にくらしまねっと登録企業へ就職した者を対象とし、就職先の企業を介してアンケート調査票を送付した。なお、くらしまねっと登録企業への就職者に加えて、その同伴家族も調査対象とするため、調査票の冒頭で同伴家族への回答依頼を実施した。

#### 調査票の設計

##### ■アンケート項目

No.	項目
1	回答者属性(性別、年齢、現住所、UI ターン直前の住所、転入した年月)
2	U ターン/I ターンのどちらか
3	出身地(U ターンの場合、I ターンの場合)
4	島根県との関係
5	一緒に移住した家族の有無
6	一緒に移住した家族の構成、当時の子どもの年齢
7	UI ターンを考えるようになった動機、そのなかで決め手になった動機
8	UI ターン検討時に困ったことや不便を感じたこと、特に困ったことや不便を感じたこと
9	UI ターン後に困ったことや不便を感じたこと、特に困ったことや不便を感じたこと
10	UI ターンする前に特に重視した項目(仕事、生活環境、医療福祉、教育・子育て)
11	現在の生活の満足度
12	UI ターン直前の就学・雇用形態、業種
13	UI ターン直前の世帯年収
14	現在の就学・雇用形態、業種
15	希望する職業かどうか
16	現在の職業の継続意向
17	現在の世帯年収
18	現在の住宅形態
19	UI ターンする際に住宅をみつけた方法

20	UI ターンする際に住宅を探す上で困ったことや不便に感じたこと
21	現在の近所付き合いの程度
22	今後の近隣住民との付き合い方
23	地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの現在の参加状況
24	地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの今後希望する参加状況
25	現在の地域への居住継続意向と、その理由
26	UI ターン情報の収集に利用した情報・サービス等
27	UI ターンする際に受けた支援制度
28	UI ターンについて必要だと感じている施策やご意見・ご感想

### 調査票の回収

項目	内容
調査期間	令和 5 年 6 月 15 日(木)～令和 5 年 10 月 31 日(火)
回収数	500 (※ web 回収数 514 件中、14 件は無効回答   県外在住者)

### ヒアリング調査

ヒアリング調査の可否を問う設問で「協力する」と回答した者の一部に対して、UI ターンの動機の詳細と、定住継続のための条件を中心とする個別インタビューを実施した。

### 集計・分析

単純集計を行うとともに、UI ターン別など差異がみられる属性においてクロス集計をし、UI ターンに向けた課題や定住促進のための課題やニーズを把握し、傾向分析を行った。

## 移住希望者への調査1(島根への移住検討層)

### 調査の目的

くらしまねつに「求職登録」している県外在住者を対象として、登録者へアンケート調査票を送付した。主な狙いは、①島根県との接点の有無や興味・関心の程度やその理由を把握、②都市部在住者と島根県とのつながりづくりを効果的に進める上での課題分析を行うことで、UI ターンを促進するための広報戦略の立案に向けた基礎資料を得る事である。

### 調査対象者

くらしまねつに「求職登録」(Web 履歴書入力)している県外在住者(約 2,400 名)を対象とした。登録者へアンケート調査票を送付した。

回収率向上のため、求職登録者宛のチラシ送付、及び定住財団が実施する「しまね移住フェア」にて来場者に案内の声掛けを実施した。

### 調査票の設計

#### ■アンケート項目

No.	項目
1	回答者属性(性別、年齢、現住所、出身地)
2	島根県との関係
3	現在同居している家族と子どもの年齢
4	UIターンを考えるようになった動機
5	UIターン後の生活を考える上で重視する項目(仕事、生活環境、医療福祉、教育・子育て)
6	今後のUIターン意向と希望する時期
7	島根県以外にUIターンを検討している地域の有無と、検討している地域
8	UIターンする際の不安と、そのうち最も大きな不安
9	現在の就学・雇用形態、業種
10	現在の世帯年収
11	UIターン後に希望する就学・雇用形態、業種
12	UIターン後に希望する世帯年収
13	テレワークに関する意向
14	現在の住居の形態
15	UIターン後に希望する住居の形態
16	現在の近所付き合いの程度
17	UIターン後の近所付き合いの意向
18	現在の島根県内の地域や活動とのつながり
19	UIターンを検討するにあたり困っていることや不便を感じていること、特に困っていることや不便を感じていること
20	UIターン情報の収集に利用した情報・サービス等
21	島根県、定住財団が実施する情報・サービスの満足度
22	UIターンについて必要だと感じている施策やご意見・ご感想

## 調査票の回収

項目	内容
調査期間	令和5年6月15日(木)～令和5年10月31日(火)
回収数	531

## ヒアリング調査

ヒアリング調査の可否を問う設問で「協力する」と回答した者の一部に対して、UIターンの実現に向けた障壁や必要な施策、UIターンの検討動機の詳細を中心とする個別インタビューを実施した。

## 集計・分析

単純集計を行うとともに、年代別や出身地別など差異がみられる属性においてクロス集計をし、UIターンに向けた課題やニーズを把握し、傾向分析を行った。



## 移住希望者への調査2(島根への移住関心層)

### 調査の目的

島根県へのU I ターンについて、県外在住の島根県出身者等で移住に関心をもつ方を対象としてアンケート調査を実施した。主な狙いは、①島根県との接点の有無や興味・関心の程度やその理由の把握、②都市部在住者と島根県とのつながりづくりを効果的に進める上での課題分析を行うことで、U I ターンを促進するための広報戦略の立案に向けた基礎資料を得る事である。

### 調査対象者

くらしまねっと登録者のうち求職登録者を除く者へアンケート調査票を送付すると共に、くらしまねっとに調査票へ誘導するバナーを設置し、サイト閲覧者に対し調査を実施した。

### 調査票の設計

#### ■アンケート項目

No.	項目
1	回答者属性(性別、年齢、現住所、出身地)
2	島根県との関係
3	現在同居している家族と子どもの年齢
4	U I ターンを考えるようになった動機
5	U I ターン後の生活を考える上で重視する項目(仕事、生活環境、医療福祉、教育・子育て)
6	今後のU I ターン意向と希望する時期
7	島根県以外にU I ターンを検討している地域の有無と、検討している地域
8	U I ターンする際の不安と、そのうち最も大きな不安
9	現在の就学・雇用形態、業種
10	U I ターン後に希望する就学・雇用形態、業種
11	現在の住居の形態
12	U I ターン後に希望する住居の形態
13	現在の島根県内の地域や活動とのつながり
14	U I ターン情報の収集に利用した情報・サービス等
15	島根県、定住財団が実施する情報・サービスの満足度
16	U I ターンについて必要だと感じている施策やご意見・ご感想

### 調査票の回収

項目	内容
調査期間	令和5年6月15日(木)～令和5年10月31日(火)
回収数	540

## **ヒアリング調査**

ヒアリング調査の可否を問う設問で「協力する」と回答した者の一部に対して、UI ターンの興味・関心の程度やその理由、UI ターンの検討段階に進むための条件を中心とする個別インタビューを実施した。

## **集計・分析**

単純集計を行うとともに、年代別や出身地別など差異がみられる属性においてクロス集計をし、UI ターンに向けた課題やニーズを把握し、傾向分析を行った。

## Uターンに低関心な者への調査(島根への移住低関心層)

### 調査の目的

島根県出身者のうち U ターンの意向が低い者を対象とした。定住財団が実施する「しまねサブリプロジェクト」に参加する者に対し、アンケート調査票を送付した。主な狙いは、島根県への U I ターンに関心をもってもらうための課題分析を行うことで、今後の移住・定住促進の広報戦略の立案に向けた基礎資料とすることである。

### 調査対象者

島根県出身者のうち U ターンの意向が低い者を対象とした。定住財団が実施する「しまねサブリプロジェクト」に参加する者に対し、アンケート調査票を送付した。

### 調査票の設計

#### ■アンケート項目

No.	項目
1	回答者属性(性別、年齢、出身地)
2	出身地における家族以外の大人との関わり
3	現在の就学・雇用形態、業種
4	仕事を選ぶ上で重視する項目
5	「転職なき移住(テレワーク等)」が U ターンのきっかけ・後押しになるか
6	しまねサブリプロジェクトの参加以前の島根県への U ターンに関する情報に触れる機会
7	島根県への U ターンに関する情報媒体
8	島根県外への転出理由
9	今後の U ターンの意向
10	U ターンを希望する時期
11	現在 U ターンをしていない理由
12	U ターンを検討するために必要な支援
13	現在の島根県についての意見(自由記述)

### 調査票の回収

項目	内容
調査期間	令和 5 年 8 月 8 日(火)～令和 6 年 1 月 31 日(水)
回収数	169

### ヒアリング調査

ヒアリング調査の可否を問う設問で「協力する」と回答した者の一部に対して、U ターンに関心の程度やその理由、U ターンを検討するための条件を中心とする個別インタビューを実施した。

## 集計・分析

単純集計により課題やニーズを把握し、傾向分析を行った。

## 業務の工程

本業務は、下表に示す工程で実施した。

業務項目	令和5年							令和6年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)～(3) 移住実践層・検討層・関心層への調査										
①調査票の設計	■									
②調査依頼・回収	■	■	■	■	■					
③集計						■	■			
(4) 移住低関心層への調査										
①調査票の設計			■	■						
②調査依頼・回収・集計				■	■	■	■			
(5) 集計・分析・報告書の作成										
①集計分析（クロス集計、多変量解析）						■	■			
②課題分析・考察						■	■			
③報告書作成								■	■	■
納品										○
打合せ協議	○				○			○		

## 移住実践層の調査結果

### 回答者属性の概要

実践層		
対象者	島根県に UI ターンをした方 回答数 500	
回答者の概要	U ターン/I ターンの比率	「U ターン」 … 56.6% 「I ターン」 … 43.4%
	性別	「男性」 … 63.4% 「女性」 … 36.6%
	年齢	「20 代」 … 25.2% 「30 代」 … 38.4% 「40 代」 … 23.6% 「50 代」 … 7.6%
	現住所	松江市松江 … 31.2% 出雲市出雲 … 16.8% 津和野町 … 9.0% 隠岐の島町 … 7.0% 雲南市 … 5.0% 中山間地域 … 48.2% 非中山間地域 … 51.8%
	出身地	「U ターン者 (n=283)」 松江市松江 … 27.6% 出雲市出雲 … 16.3% 津和野町 … 8.5% 大田市 … 6.7% 益田市 … 6.4% 中山間地域 … 52.3% 非中山間地域 … 47.7% 「I ターン者 (n=217)」 広島県 … 11.5% 大阪府 … 11.1% 東京都 … 10.6% 埼玉県 … 5.5%

島根県への UI ターンを既に実践している移住実践層の回答者属性を概観する。

#### U ターン/I ターン

U ターン/I ターンの比率をみると、「U ターン」が 56.6%、「I ターン」が 43.3%と、やや U ターン者の割合が高い。なお、実績値（島根県政策企画局統計調査課の島根県推計人口月報をもとに、しまね暮らし推進課が集計）では、U ターン者が全体の約 6 割、I ターン者が約 4 割という構成になっており、本調査結果も同様の傾向を示している。

※ 実績値

令和 4 年度 U ターン者数・I ターン者数実績値（島根県しまね暮らし推進課）

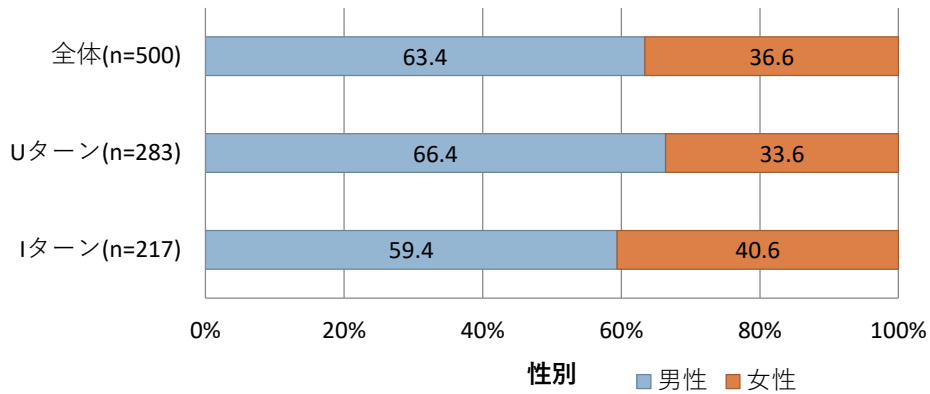
島根県政策企画局統計調査課の島根県推計人口月報をもとに、しまね暮らし推進課が集計。

UI ターン者数 3,463 人

うち U ターン者数 2,010 人 (58.0%)、I ターン者数 1,403 人 (40.5%)、不明者数 50 人

### 性別

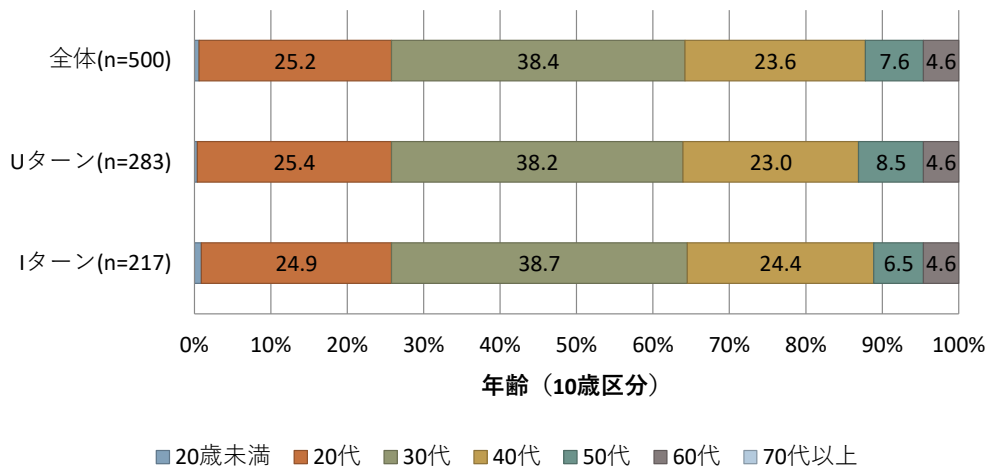
性別をみると、「男性」が 63.4%、「女性」が 36.6%で男性の割合がやや高い。なお、UI ターン別に性別をみると（下図）、U ターン者でより男性割合が高い傾向にある。



「U ターン/I ターン」×「性別」のクロス集計（実践層）

### 年齢

年齢をみると、割合の高い順に「30代」が 38.4%、「20代」が 25.2%、「40代」が 23.6% となった。この比率は、U ターン者、I ターン者で同様の傾向であった。

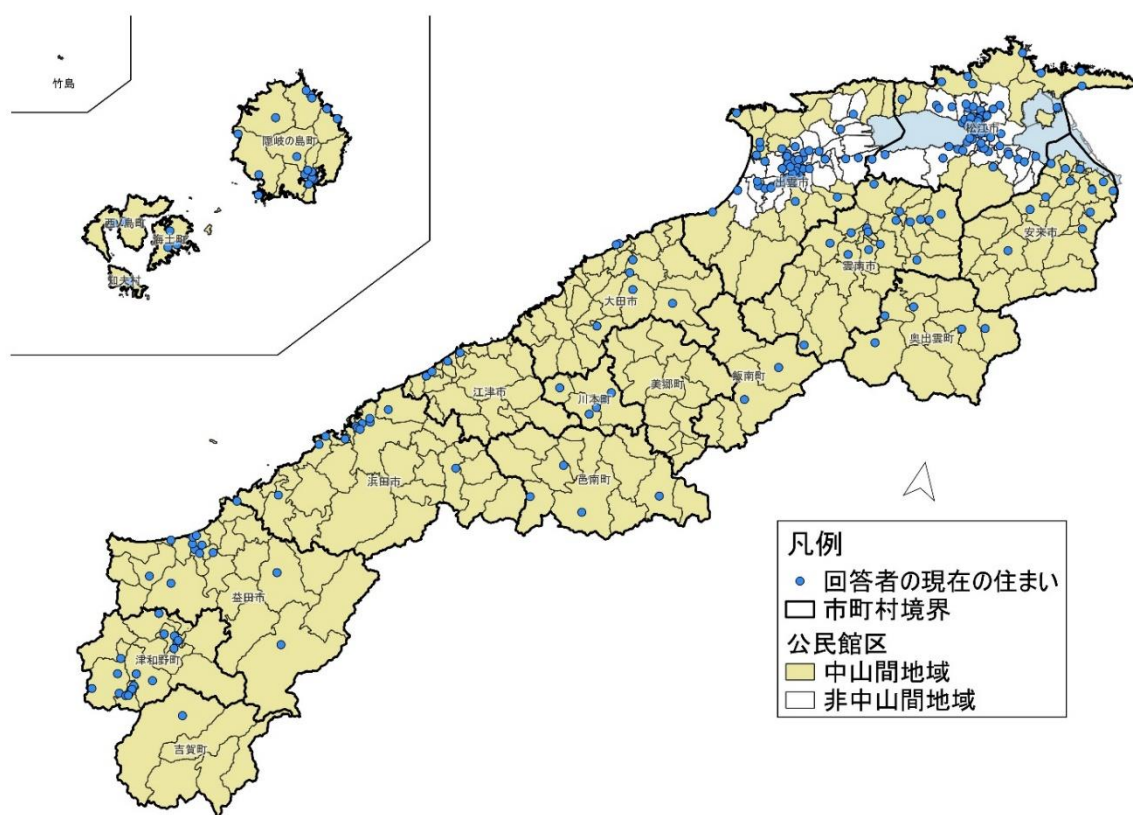


「U ターン/I ターン」×「年齢」のクロス集計（実践層）

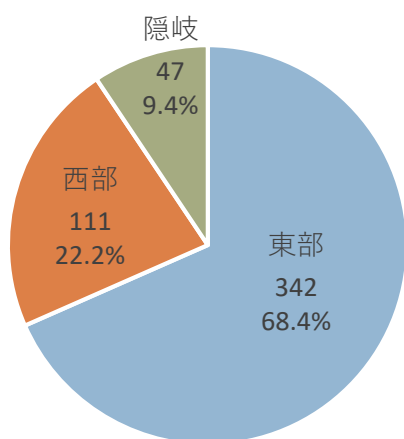
## 現住所

現住所は、「松江市松江（旧松江市エリア）」が 31.2%、「出雲市出雲（旧出雲市エリア）」が 16.8%で、合わせて 48.0%と半数近くが、松江と出雲の市部エリアであることが分かった。以降は、「津和野町」（9.0%）、「隠岐の島町」（7.0%）、「雲南市」（5.0%）と続いた。

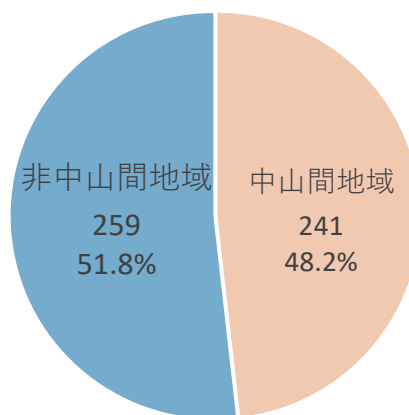
調査票では、現住所を郵便番号として回答を得ており、中山間地域（島根県中山間地域活性化基本条例に基づく中山間地域 令和 5 年 3 月 31 日現在）の指定状況と重ねて、現住所を「中山間地域」と「非中山間地域」に分類した。この結果、「中山間地域」が 48.2%（n=241）、「非中山間地域」が 51.8%（n=259）となり、回答者がおおよそ半々に二分された。



回答者（現住所）の地理分布



n = 500  
※UI ターン合計



n = 500  
※UI ターン合計

## 出身地

出身地をみると、Uターン者（n=283）では、上位から順に、「松江市松江」27.6%、「出雲市出雲」16.3%、「津和野町」8.5%、「大田市」6.7%、「益田市」6.4%の結果となった（Uターン者の内訳割合）。Uターン者の島根県内出身地について「中山間地域」と「非中山間地域」とに分けると、「中山間地域」52.3%、「非中山間地域」47.7%となった。

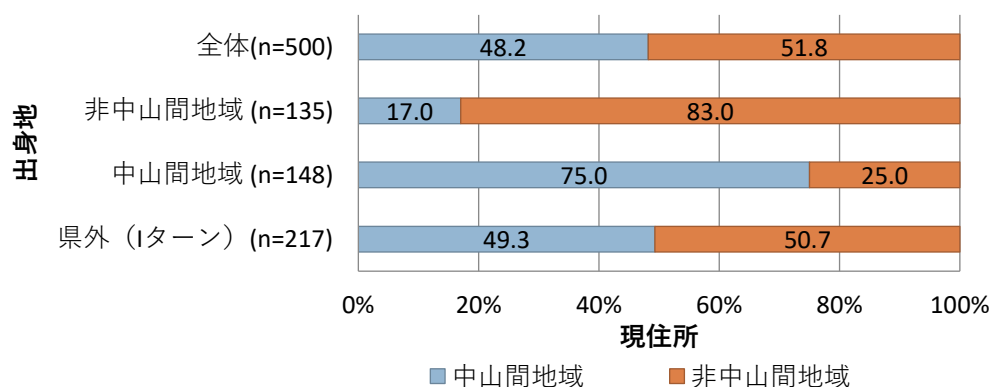
Iターン者（n=217）では、上位から順に、「広島県」11.5%、「大阪府」11.1%、「東京都」10.6%、「埼玉県」5.5%、となった。

## 出身地×現住所

下図は、出身地と現住所についてそれぞれ「中山間地域」と「非中山間地域」に分けた上で算出したクロス集計である（Iターン者の出身地を「島根県外」として統合）。

出身地が「島根県外」であるIターン者は、移住先として「中山間地域」を選択した者が49.3%、「非中山間地域」を選択した者が50.7%と、約半々程度となっている。

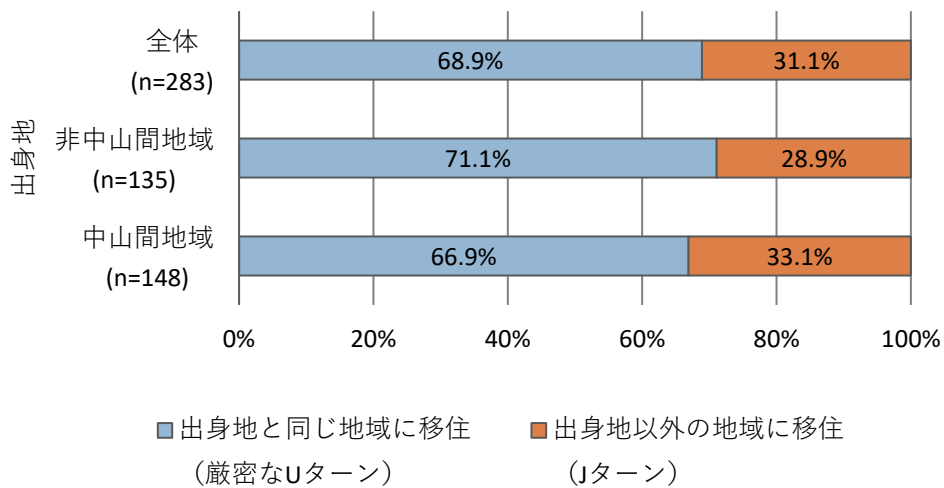
出身地が「非中山間地域」であるUターン者は、移住先として「非中山間地域」を選択した者が83.0%、「中山間地域」を選択した者が17.0%であった。また、出身地が「中山間地域」であるUターン者は、移住先として「中山間地域」を選択した者が75.0%、「非中山間地域」を選択した者が25.0%であった。



「出身地」×「現住所」のクロス集計（実践層 | 中山間地域／非中山間地域）

なお、Uターン者のうち、出身地と現住所が島根県内の同じ地域である回答者は、Uターン者のうちの68.9%（n=195）であり、Uターン者のうち7割程度が出身と同じ地域に移住している。7割程度が出身と同じ地域に移住する傾向は、中山間地域の出身者と非中山間地域の出身者とで大きくは変わらないが、非中山間地域の出身者が出身と同じ地域に移住する割合（71.1%）が、中山間地域の出身者が出身と同じ地域に移住する割合（66.9%）よりも、若干高い傾向が見られた。





「出身地」×「現住所（出身地と同じ地域かどうか）」のクロス集計（実践層）

以上から、「7割程度のUターン者は島根県内の同じ地域に移住するが、残る3割の移住傾向として中山間地域（出身地）から非中山間地域（現住所）に移住するケースが多い」といえる。

**【ポイント】**

- ・松江・出雲の市部出身のUターン者は、83%が「松江・出雲の市部」に移住。
- ・中山間地域出身のUターン者は、75%が「中山間地域」に移住。
- ・Iターン者の移住先は、「中山間地域」と「松江・出雲の市部」で約半々。

<参考> 島根県内の異なる地域に移住するケース（いわゆる「Jターン」）は3割程度。

※ 中山間地域出身者と非中山間地域出身者との傾向は同じ。

## 集計・分析の結果

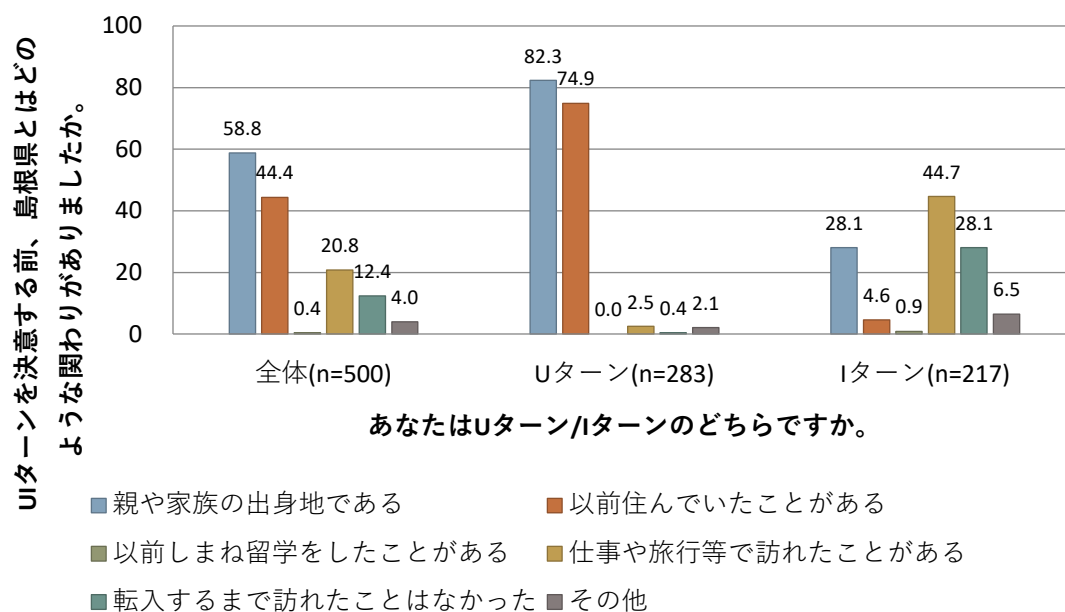
以下、「Uターン/Iターン」と「現住所（中山間地域／非中山間地域）」を中心として、回答傾向に差異がみられる属性を抽出した上で、各設問のクロス集計と分析を行う。なお、単純集計の結果を確認し全体の傾向を把握するために、図中には「全体」の集計結果も記載する。

### 島根県との関係(複数回答)

島根県との関係は、Uターン者とIターン者で大きく傾向が異なる。

Uターン者では、「親や家族の出身地である」が82.3%、「以前住んでいたことがある」が74.9%で、その他の選択肢は2.5%以下となった。

Iターン者では、「仕事や旅行で訪れたことがある」が最上位で44.7%、続いて「親や家族の出身地である」と「転入するまで訪れたことはなかった」が同率28.1%となった。

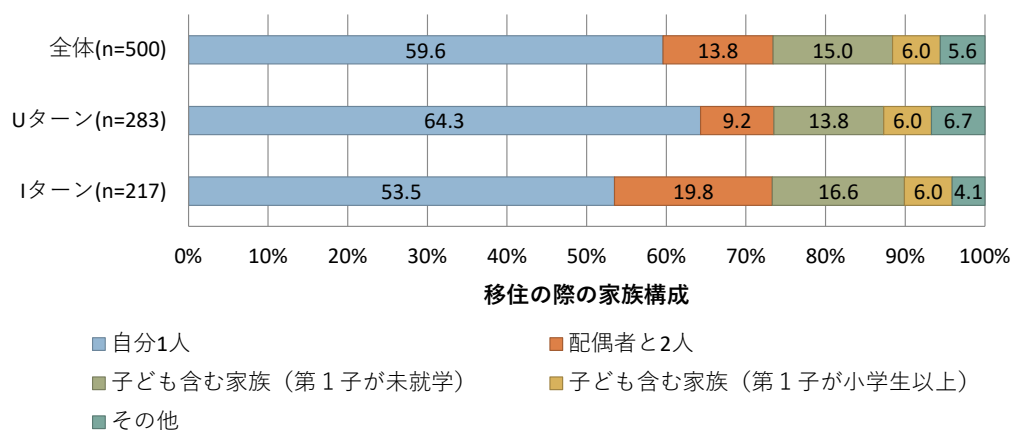


「島根県との関わり」×「Uターン/Iターン」のクロス集計（実践層）

### 移住の際の家族構成

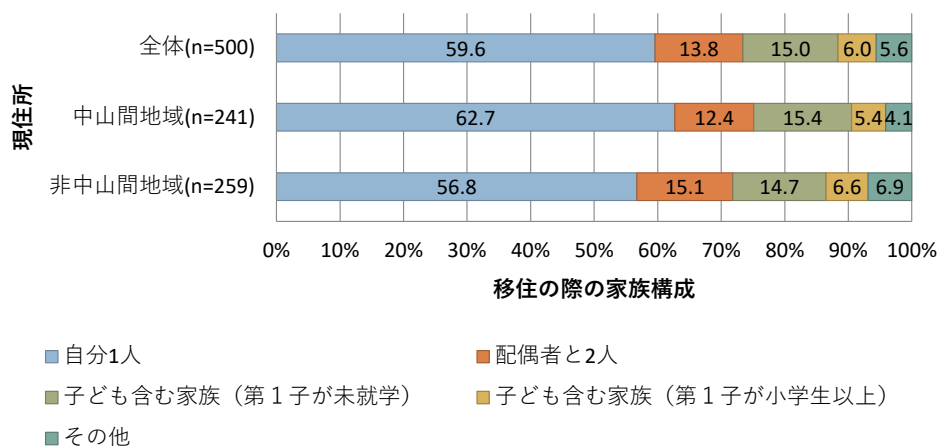
調査票の設問「一緒に移住した家族の構成（複数回答）」及び「当時の子どもの年齢」に基づいて、移住の際の家族構成を「自分1人」、「配偶者と2人」、「子どもを含む家族（第1子が未就学）」、「子どもを含む家族（第1子が小学生以上）」、「その他」の5つに分類した。ここでは、「移住の際の家族構成」としてこの5分類を用いる。

全体の傾向を見ると、「自分1人（単身での移住）」が最も割合が高く 59.6%であり、2番目に高いのが「子ども含む家族（第1子が未就学）」で 15.0%、続いて「配偶者と2人」が 13.8%となる。「Uターン/Iターン」とのクロス集計をみると、「自分1人」の割合は、Uターン者のほうが高くなっている。



「Uターン/Iターン」×「移住の際の家族構成」のクロス集計（実践層）

「現住所（中山間地域／非中山間地域）」とのクロス集計をみると、「自分1人」の割合は、中山間地域在住者のほうが高くなっている。

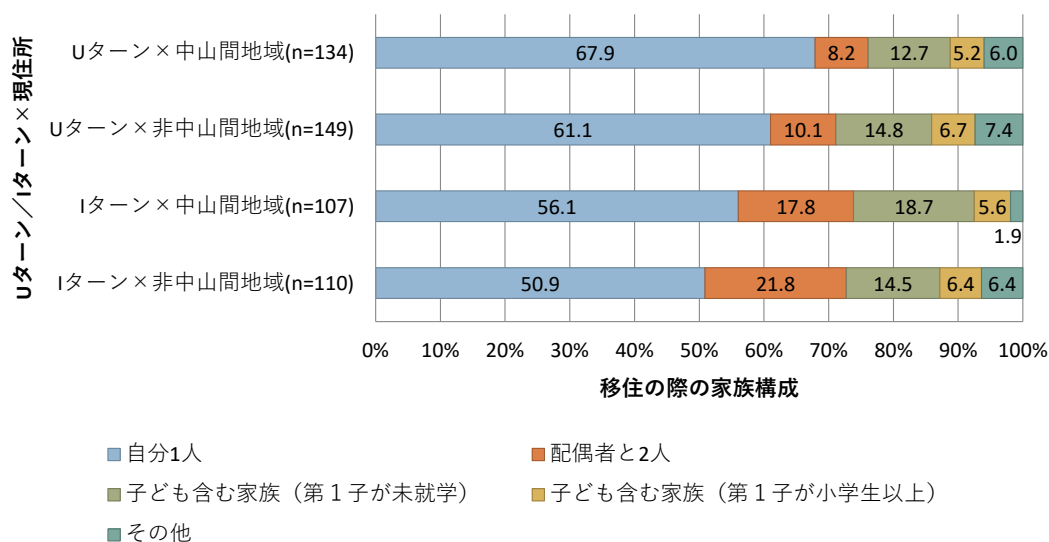


「現住所」×「移住の際の家族構成」のクロス集計（実践層）

以上を踏まえて、「Uターン/Iターン」と「現住所（中山間地域／非中山間地域）」の多重クロス集計を行った結果を以下に示す。2つの属性の組合せにより、回答結果に比較的大きな差異がみられる。

「自分1人」の割合が最も大きいのは「Uターン×現住所が中山間地域」で 67.9%、「配偶者と2人」の割合が最も大きいのは「Iターン×現住所が非中山間地域」で 21.8%、「子ども含む家族（第1子が未就学）」の割合が最も大きいのは「Iターン×現住所が中山間地

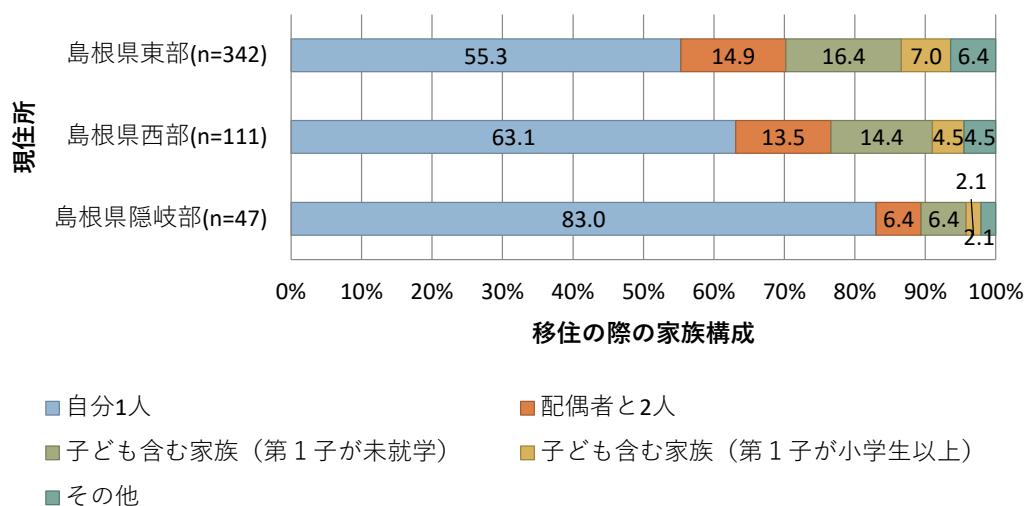
域」で 18.7%、という結果になった。「子ども含む家族（第 1 子が小学生以上）」は、いずれの属性でも 7%未満で大きな差は見られない。



「現住所」と「Uターン/Iターン」×「移住の際の家族構成」の多重クロス集計（実践層）

また、「移住の際の家族構成」の結果の差異が大きい属性として、現住所を<島根県東部>、<島根県西部>、<島根県隠岐部>の3エリアに区分した属性が抽出された。結果を以下に示す。

隠岐部では「自分1人」の割合が83.0%と著しく高い結果となった。



「現住所（島根3エリア区分）」×「移住の際の家族構成」のクロス集計（実践層）

### 【考察】

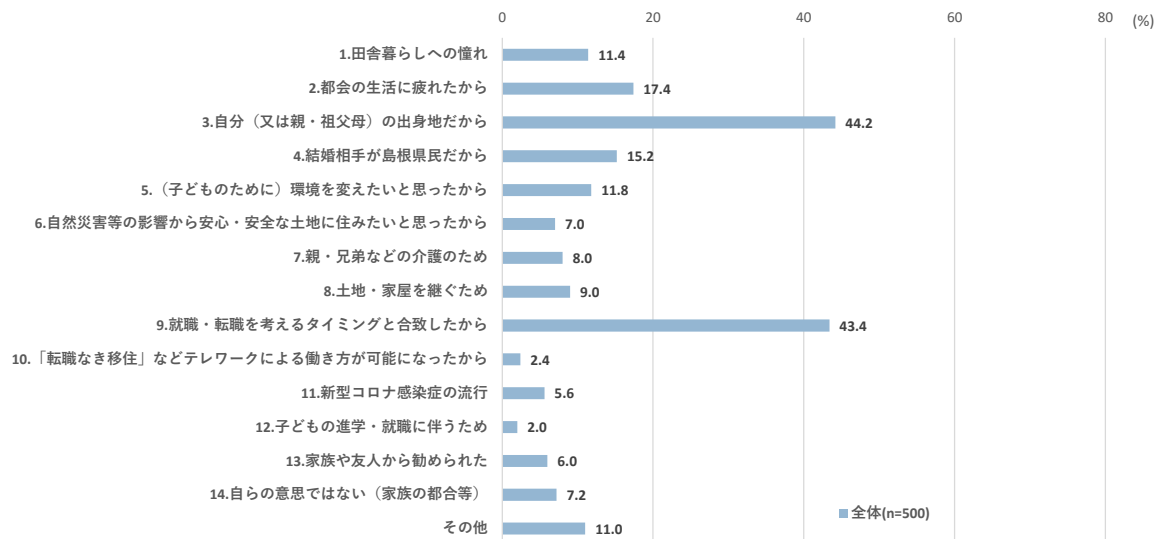
「Iターン者は、移住にあたって家族のための環境（田舎での子育て環境等）を考慮するケースが多い」、  
 「Uターン者は、家族が居る場合に中山間地域を選択しづらい何らかの要因がある」ことが推測される。



## UIターンを考えるようになった動機(複数回答)

「UIターンを考えるようになった動機(複数回答)」について、単純集計の結果を以下に示す。

最も割合が高いのは「自分(又は親・祖父母)の出身地だから」が44.2%、次いで「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」が43.4%となった。

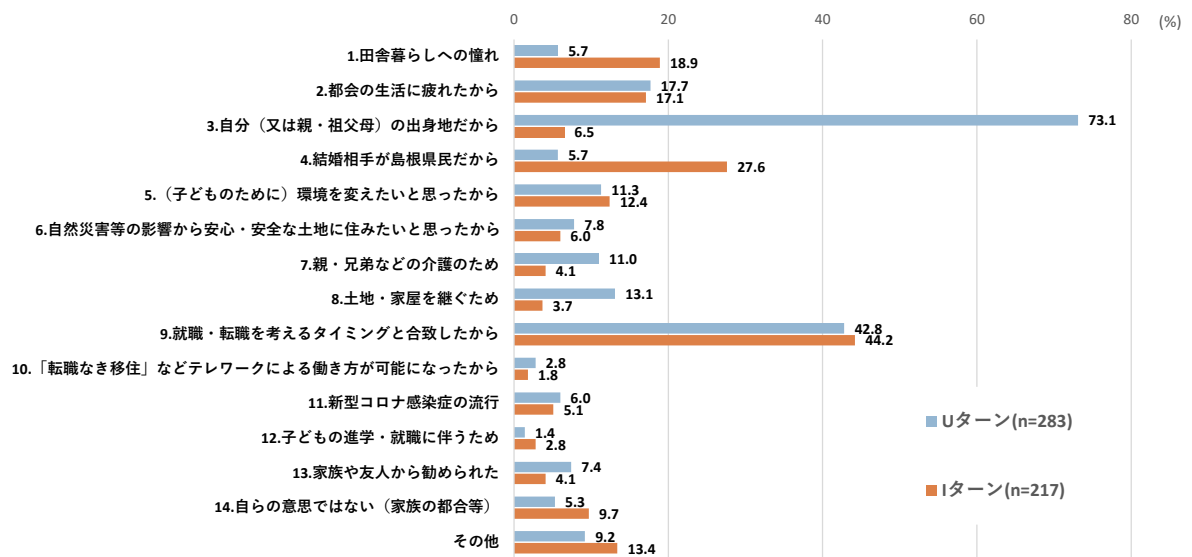


### 「UIターンを考えるようになった動機」の単純集計(実践層)

つぎに、「Uターン/Iターン」属性とのクロス集計の結果を示す。

「自分(又は親・祖父母)の出身地だから」は大きく差が付き、「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」はあまり差がみられない。

その他で、Uターン者で割合が高くなるのは「親・兄弟などの介護のため」、「土地・家屋を継ぐため」、Iターン者で割合が高くなるのは「田舎暮らしへの憧れ」、「結婚相手が島根県民だから」となった。



「Uターン/Iターン」×「UIターンを考えるようになった動機」のクロス集計（実践層）

### 【ポイント】

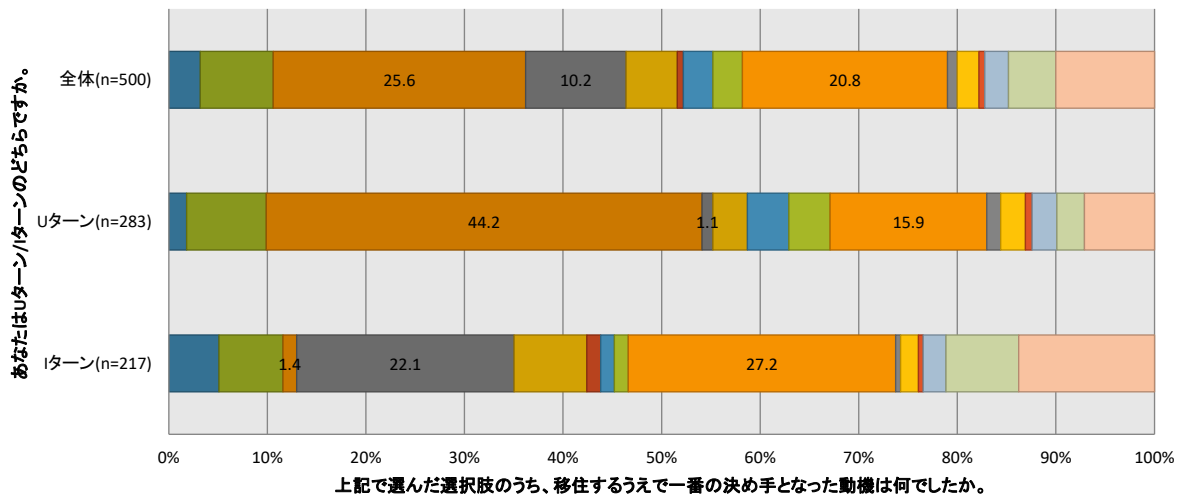
- ・ Uターン者、Iターン者ともに、「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」が4割強であり、「仕事」を動機とするかしないかで、回答者が大きく2つに分かれる。
- ・ 「テレワークによる働き方」を契機とする移住者は少数である。

### 移住する上で一番の決め手となった動機(単一回答)

「Uターン/Iターン」×「移住する上で一番の決め手となった動機」のクロス集計の結果を以下に示す。

Uターン者では、最も高い割合は「自分（又は親・祖父母）の出身地だから」が44.2%、ついで、「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」が15.9%となった。

Iターン者では、最も高い割合は「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」が27.2%、ついで、「結婚相手が島根県民だから」が22.1%となった。



- 1. 田舎暮らしへの憧れ
- 2. 都会の生活に疲れたから
- 3. 自分(又は親・祖父母)の出身地だから
- 4. 結婚相手が島根県民だから
- 5. (子どものために)環境を変えたいと思ったから
- 6. 自然災害等の影響から安心・安全な土地に住みたいと思ったから
- 7. 親・兄弟などの介護のため
- 8. 土地・家屋を継ぐため
- 9. 就職・転職を考えるタイミングと合致したから
- 10. 「転職なき移住」などテレワークによる働き方が可能になったから
- 11. 新型コロナウイルス感染症の流行
- 12. 子どもの進学・就職に伴うため
- 13. 家族や友人から勧められた
- 14. 自らの意思ではない(家族の都合等)
- その他

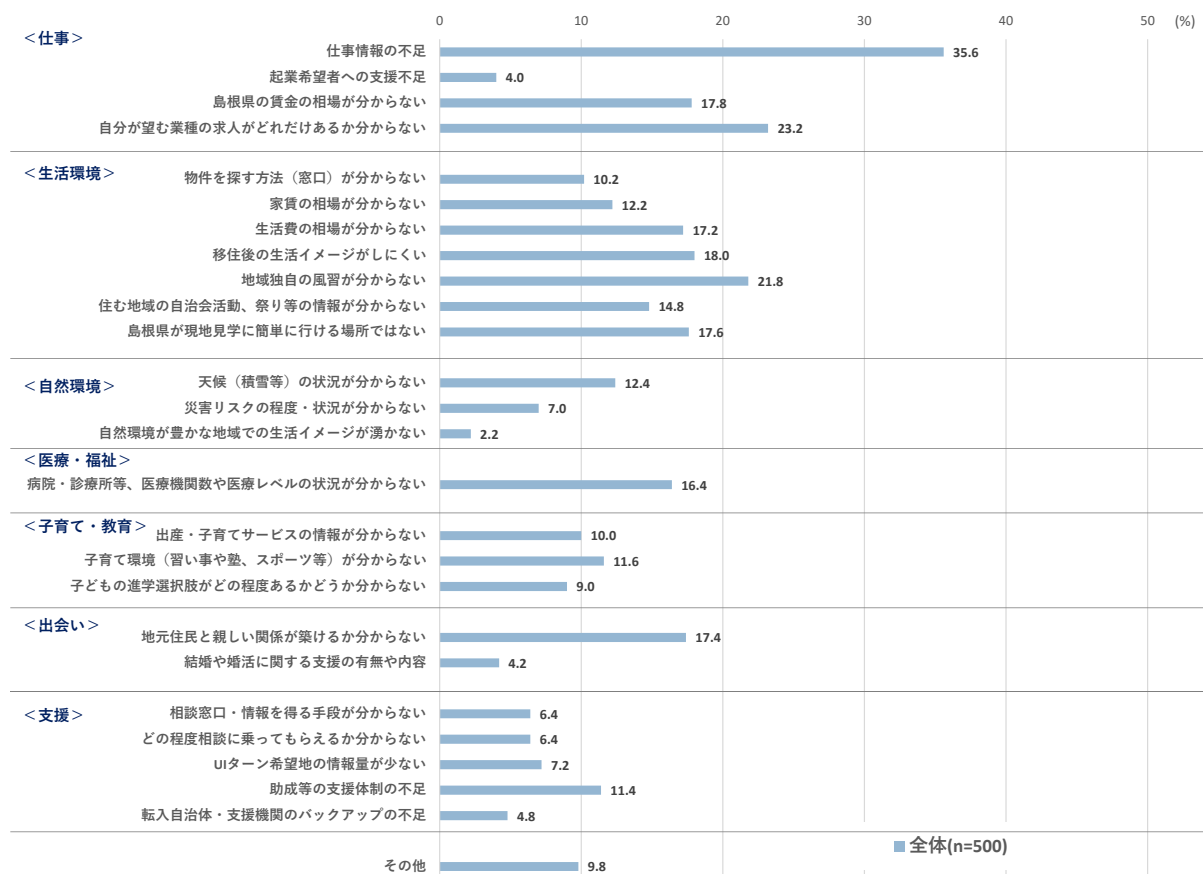
「Uターン/Iターン」×「移住するうえで一番の決め手となった動機」のクロス集計（実践層）



## UI ターン検討時に困ったことや不便を感じたこと(複数回答)

「UI ターン検討時に困ったことや不便を感じたこと(複数回答)」について、単純集計の結果を以下に示す。

最も割合が高いのは「仕事情報の不足」が 35.6%、次いで「自分が望む業種の求人がどれだけあるか分からない」が 23.2%、「地域独自の風習が分からない」が 21.8%、となった。

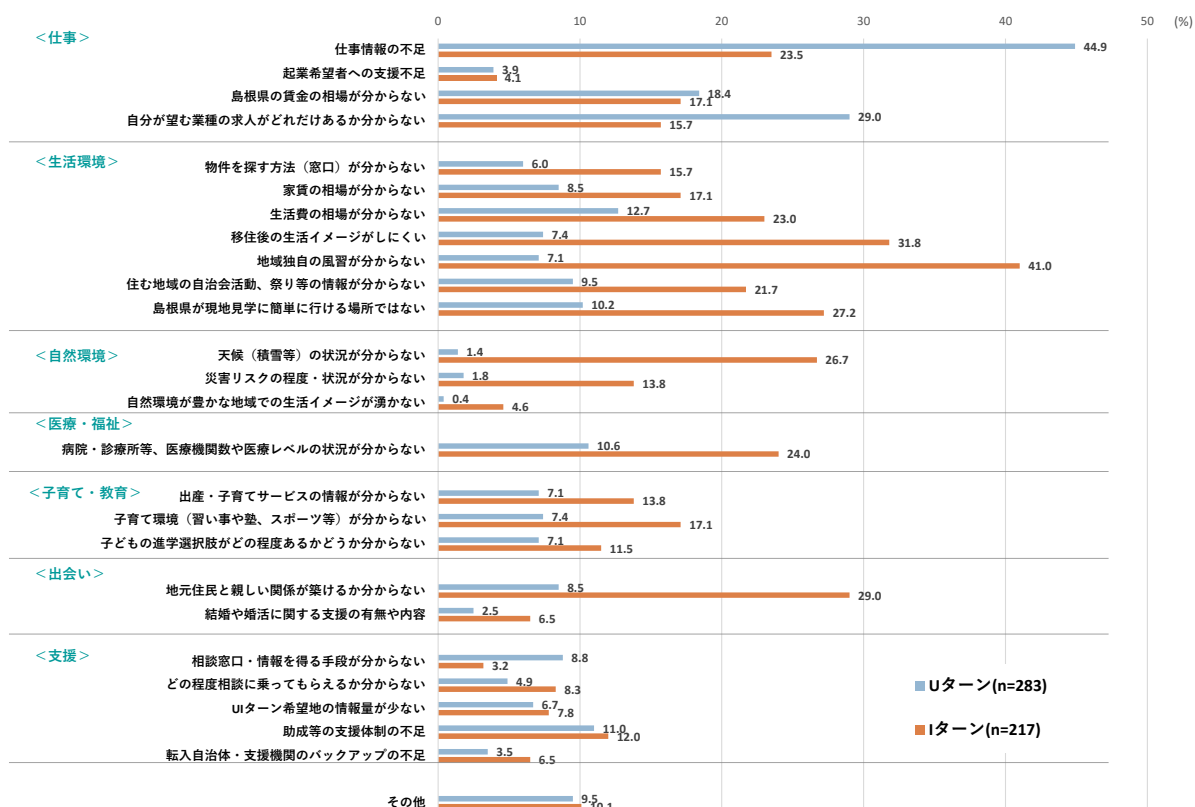


「UI ターン検討時に困ったことや不便を感じたこと」の単純集計(実践層)

つぎに、「Uターン/Iターン」属性とのクロス集計の結果を示す。

Uターン者で割合が高い傾向にあるのは<仕事>の分野で、特に「仕事情報の不足」、「自分が望む求人がどれだけあるのか分からない」の項目で大きく差がついた。

Iターン者で割合が高い傾向にあるのは<生活環境>、<自然環境>、<医療・福祉>、<子育て・教育>の分野となった。



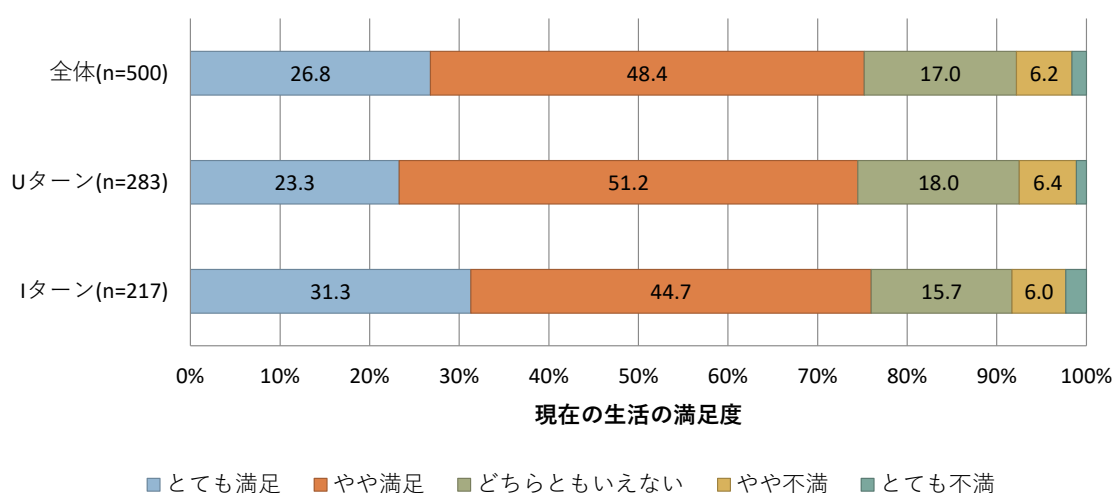
「Uターン/Iターン」×「UIターン検討時に困ったことや不便を感じたこと」のクロス集計（実践層）

## 現在の生活の満足度

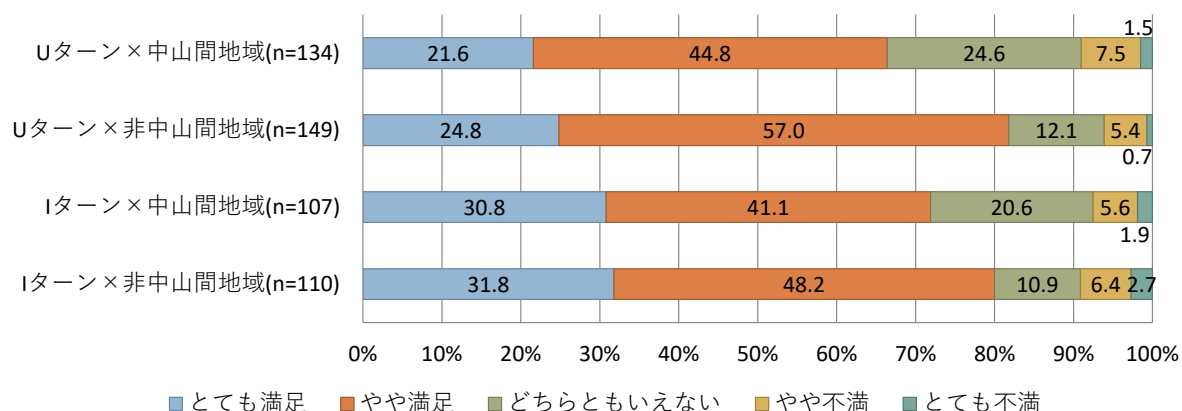
「現在の生活の満足度」について、全体の傾向を見ると、「とても満足」が26.8%、「やや満足」が48.4%となっており、合わせて75.2%が現在の生活に満足していることが分かる。

「Uターン/Iターン」とのクロス集計をみると、Iターン者のほうがUターン者よりもやや満足度が高い傾向にある。

「現住所」と「Uターン/Iターン」との多重クロス集計の結果からは、現住所が「非中山間地域」のほうが、「中山間地域」よりも満足度が高い傾向にあることが分かる。



「Uターン/Iターン」×「現在の生活の満足度」のクロス集計（実践層）



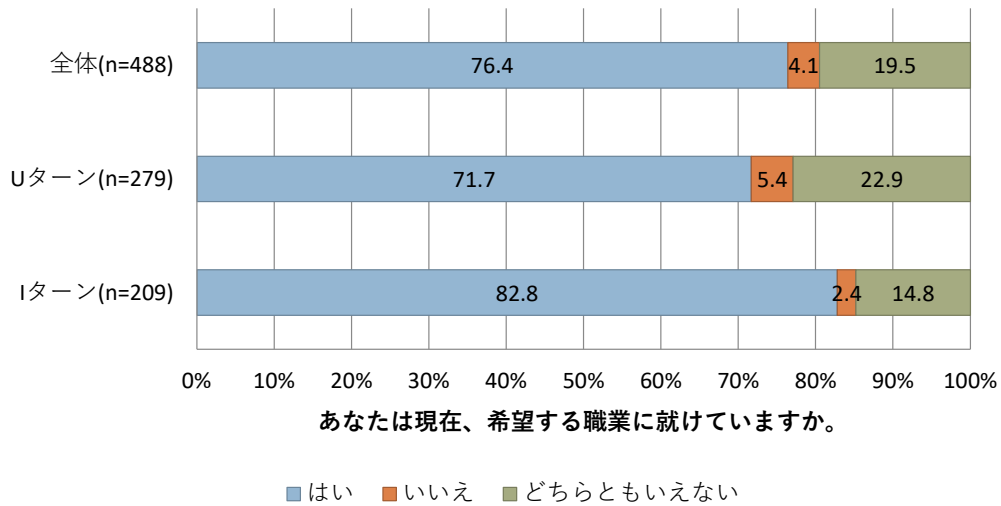
「現住所」と「Uターン/Iターン」×「現在の生活の満足度」の多重クロス集計（実践層）

### 希望する職業かどうか(任意回答)

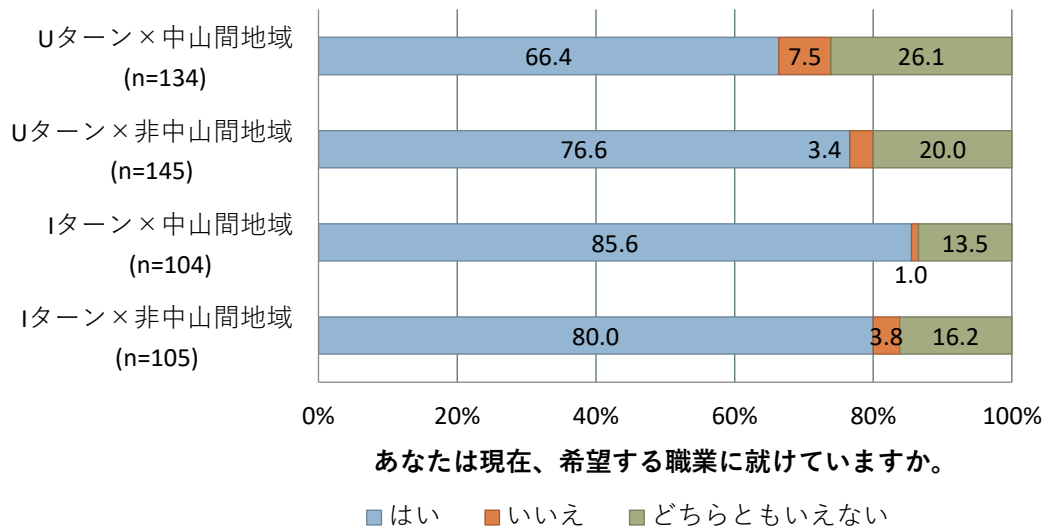
「希望する職業かどうか」について、全体の傾向を見ると、「はい」が76.4%、「いいえ」が4.1%となっている。

「Uターン/Iターン」とのクロス集計をみると、Iターン者のほうがUターン者よりも「はい」と回答する割合が高い。

「現住所」と「Uターン/Iターン」との多重クロス集計の結果をみると、Uターン者は「非中山間地域」で「はい」の割合が高いのに対して、Iターン者では「中山間地域」で「はい」の割合が高いのが、対照的な結果となっている。「Iターン×現住所：中山間地域」で「はい」の回答割合は85.6%と高い割合となった。



「Uターン/Iターン」×「希望する職業かどうか」のクロス集計（実践層）

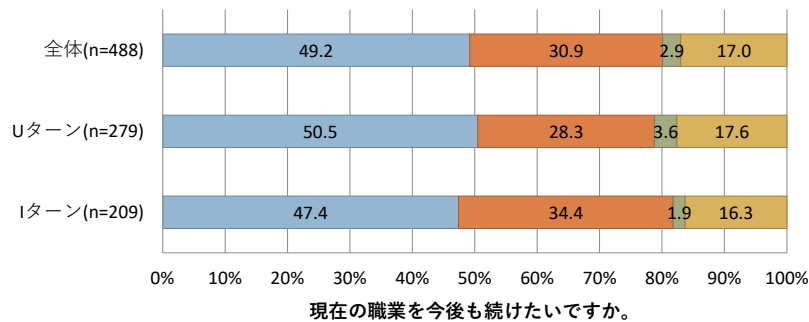


「現住所」と「Uターン/Iターン」×「希望する職業かどうか」の多重クロス集計（実践層）

## 現在の職業の継続意向(任意回答)

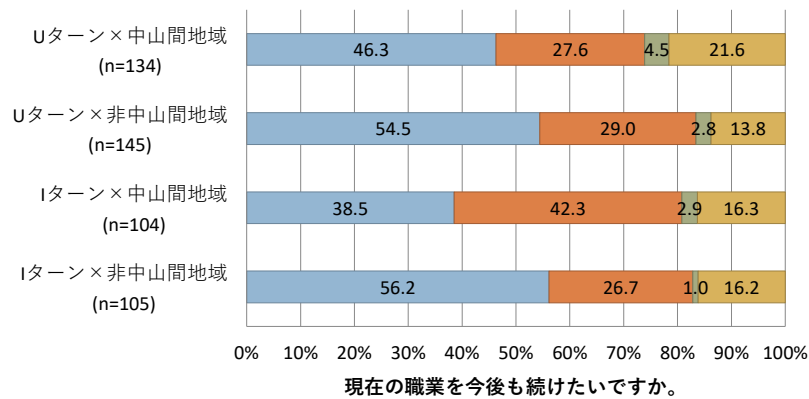
「現在の職業の継続意向」について、全体の傾向を見ると、「ずっと続けたい」が 49.2%、「当面は続けるがいずれ変えたい」が 30.9%となっている。

「現住所」と「Uターン/Iターン」との多重クロス集計の結果をみると、「中山間地域」のほうが、「非中山間地域」よりも、「ずっと続けたい」の割合が低い傾向にある。特に、「Iターン×現住所：中山間地域」は、「ずっと続けたい」の割合が 37.1%で最も低く、「希望する職業かどうか」の設問で「はい」と答えた割合が最も高かったのに対して対照的な結果となっている。



■ ずっと続けたい                      ■ 当面は続けるがいずれ変えたい  
 ■ できるだけすぐ変えたい            ■ どちらともいえない

### 「Uターン/Iターン」×「現在の職業の継続意向」のクロス集計（実践層）



■ ずっと続けたい                      ■ 当面は続けるがいずれ変えたい  
 ■ できるだけすぐ変えたい            ■ どちらともいえない

### 「現住所」と「Uターン/Iターン」×「現在の職業の継続意向」の多重クロス集計（実践層）

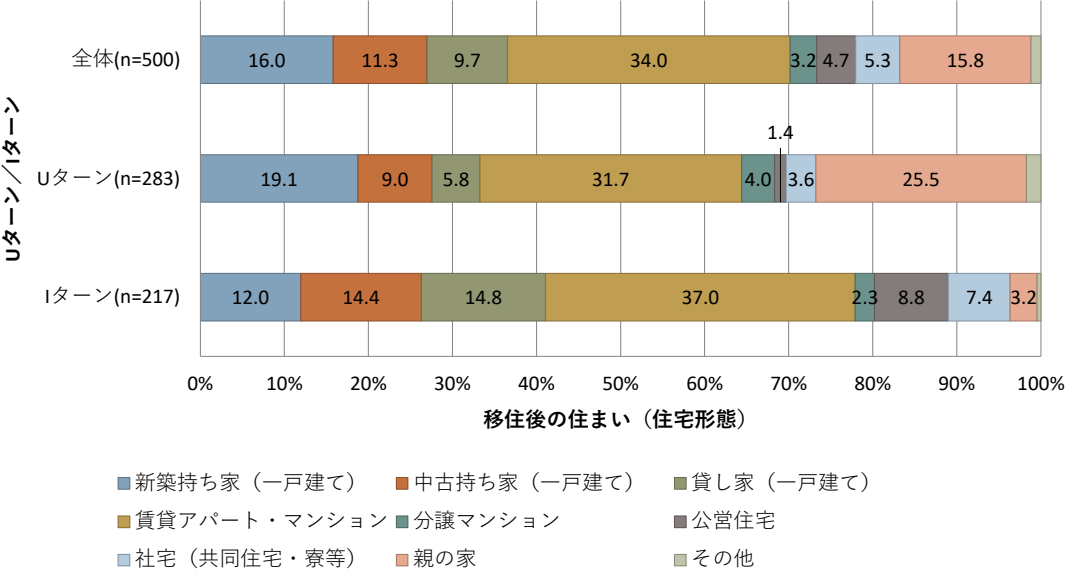
#### 中山間地域へのIターン者「職業を変えたい理由」:

『IT系一本で生きてきたが次のステップに挑戦してみたい』、『複業できるような形にしていきたいため』、『社会に提供したいサービスがあるが現状では実現できないため』、等

#### 【ポイント】

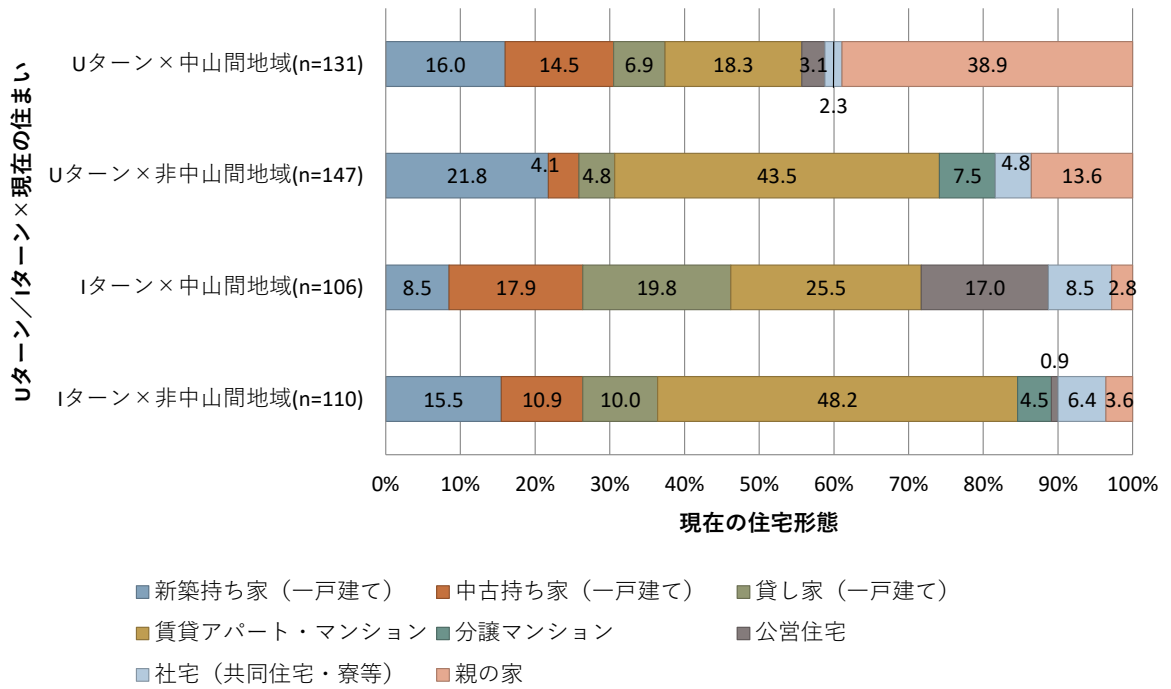
- ・Iターン者のほうが生活満足度は高い。
- ・中山間地域へのIターン者は、希望の職業に就いている割合が最も高いが、職業の継続意向が最も低い、という対照的な結果となっている。

移住後の住まい（住宅形態）をUIターン別にみると、Uターン者、Iターン者ともに最も大きな割合を占めるのは「賃貸アパート・マンション」である。Uターン者は、「親の家」の割合も大きく、25.5%である。



「Uターン/Iターン」 × 「移住後の住まい（住宅形態）」のクロス集計（実践層）

さらに現住所（中山間地域／非中山間地域）と重ねると、「中山間地域」へのUターン者が「親の家」に住んでいる割合が多く、38.9%となっている。



「Uターン/Iターン × 現住所」 × 「移住後の住まい（住宅形態）」のクロス集計（実践層）

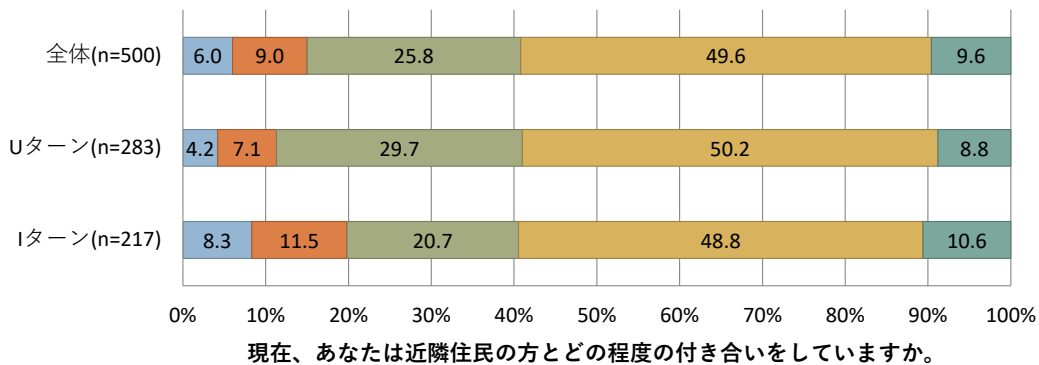


## 現在の近所付き合いの程度

「現在の近所付き合いの程度」について、全体の傾向を見ると、「あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない」49.6%、と「付き合いは全くしていない」9.6%を合わせて、約6割（59.4%）が消極的な付き合いに留まっていることが分かる。

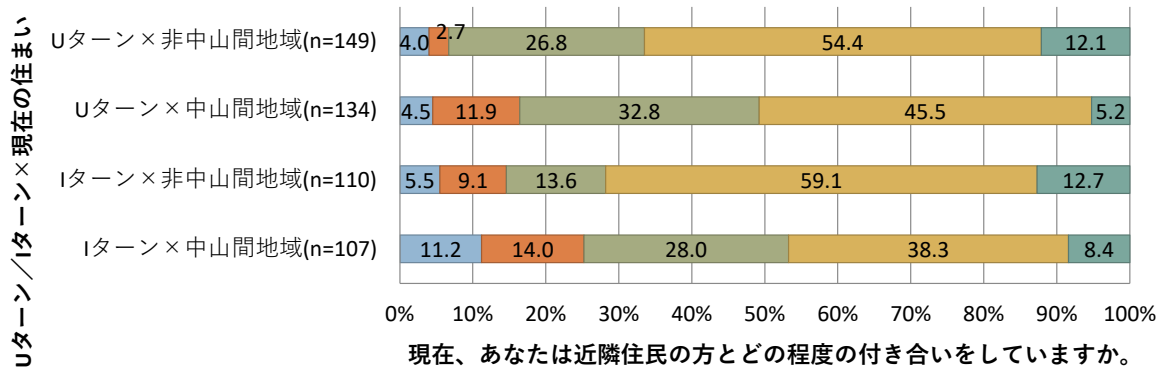
「Uターン/Iターン」とのクロス集計をみると、消極的な付き合いが6割程度となっている大きな傾向は同様であるが、Iターン者のほうが「家族・友人のような深い付き合いをしている」、「日々の生活で助け合える付き合いをしている」の割合が高い。

「現住所」と「Uターン/Iターン」との多重クロス集計の結果をみると、「中山間地域」で「非中山間地域」よりも積極的な付き合いがされており、「中山間地域」と「非中山間地域」との差異をみると、Iターン者における差異がUターン者における差異の方が大きい。



- 家族・友人のような深い付き合いをしている
- 日々の生活で助け合える付き合いをしている
- 日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている
- あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない
- 付き合いは全くしていない

「Uターン/Iターン」×「現在の近所付き合いの程度」のクロス集計（実践層）



- 家族・友人のような深い付き合いをしている
- 日々の生活で助け合える付き合いをしている
- 日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている
- あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない
- 付き合いは全くしていない

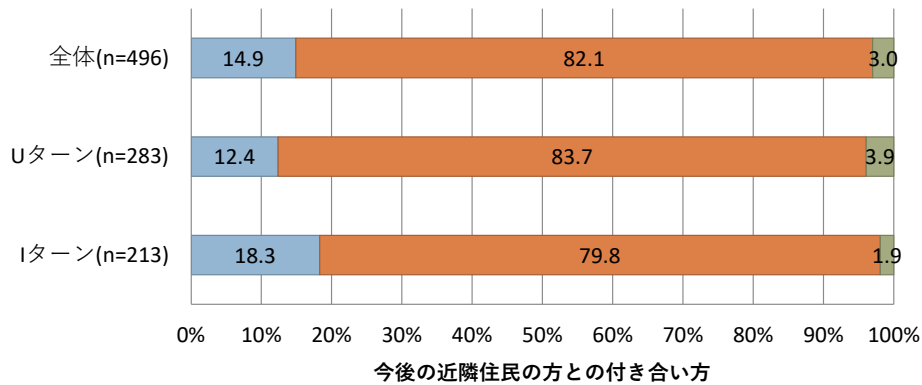
「現住所」と「Uターン/Iターン」×「現在の近所付き合いの程度」の多重クロス集計（実践層）

### 今後の近隣住民との付き合い方

「今後の近隣住民との付き合い方」について、全体の傾向を見ると、82.1%が「現在の付き合い程度で良い」と考えており、「現在よりも、付き合いを増やしたい」と考えているのは14.9%である。

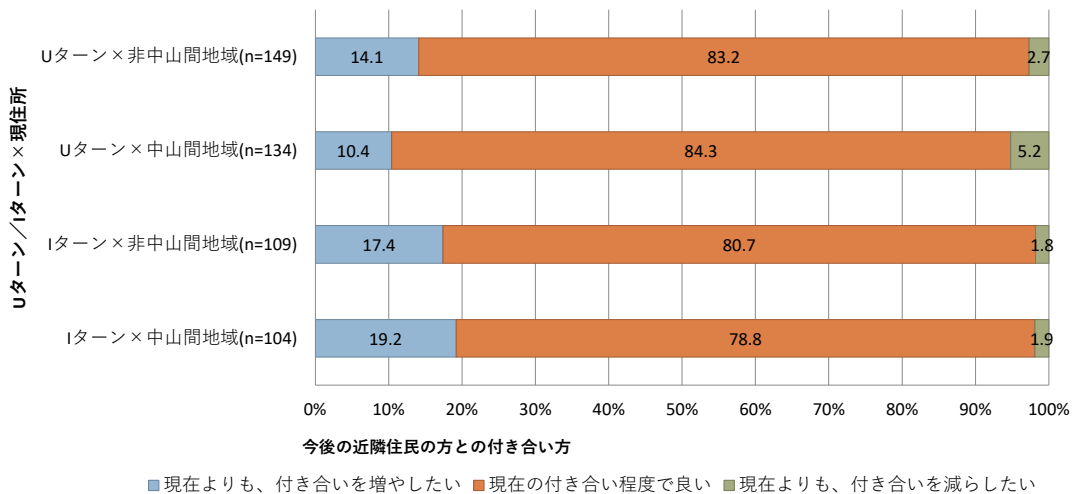
「Uターン/Iターン」とのクロス集計をみると、Iターン者のほうがUターン者よりも付き合いを増やしたいと考えている。

「現住所」と「Uターン/Iターン」との多重クロス集計の結果をみると、Uターン者は「中山間地域」で「非中山間地域」よりも付き合いを減らしたいと考えており、それと対照的に、Iターン者は「中山間地域」で「非中山間地域」よりも付き合いを増やしたいと考えていることが分かる。



- 現在よりも、付き合いを増やしたい
- 現在の付き合い程度で良い
- 現在よりも、付き合いを減らしたい

「Uターン/Iターン」×「今後の近隣住民との付き合い方」のクロス集計（実践層）

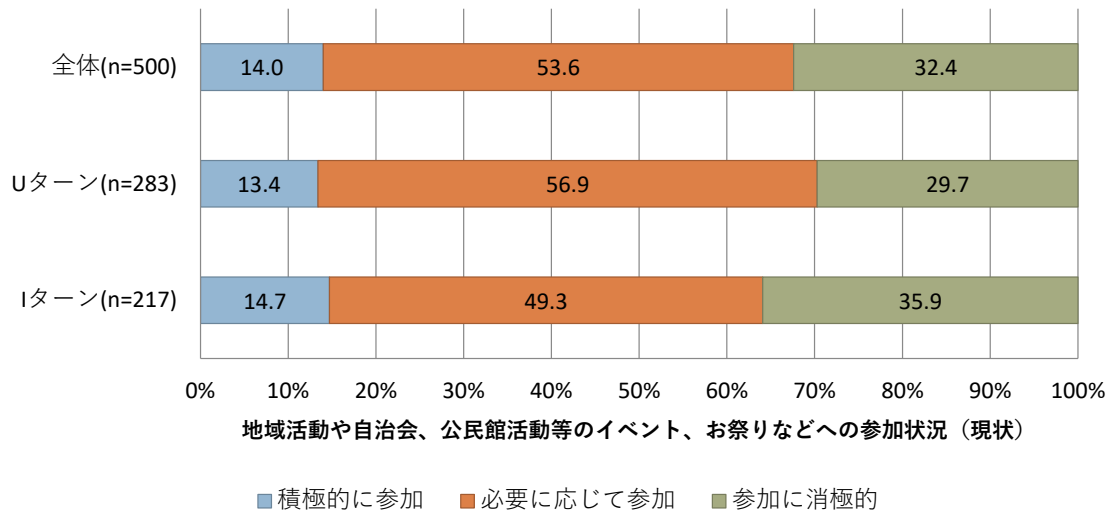


「現住所」と「Uターン/Iターン」×「今後の近隣住民との付き合い方」の多重クロス集計（実践層）

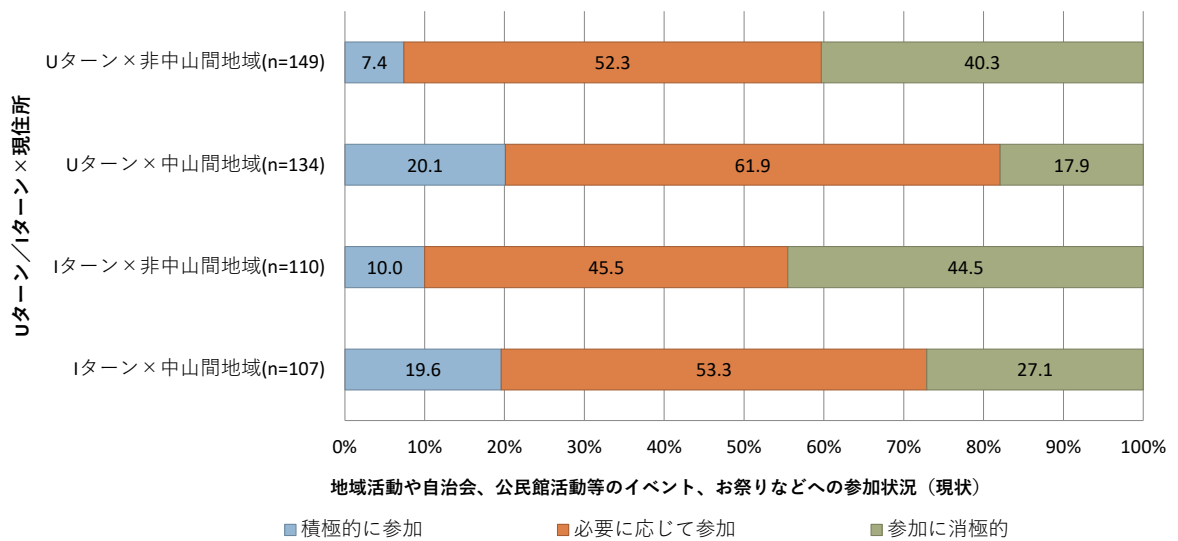
**地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの現在の参加状況**

全体の傾向を見ると、「積極的に参加」は14.0%、「必要に応じて参加」は53.6%、「参加に消極的」は32.4%である。

「Uターン/Iターン」とのクロス集計をみると、大きな傾向は同様であるが、Iターン者のほうが「積極的に参加」、「参加に消極的」の回答がともにUターン者よりも高い。



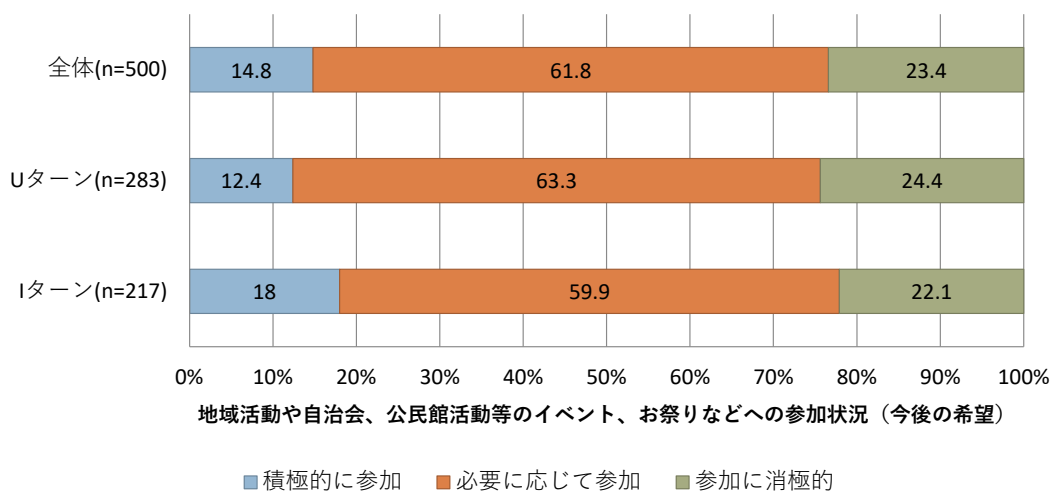
「Uターン/Iターン」×「地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの現在の参加状況」のクロス集計（実践層）



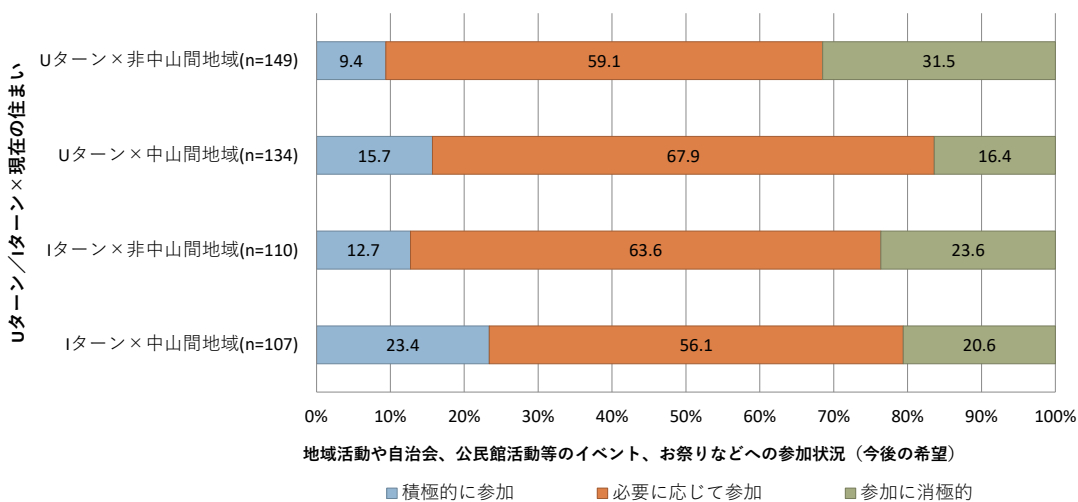
「現住所」と「Uターン/Iターン」×「地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの現在の参加状況」の多重クロス集計（実践層）

### 地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの今後希望する参加状況

全体の傾向を見ると、「積極的に参加」は14.8%、「必要に応じて参加」は61.8%、「参加に消極的」は23.4%である。



「Uターン/Iターン」×「地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの今後希望する参加状況」のクロス集計（実践層）



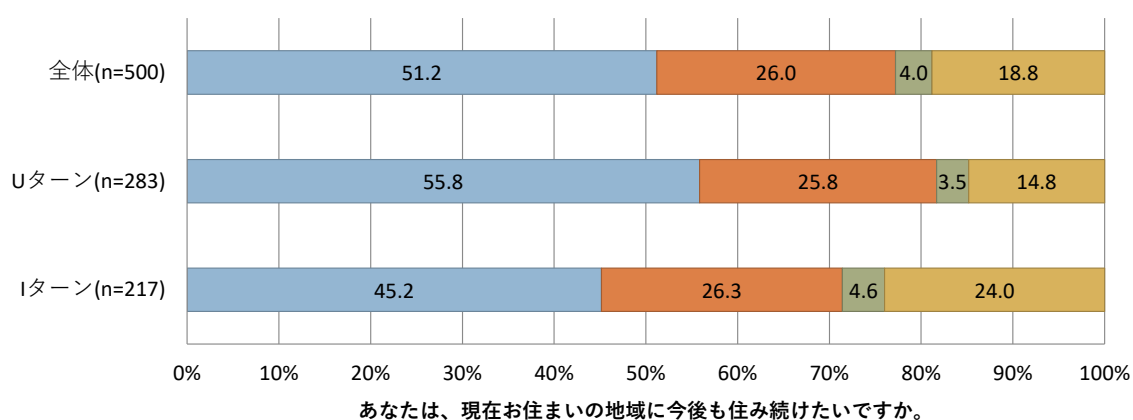
「現住所」と「Uターン/Iターン」×「地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの今後希望する参加状況」の多重クロス集計（実践層）

## 現在の地域への居住継続意向

「現在の地域への居住継続意向」について、全体を見ると、51.2%が「ずっと暮らし続けたい」、26.0%が「当面は住むがいずれ移りたい」と回答している。

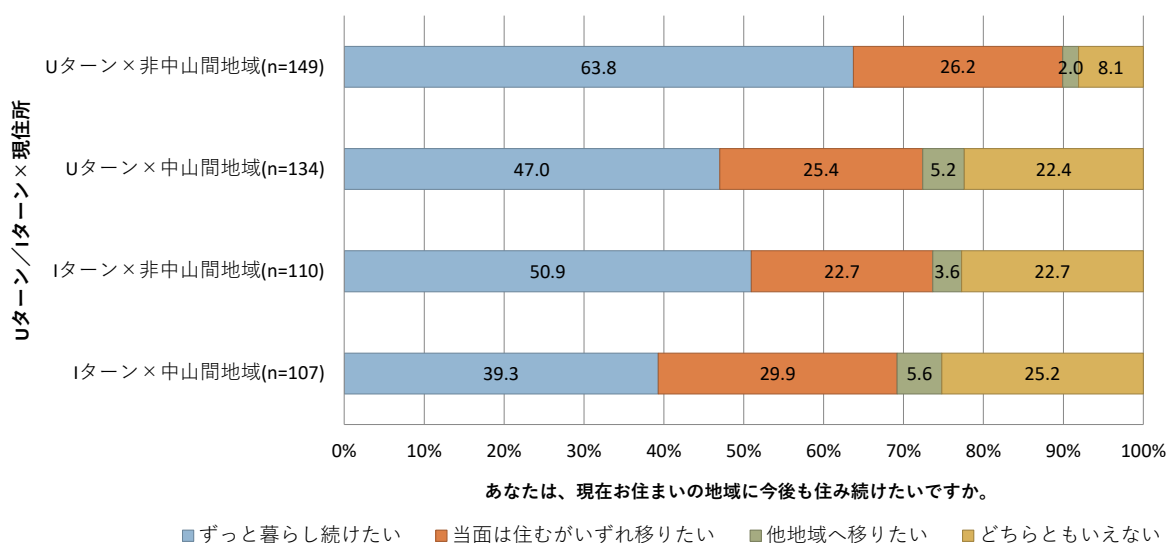
「Uターン/Iターン」とのクロス集計をみると、Uターン者のほうがIターン者よりも居住継続意向が大きい傾向があることが分かる。

「現住所」と「Uターン/Iターン」との多重クロス集計の結果では、「ずっと暮らし続けたい」の回答割合の差異が大きくなっている。「ずっと暮らし続けたい」の割合が最も高いのは、「Uターン×現住所：非中山間地域」の63.8%で、最も低いのは「Iターン×現住所：中山間地域」の39.3%という結果となった。



■ ずっと暮らし続けたい ■ 当面は住むがいずれ移りたい ■ 他地域へ移りたい ■ どちらともいえない

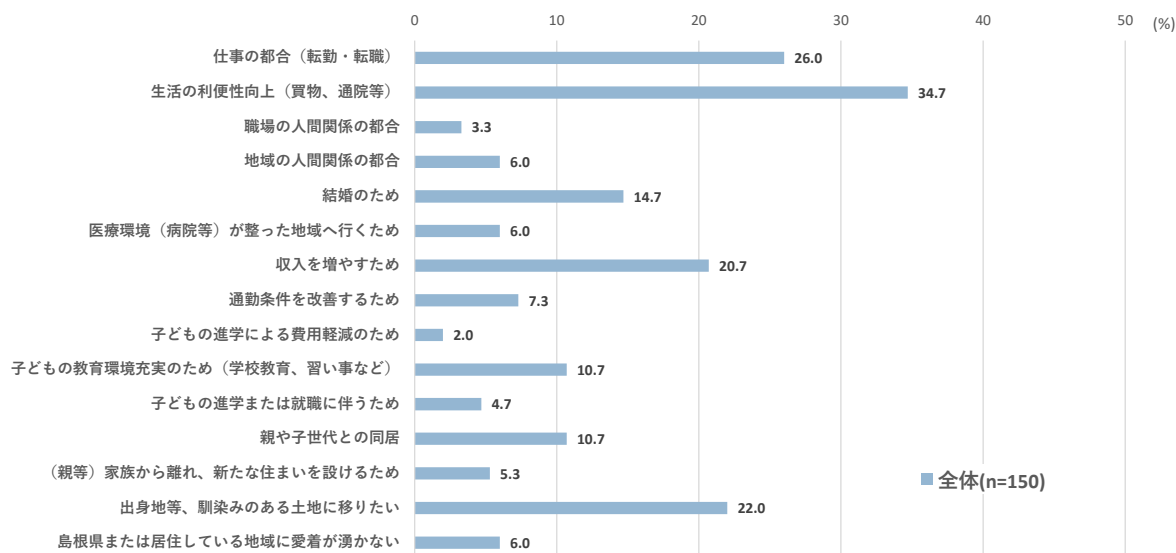
「Uターン/Iターン」×「現在の地域への居住継続意向」のクロス集計（実践層）



「現住所」と「Uターン/Iターン」×「現在の地域への居住継続意向」の多重クロス集計  
(実践層)

## 居住継続意向の理由(定住継続意向が「当面は住むがいずれ移りたい」、「他地域に移りたい」の場合)

単純集計の結果をみると、最も割合が高いのは「生活の利便性向上（買い物、通院等）」で34.7%、次いで、「仕事の都合（転勤・転職）」26.0%、となった。

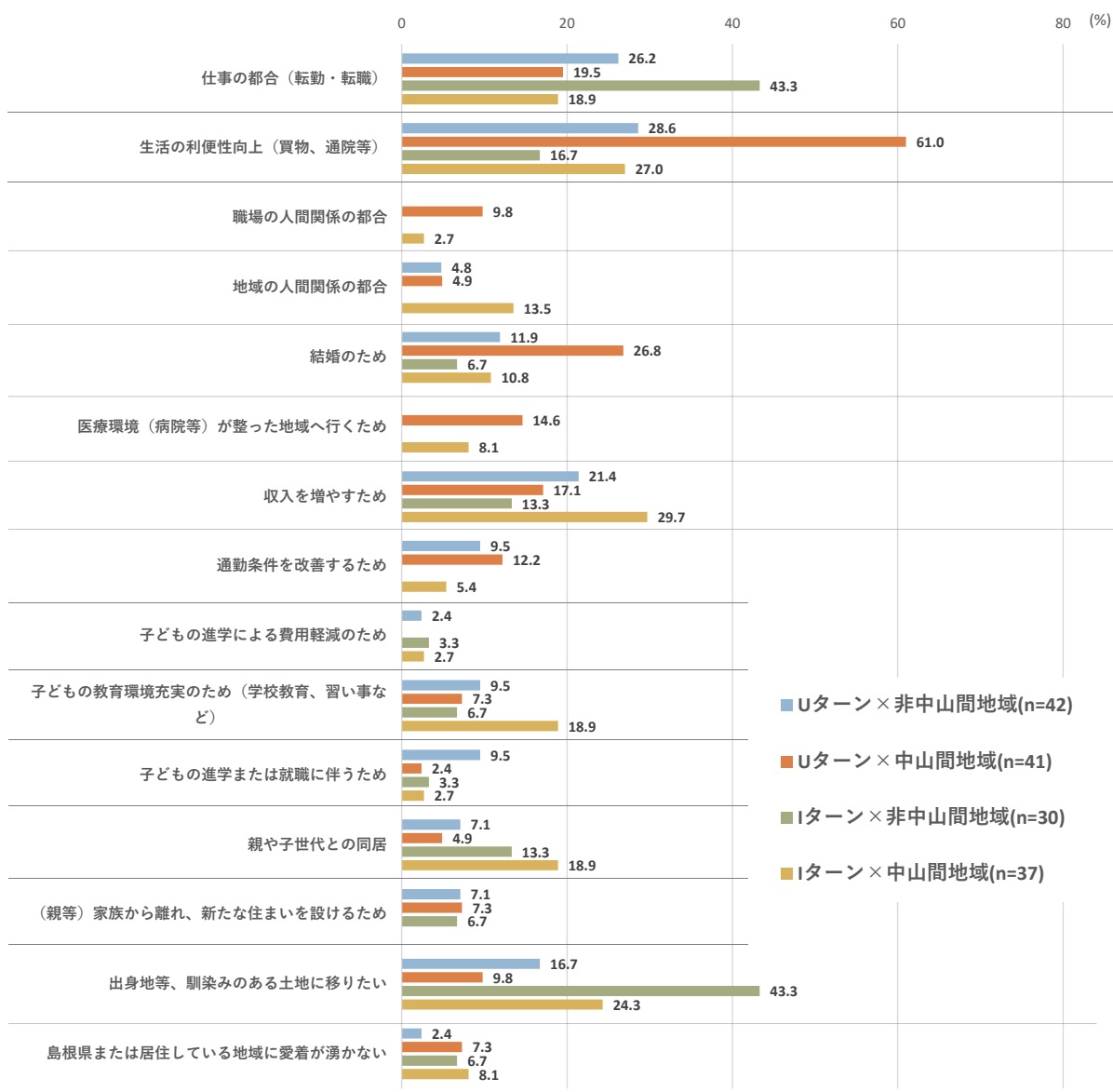


「居住継続意向の理由（定住継続意向が「当面は住むがいずれ移りたい」、「他地域に移りたい」の場合）」の単純集計（実践層）



「現住所」と「Uターン/Iターン」との多重クロス集計の結果をみると、属性による差異が大きいことが分かる。

居住継続意向で、「当面は住むがいずれ移りたい」と「他地域に移りたい」を合わせた割合は、「Iターン×現住所：中山間地域」が最も高かったが（35.5%）、「Iターン×現住所：中山間地域」で最も割合の高い理由は「収入を増やすため」29.7%となっている。



「現住所」と「Uターン/Iターン」×「居住継続意向の理由（定住継続意向が「当面は住むがいずれ移りたい」、「他地域に移りたい」の場合）」の多重クロス集計（実践層）

## 【ポイント】

- ・ 中山間地域へのIターン者は、多い順に「収入を増やすため」、「生活の利便性向上」、「出身地等、馴染みのある土地に移りたい」を移りたい理由としている。
- ・ 中山間地域へのUターン者は、61%が「生活の利便性向上」を移りたい理由としている。

## ヒアリング調査の結果

### 回答者属性の概要

No.	性別	年齢	出身	直前住所	現住所	家族構成
U-1	男性	35～39歳	浜田市	東京都	江津市	配偶者と2人
U-2	女性	35～39歳	松江市	東京都	松江市	子どもと2人
U-3	男性	40～44歳	雲南市	東京都	松江市	単身
U-4	女性	40～44歳	出雲市	神奈川県	松江市	単身
U-5	女性	40～44歳	浜田市	東京都	江津市	配偶者と2人
I-1	男性	25～29歳	東京都	東京都	出雲市	単身
I-2	女性	30～34歳	福岡県	福岡県	松江市	単身
I-3	女性	35～39歳	東京都	鳥取県	松江市	配偶者と2人

### Uターン者の傾向

- ・ Uターンのきっかけとしては、仕事、子育て環境、故郷への愛着など、直接的な要因はそれぞれ異なるものの、東日本大震災や新型コロナウイルスによる地方回帰の機運や、「転職なき移住」が許容される環境となったことを要因の一つに挙げていた。
- ・ 仕事を通じ、直接的・間接的に地域に関わる意識を持っている方が多かった。
- ・ 生活面では、医療体制や子育て支援制度などで移住前に比べて不十分と感じている様子が窺えた。また、高齢化が進展する中で、物流や交通などの社会インフラの維持を懸念する声もあった。

### Iターン者の傾向

- ・ Iターンのきっかけとしては、地方暮らしへの関心や、結婚に伴うものであった。
- ・ 移住後の暮らしについては、生活環境への適応に関しては個人差があるものの、満足度は総じて高い様子が窺えた。特に、地域社会との関わり、地域住民とのつながりに対して前向きに捉えている様子が窺えた。
- ・ 今後については、住み続けることを前提としながらも、好奇心が強く変化に対して前向きであり、将来的に島根県以外の地方での暮らしも選択肢として排除していない方もおられた。

### 【考察】

中山間地域へのIターン者の定住意向が低い理由は、地域に起因する要因というよりも「人生ステージによって居住する地域を移す、多拠点で居住する」といったライフスタイルに起因する可能性が考えられる。

※自由記述での意見：『複数（4地域）拠点での生活に移行していきたい。』

インタビュー意見：『子どもが未就学であったりするため、すぐに移住することはできないが、子どもが高校卒業するくらいには他の地域にもいってみたい。島根に不満があるのではなく好奇心から。』

## 移住検討層の調査結果

### 回答者属性の概要

		検討層	
対象者		島根県への移住の検討段階にある方 回答数 531	
回答者の概要	Uターン/Iターンの比率	「Uターン」 … 24.9% 「Iターン」 … 75.1%	
	性別	「男性」 … 57.3% 「女性」 … 42.7%	
	年齢	「20代」 … 11.5% 「30代」 … 38.8% 「40代」 … 25.2% 「50代」 … 18.5%	
	現住所	大阪府 … 20.5% 東京都 … 16.6% 神奈川県 … 8.7% 広島県 … 8.5%	関東 … 37.1% 近畿 … 32.8% 中国 … 12.2%

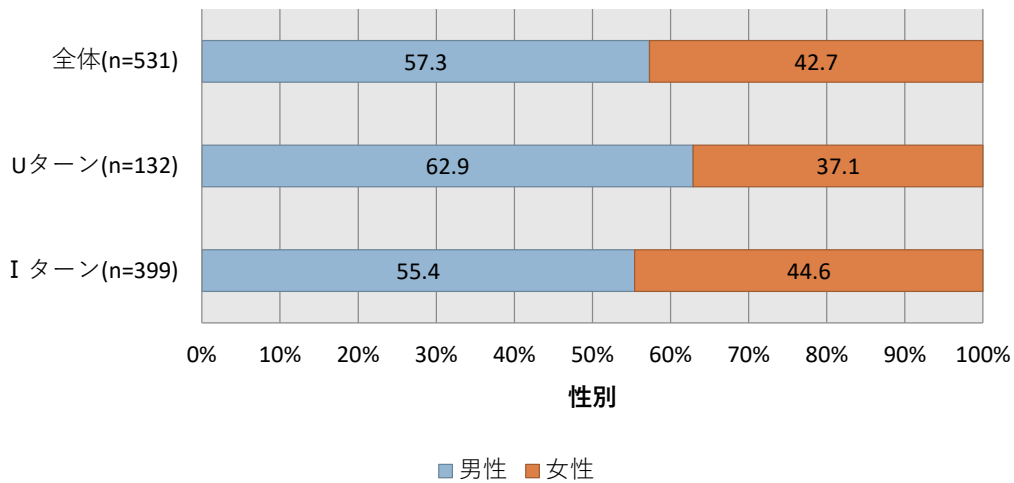
島根県への移住検討層の回答者属性を概観する。

#### Uターン/Iターン

Uターン/Iターンの比率をみると、「Uターン」が24.9%、「Iターン」が75.1%と、Iターンの割合が高い。

#### 性別

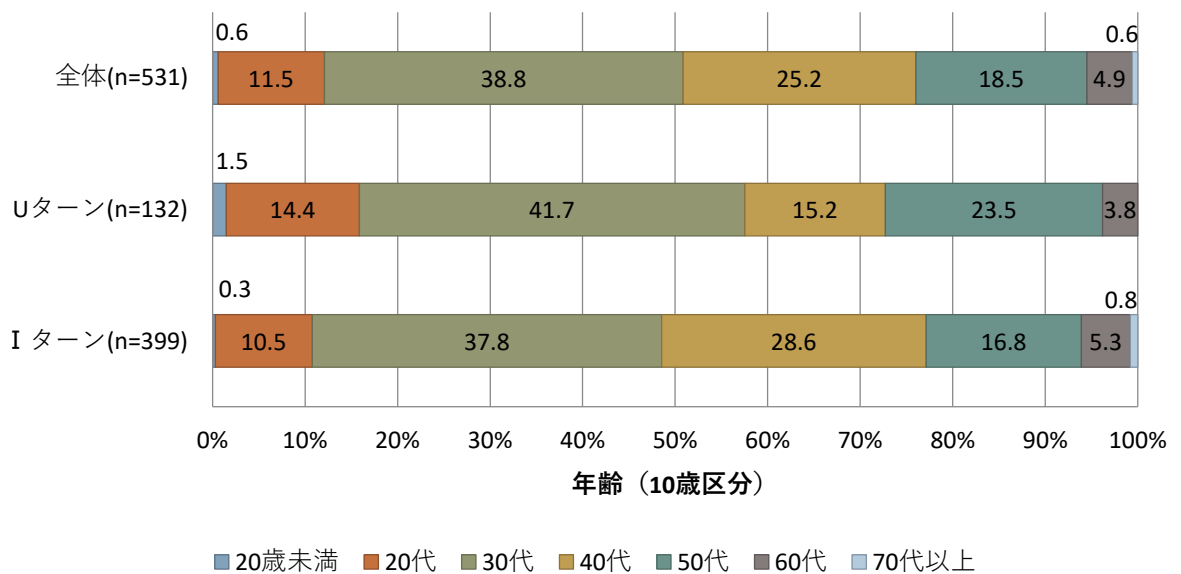
性別をみると、「男性」が57.3%、「女性」が42.7%で男性の割合がやや高い。なお、Uターン別に性別をみると、Uターン者でより男性割合が高い傾向にある。



「Uターン/Iターン」×「性別」のクロス集計（検討層）

### 年齢

年齢をみると、割合の高い順に「30代」が38.8%、「40代」が25.2%、「50代」が18.5%となった。「Uターン/Iターン」とのクロス集計では、Iターンで40代の割合が高い。

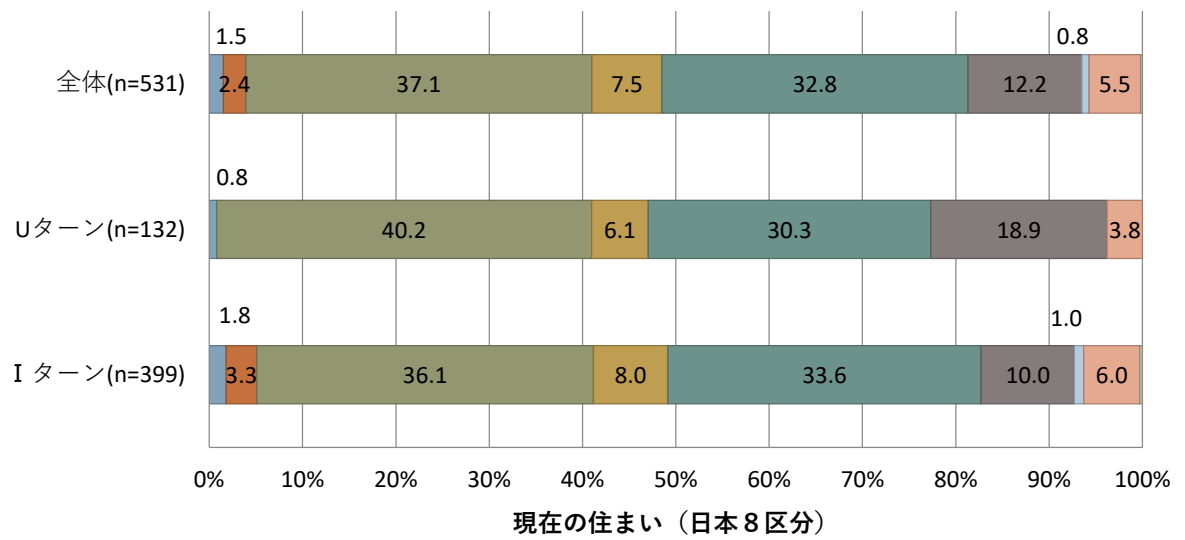


「Uターン/Iターン」×「年齢（10歳区分）」のクロス集計（検討層）

### 現住所

Uターン検討者、Iターン検討者ともに、最も割合が高いのは「関東」で、次に「近畿」である。

UターンとIターンとの差異は、Uターン検討者のほうが「中国」の割合が大きいことである。



■北海道 ■東北 ■関東 ■中部 ■近畿 ■中国 ■四国 ■九州 ■国外

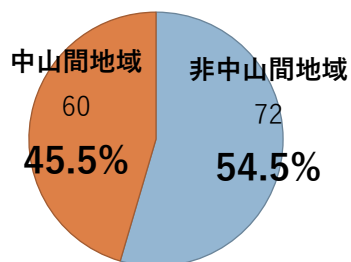
「Uターン/Iターン」×「現在の住まい（日本8区分）」のクロス集計（検討層）

## 出身地

### 【Uターン検討者】

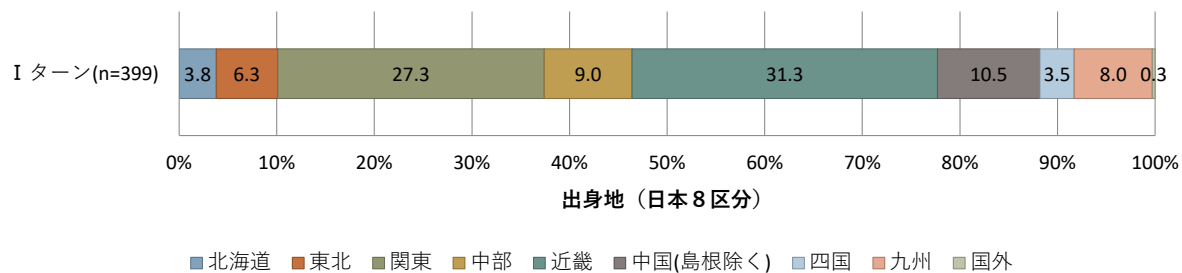
Uターン検討者の出身地を「非中山間地域」と「中山間地域」とに分けて以下に示す。  
出身地は、島根県の「非中山間地域」と「中山間地域」で半々程度である。

Uターン検討者(n=132)の出身地域



### 【Iターン検討者】

Iターン検討者の出身地を以下に示す。現住所は「関東」が最も多かったが、出身地では「近畿」31.3%、が最も多い。

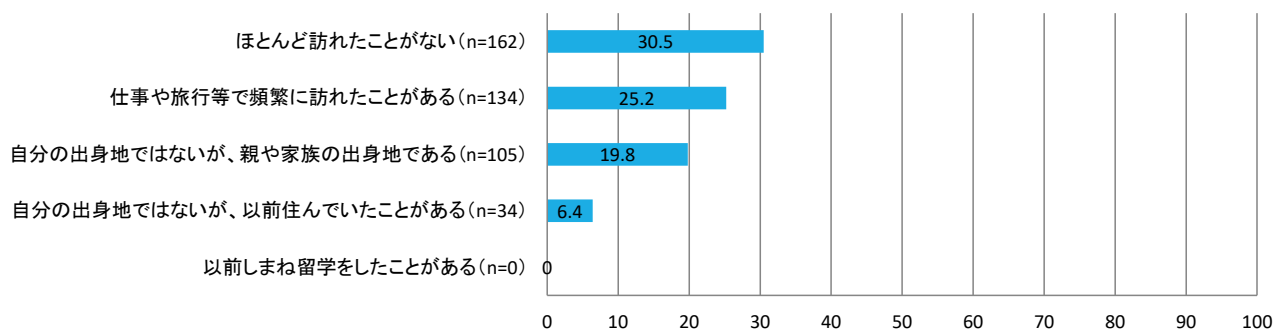


## 集計・分析の結果

### 島根県とはどのような関わりがありますか。(複数回答/Iターンのみ)

出身が島根県以外の方 (I ターン) への設問のため、I ターンのみを集計結果を示す。最も割合が大きかったのは「ほとんど訪れたことがない」30.5%、続いて、「仕事や旅行等で頻繁に訪れたことがある」25.2%となった。

また、しまね留学の経験者は0人であった。



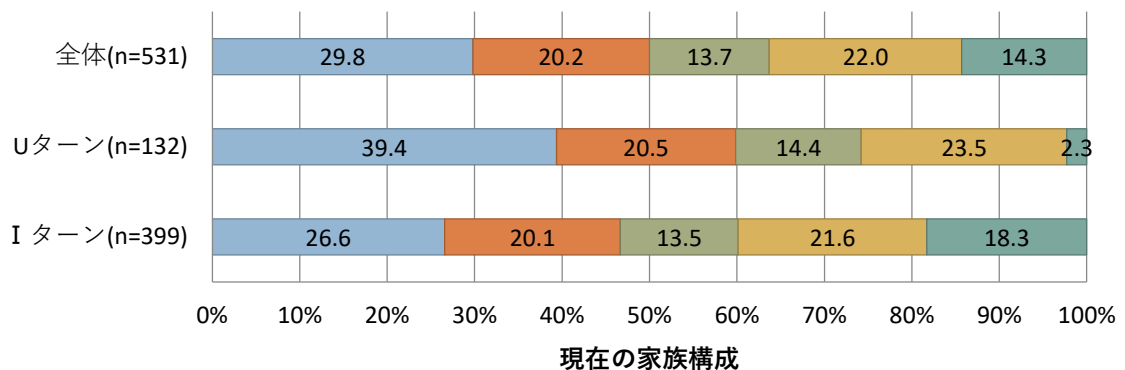
「島根県との関わり」の単純集計 (検討層/Iターンのみ)

### 現在の家族構成

実践層と同様に、調査票の設問「一緒に移住した家族の構成 (複数回答)」及び「当時の子どもの年齢」に基づいて、移住の際の家族構成を「自分1人」、「配偶者と2人」、「子どもを含む家族 (第1子が未就学)」、「子どもを含む家族 (第1子が小学生以上)」、「その他」の5分類を示す。

全体の傾向をみると、最も割合が大きいの「自分1人」で29.8%である。実践層でも「自分1人」が最も割合が高かった (59.6%) が、検討層の場合は約3割であり、実践層よりも単身者の割合は少ない。

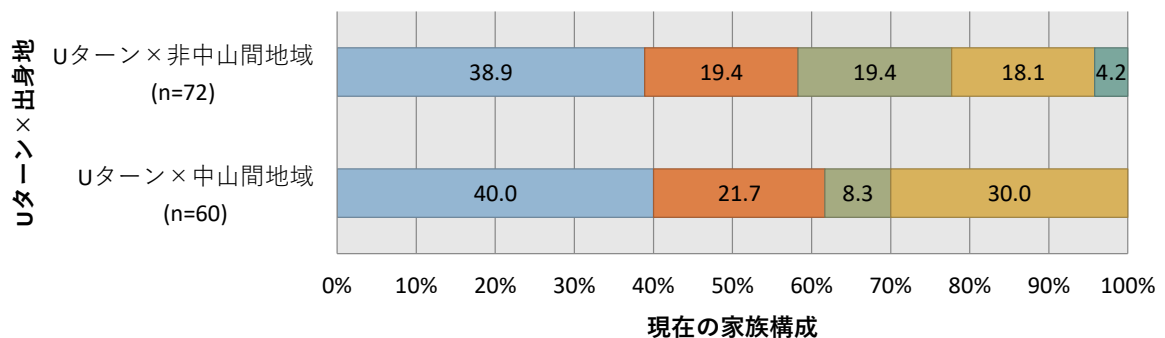
「Uターン/Iターン」のクロス集計をみると、「自分1人」の割合はUターン者のほうが高く、実践層と同様の傾向である。



- 自分1人
- 配偶者と2人
- 子ども含む家族（第1子が未就学）
- 子ども含む家族（第1子が小学生以上）
- その他

「Uターン/Iターン」×「移住の際の家族構成」のクロス集計（検討層）

以下は、Uターンの検討者について、出身地を「非中山間地域」と「中山間地域」とに分けたクロス集計である。着目できる差異は、出身地が中山間地域の場合は、第1子が小学生以上の子どもを含む家族の割合が30.0%で、第1子が未就学の子どもを含む家族の割合が8.3%であるのに対して、非中山間地域の場合はその割合が逆転し、第1子が未就学の子どもを含む家族の割合が19.4%と高くなっている点である。



- 自分1人
- 配偶者と2人
- 子ども含む家族（第1子が未就学）
- 子ども含む家族（第1子が小学生以上）
- その他

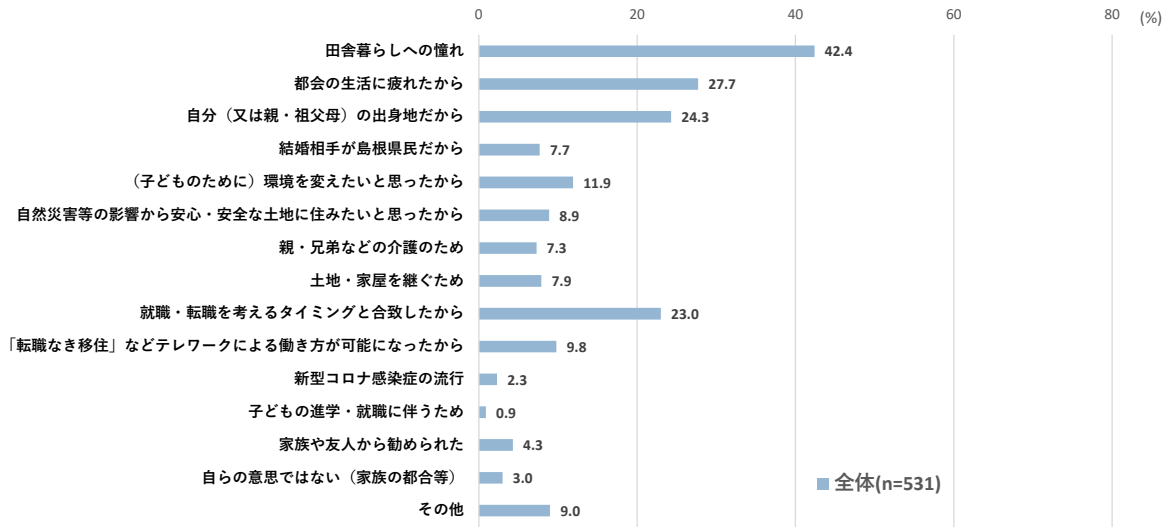
「Uターン×出身地」×「現在の家族構成」のクロス集計（検討層）

### UIターンを考えるようになった動機(複数回答)

「UIターンを考えるようになった動機（複数回答）」について、単純集計から検討層の全体の傾向をみると、最も割合が高いのが「田舎暮らしへの憧れ」42.4%、次が「都会の生活に疲れたから」27.7%となっている。これは、出身地と就職・転職が最も大きな割合となっ

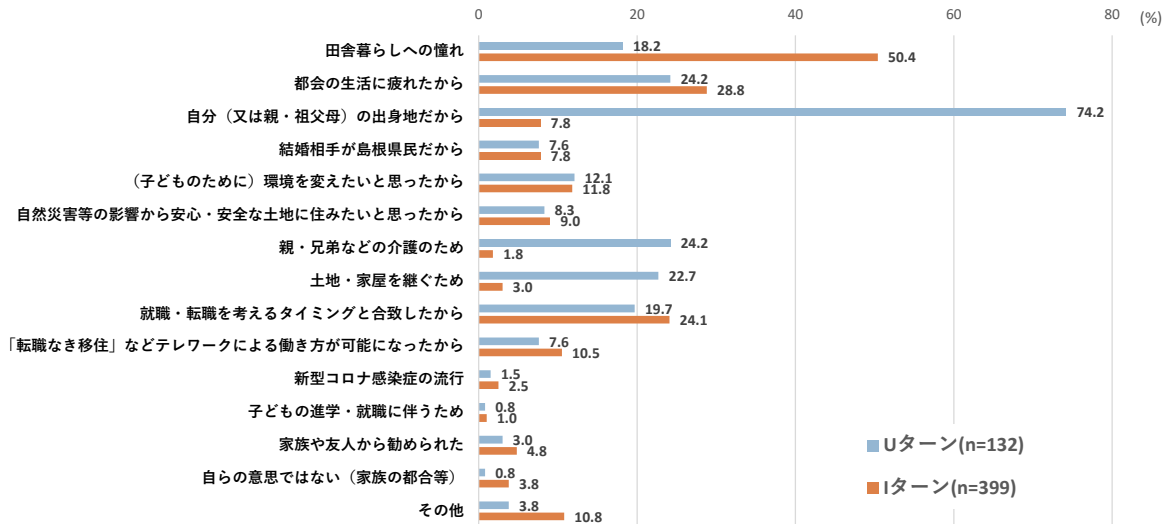


た実践層と大きく異なる結果である。



「UIターンを考えるようになった動機」の単純集計（検討層）

「Uターン/Iターン」のクロス集計をみると、「田舎暮らしへの憧れ」、「都会の生活に疲れたから」は、UIターン双方ともに実践層よりも割合が増えているが、特にIターンの割合が大きく増えていることが分かる。Iターンの動機は、実践層では上位2つが「就職・転職のタイミングと合致」、「結婚相手が島根県民だから」だったが、検討層では上の2つが1位と2位になる結果となった。



「Uターン/Iターン」×「UIターンを考えるようになった動機」のクロス集計（検討層）

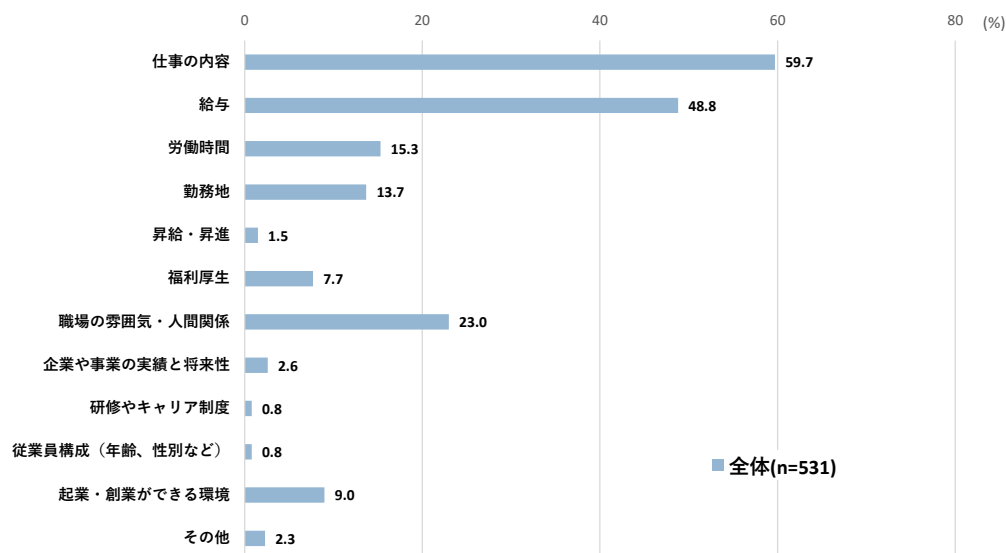
### 【ポイント】

- ・ 実践層と比較して、検討層の動機は「田舎暮らしへの憧れ」と「都会の生活に疲れたから」が多い。
  - ・ Iターン検討者の最大の検討動機が「田舎暮らしへの憧れ」で50.4%（実践層の2.6倍）。
  - ・ 「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」はUIターン者ともに実践層の半分の割合に減少。
  - ・ Uターン者の「介護のため」と「土地・家族を継ぐため」は、実践層の約2倍の割合となっている。
- ⇒ 憧れやスローライフだけを動機として移住を実践に移す人は少なく、検討段階から実践段階に進むための最も大きなステップアップ要因は、「就職・転職を考えるタイミング」であると考えられる。

## UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目(複数回答/最大2つ)

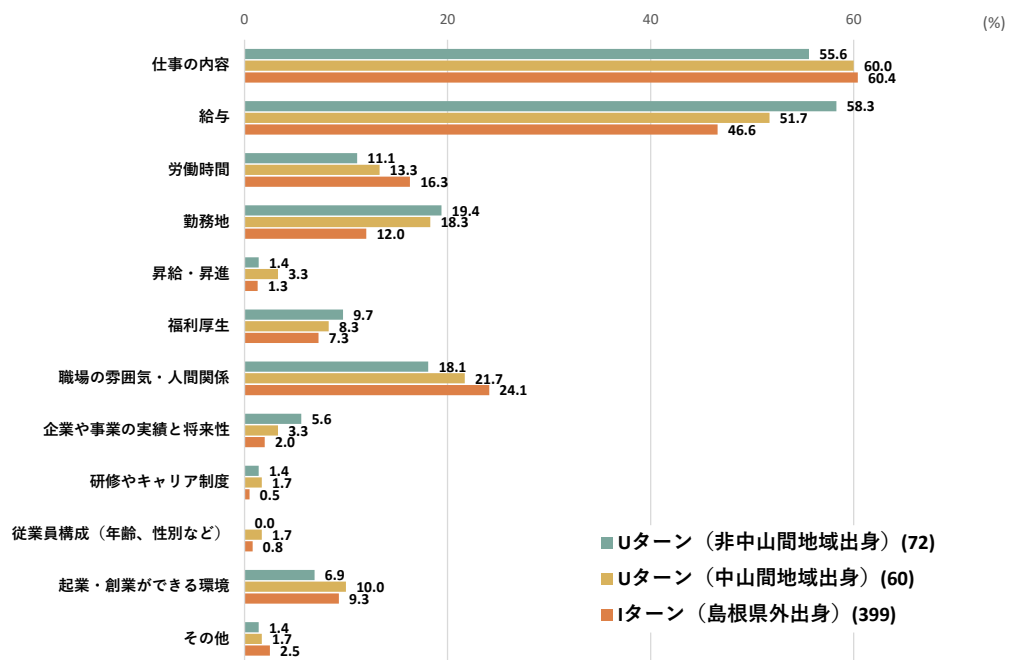
### 【仕事に関すること】

UI ターン後の生活で特に重視する項目は、全体の傾向として「仕事の内容」、「給与」が大きな割合を占める。



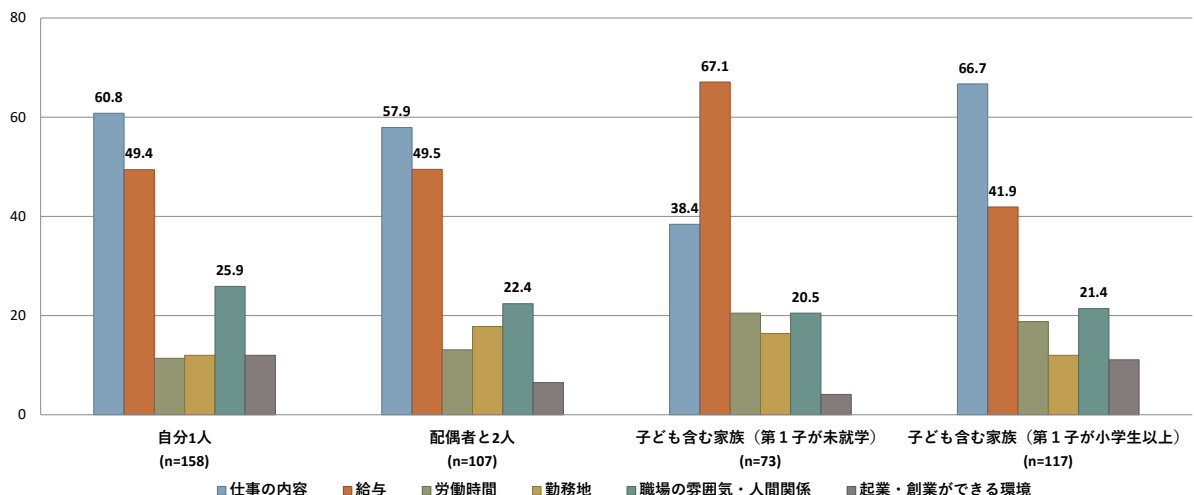
「UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目 (仕事)」の単純集計 (検討層)

「出身地」とのクロス集計をみると、大きな傾向は同様であるが、非中山間地域出身の U ターン者は「仕事の内容」よりも「給与」を重視する、I ターン者は「仕事の内容」、「労働時間」、「職場の雰囲気・人間関係」を U ターン者よりも重視する、などの細かな差異がみられる。



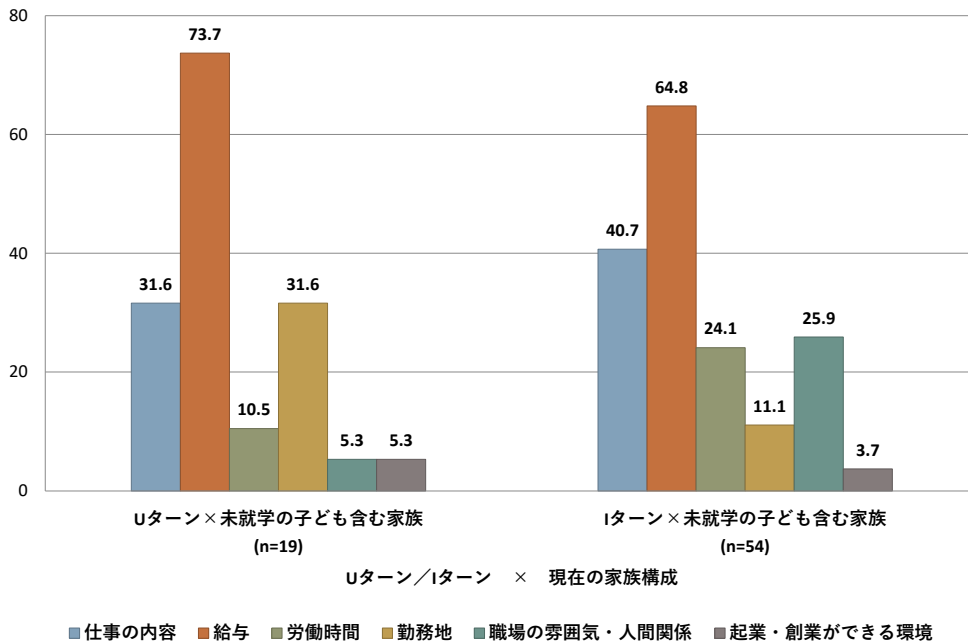
「出身地」×「UIターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目（仕事）」のクロス集計  
 計  
 （検討層）

また、結果の差異が大きくなる属性として「現在の家族構成」が抽出された。「現在の家族構成」とのクロス集計をみると、「子どもを含む家族（第1子が未就学）」で、「給与」の割合が突出して高くなっていることが分かる（67.4%）。このグループでは他グループで第1位の「仕事の内容」も38.4%と低くなっている。子どもを含む家族の場合でも、第1子が小学生以上の場合には上記の傾向が見られない点に着目できる。



「現在の家族構成」×「UIターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目（仕事）」の  
 クロス集計（検討層）※上位6項目の選択肢を抜粋

さらに、「子どもを含む家族（第1子が未就学）」について、さらにUターン/Iターンとのクロス集計をとると、「給与」を最も重視するという傾向がUターン者でより強くなっていることが分かる。



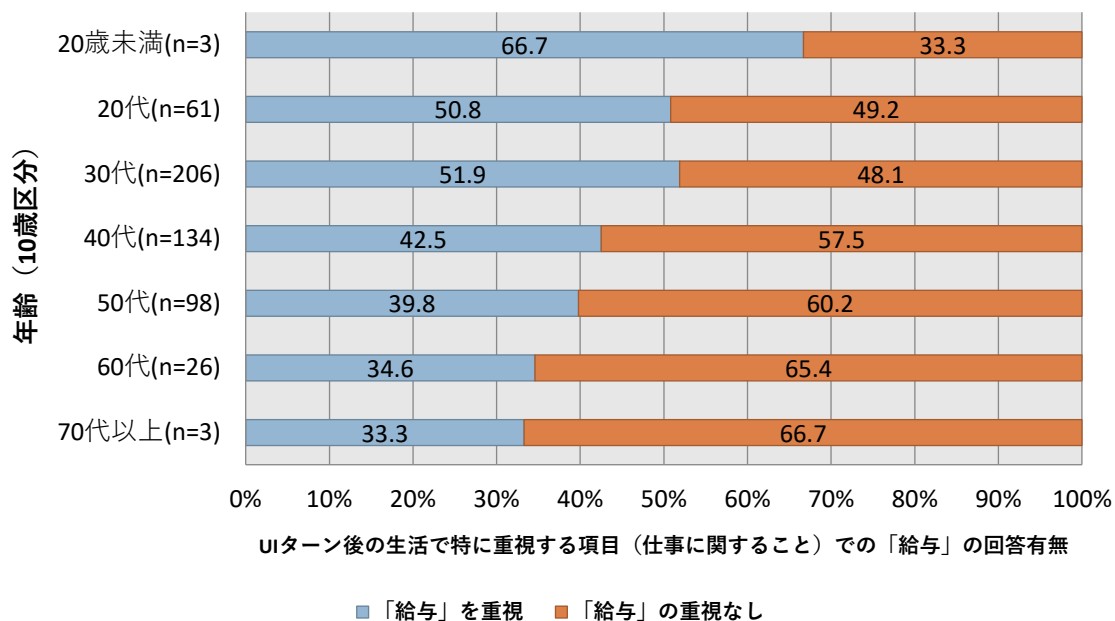
「子どもを含む家族（第1子が未就学）」×「Uターン/Iターン」クロス集計（検討層）

## ■ 「給与」に関する詳細分析

「UI ターン後の生活で特に重視する項目（仕事に関すること）」の設問において、「給与」を重視項目として選択したかどうかで、回答者を二分した。

下に「年齢（10歳区分）」と「給与の回答有無」のクロス集計を示す。年代が上がるにつれて、「給与」を重視の割合が減少する、即ち、年代が上がるほど「給与」を重要視しなくなる傾向があることが分かる。

ただし、詳しく見ると20代から30代にかけては、30代のほうがわずかに「給与」を重要視している。

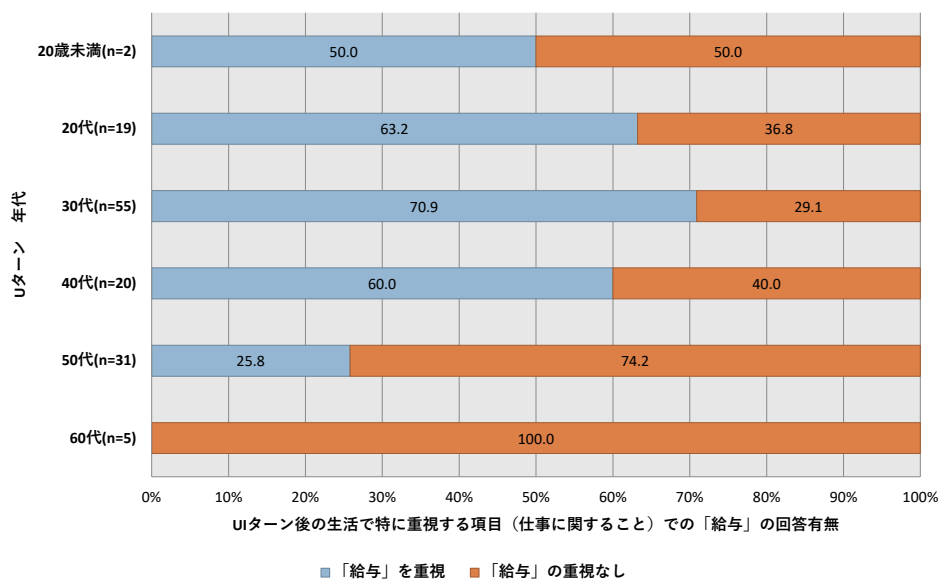


「年齢（10歳区分）」×「UI ターン後の生活で特に重視する項目（仕事に関すること）」での「給与」の回答有無」のクロス集計（検討層）

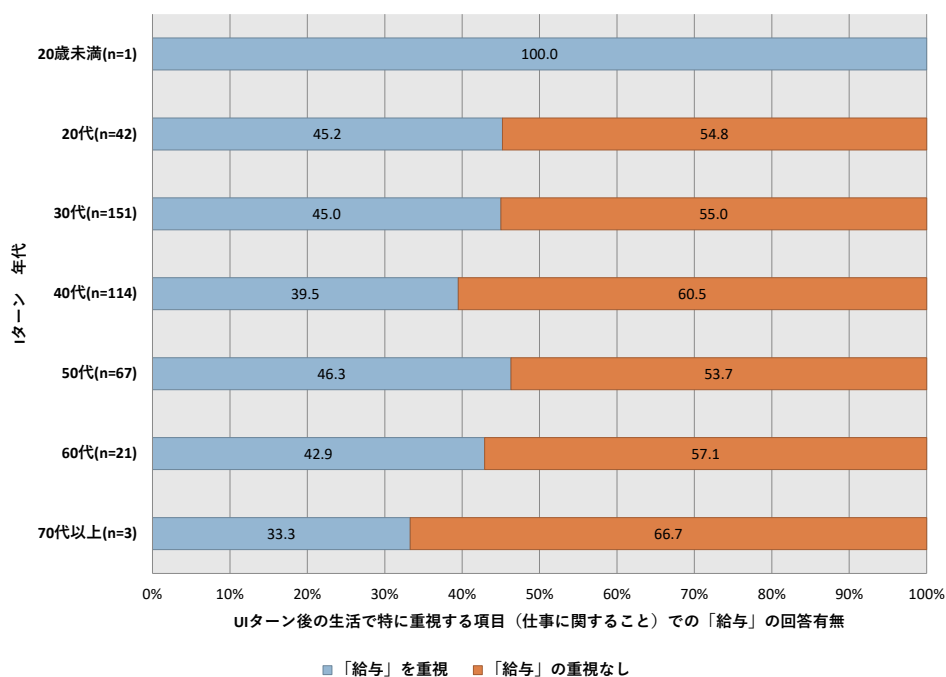
Uターン/Iターン別のクロス集計を以下に示す。

年代が上がるにつれて「給与」を重要視する傾向は、特に U ターン検討者に顕著であることが分かる。

U ターン検討者は「30 代」で最も「給与」を重視しており、「30 代」で給与を重視する割合は 70.9%である。



Uターン：「年齢（10 歳区分）」×「UI ターン後の生活で特に重視する項目（仕事に関すること）での「給与」の回答有無」のクロス集計（検討層）



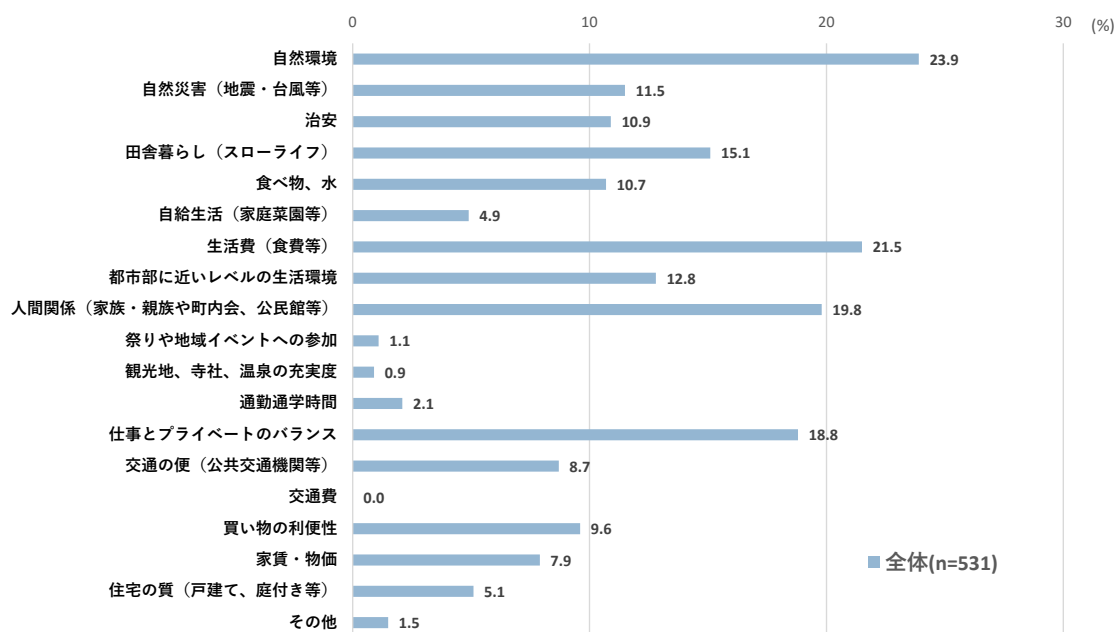
Iターン:「年齢(10歳区分)」×「UIターン後の生活で特に重視する項目(仕事に関すること)での「給与」の回答有無」のクロス集計(検討層)

### 【考察】

- UIターンの検討段階にある人のうち、Uターン検討者はIターン検討者に比べて「給与」に代表される現実的な項目を重視している。
- Iターン検討者は、「労働時間」や「職場の環境・雰囲気」のように仕事の環境面に關わる項目をより重視している。
- 「給与」のような現実的な項目を重視するかどうか強く影響を与える要因は、子どもが居り第1子が未就学かどうか、である。現実的な項目を重視していることは、UIターン検討をより本気で考えていると考えるのではないかと推察される。実践層で、実際にUIターンした家族構成で単身者に続いて割合が高かったのが「第1子が未就学の子どもを含む家族」であったことは、それを示唆している。

### 【生活環境に関すること】

生活環境に関する重視項目について、全体の傾向をみると、「自然環境」が23.9%で1位、次いで「生活費」21.5%、「人間関係」19.8%、「仕事とプライベートのバランス」18.8%である。

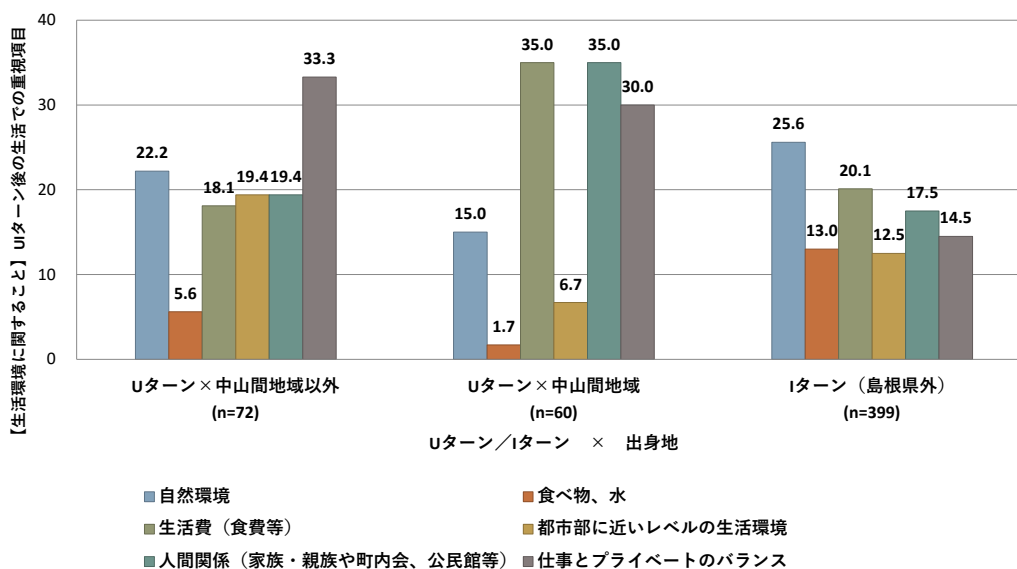


「UIターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目(生活環境)」の単純集計(検討層)

「出身地」とのクロス集計(上位6項目を抜粋)をみると、出身地属性によって傾向が大



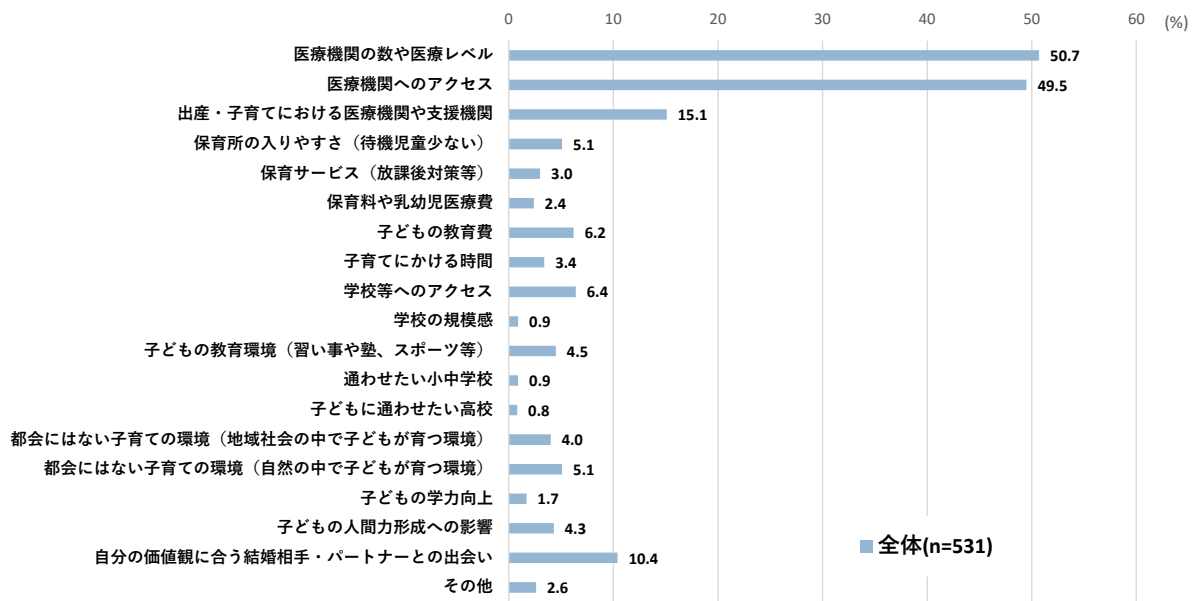
大きく異なることが分かる。島根県の非中山間地域の出身者が最も重視するのは「仕事とプライベートのバランス」33.3%、島根県の中山間地域の出身者が最も重視するのは「生活費（食費等）」と「人間関係（家族・親戚や町内会、公民館等）」35.0%、島根県外出身者が最も重視するのは「自然環境」25.6%、という結果となった。



「出身地」×「UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目（生活環境）」のクロス集計（検討層）※上位6項目の選択肢を抜粋

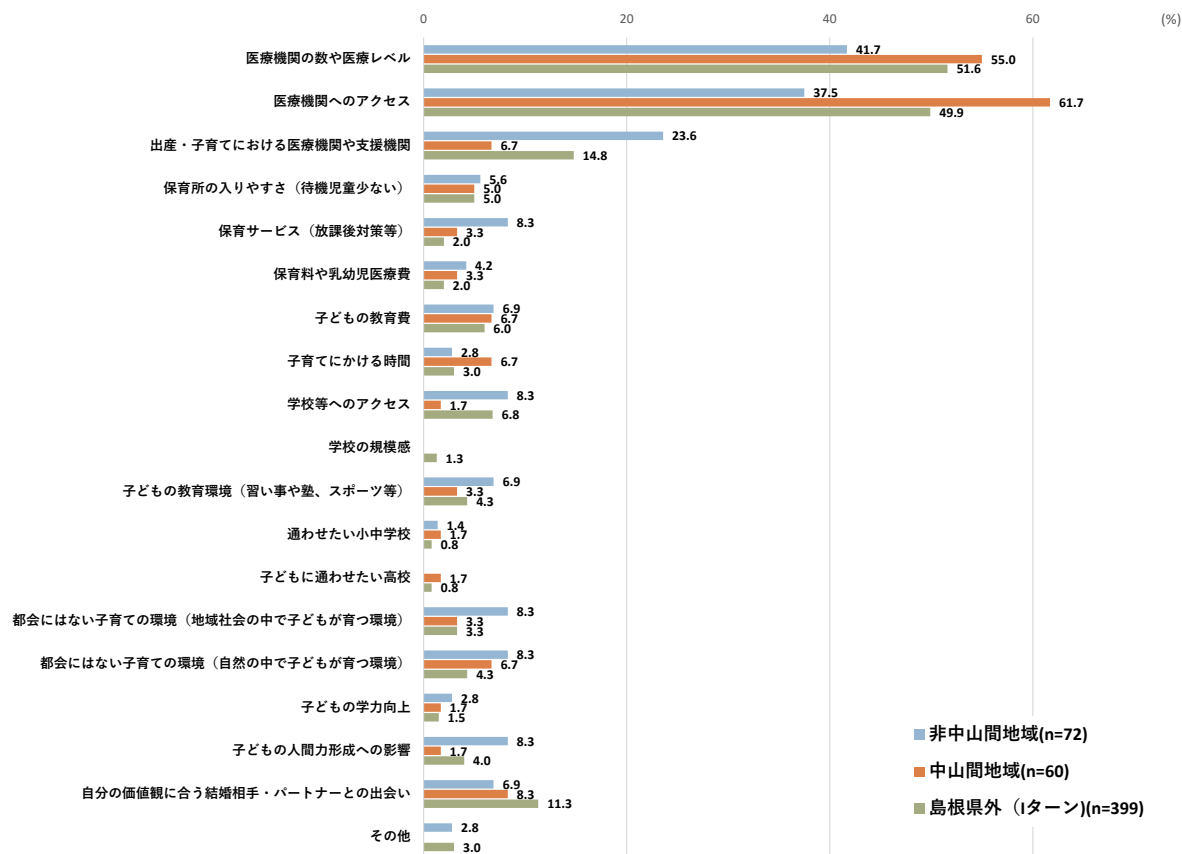
#### 【医療福祉、教育・子育てに関すること】

単純集計による全体の傾向は、大半が「医療機関の数や医療レベル」、「医療機関へのアクセス」を重視していることである。



「UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目（医療福祉、教育・子育て）」の単  
純集計（検討層）

出身地とのクロス集計をみると、各グループとも「医療機関の数や医療レベル」、「医療機関へのアクセス」を重視している傾向は同様だが、島根県の中山間地域出身者がより重要視しており、特に「医療機関へのアクセス」は61.7%となっている。



「出身地」×「UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目(医療福祉、教育・子育て)」のクロス集計(検討層)

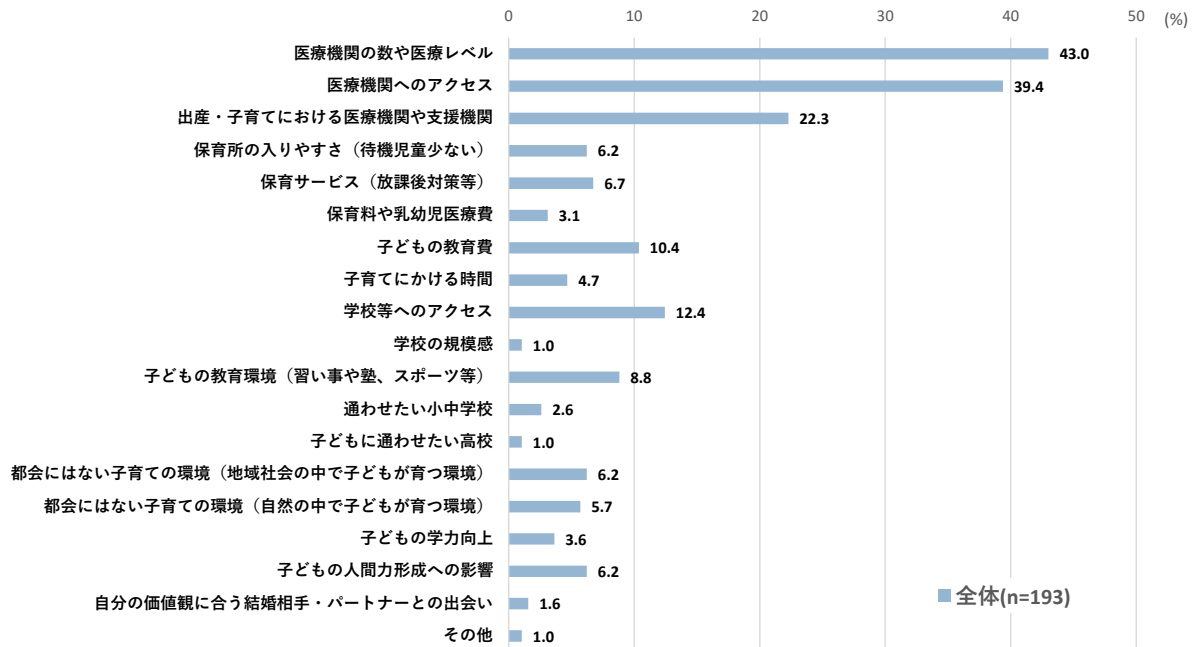
## ■ 「子の有無」に関する詳細分析

本設問は医療福祉、子育て・教育に関する設問であるが、上でみたように全体の回答が「医療福祉」分野の医療機関に関する選択肢に集中した。そこで、「子育て・教育」分野の回答傾向を詳細に把握するため、ここでは、回答者を「子の有無」によって二分し、子がある回答者についての結果を示す。

移住検討層 531 人のうち、子が居るのは 193 人である。

子が居る場合の全体の傾向をみると、「医療機関の数や医療レベル」43.0%、「医療機関へのアクセス」39.4%、が上位にくることは先の全体の単純集計と同様である。

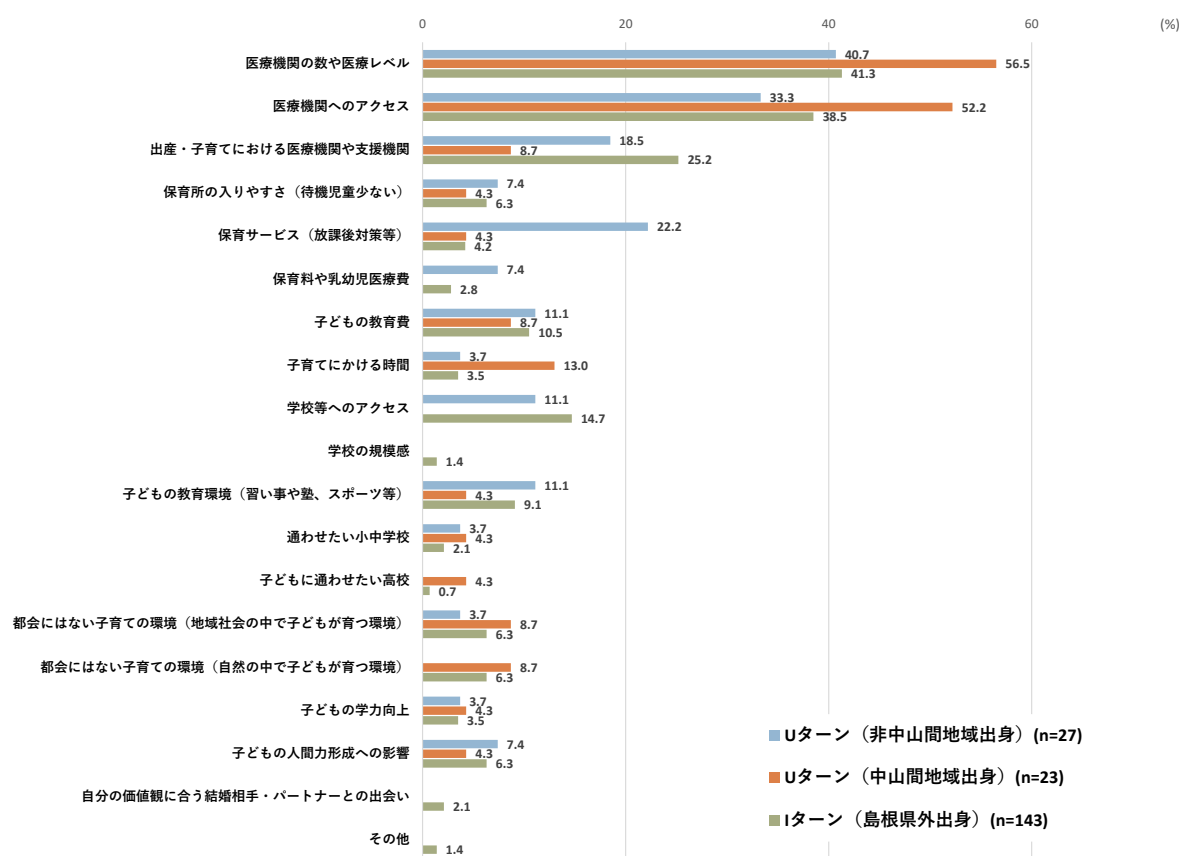
「子育て・教育」の分野では、「出産・子育てにおける医療機関や支援機関」22.3%、「子どもの教育費」10.4%、「学校へのアクセス」12.4%、といった項目について、割合が比較的高くなる。



「UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目（医療福祉、教育・子育て）」の単純集計（検討層 | 子が居る場合）

子が居る場合の、出身地とのクロス集計により、非中山間地域／中山間地域、県外出身者との差異をみると、「教育・子育て」分野について、「非中山間地域（松江・出雲の市部）」出身者は「保育サービス（放課後対策等）」22.0%、「中山間地域」出身者は「子育てにかかる時間」13.0%、県外出身者（Iターン検討者）は「出産・子育てにおける医療機関や支援機関」25.2%、を特に重視する結果となっている。

他に、「中山間地域出身者」は、「学校へのアクセス」、「子どもの教育環境（習い事や塾、スポーツ等）」を重視する割合が、他のグループより低いことが読み取れる。



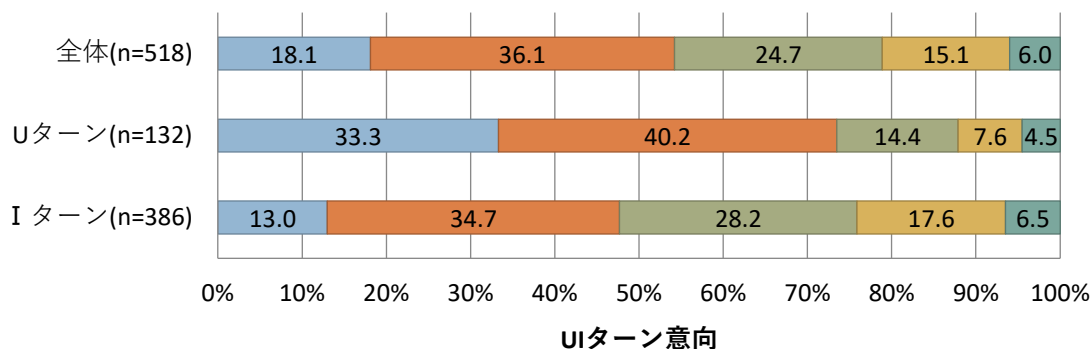
「出身地」×「UIターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目（医療福祉、教育・子育て）」のクロス集計（検討層|子が居る場合）

### 【ポイント】

- ・ Uターン、Iターンとも、「医療機関の数や医療レベル」「医療機関へのアクセス」を重視しており、子育て分野よりも、医療分野が重視されている。
- ・ 非中山間地域出身のUターン検討者は、「保育サービス（放課後対策等）」を重視する。（22.0%）
- ・ 中山間地域出身のUターン検討者は、「子育てにかかる時間」を重視する。（13.0%）
- ・ Iターン検討者は、「出産・子育てにおける医療機関や支援機関」を重視する。（25.2%）

### あなたは島根県へのUIターンについて、どの程度意思を固めていますか

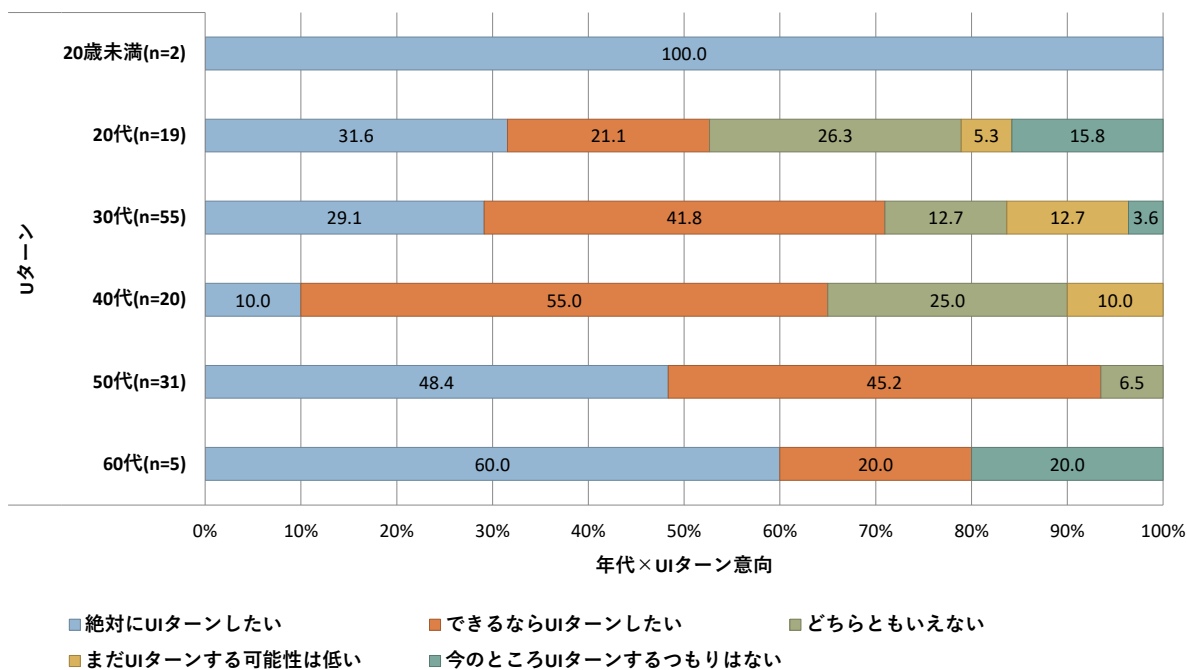
今後のUIターン意向（UIターンへの意思の程度）について、Uターン/Iターン別にみると、Uターン検討者のほうがIターン検討者に比べて「絶対にUIターンしたい」と「できるならUIターンしたい」の割合が高く、UIターンの意思が高い。



- 絶対にUIターンしたい
- できるならUIターンしたい
- どちらともいえない
- まだUIターンする可能性は低い
- 今のところUIターンするつもりはない

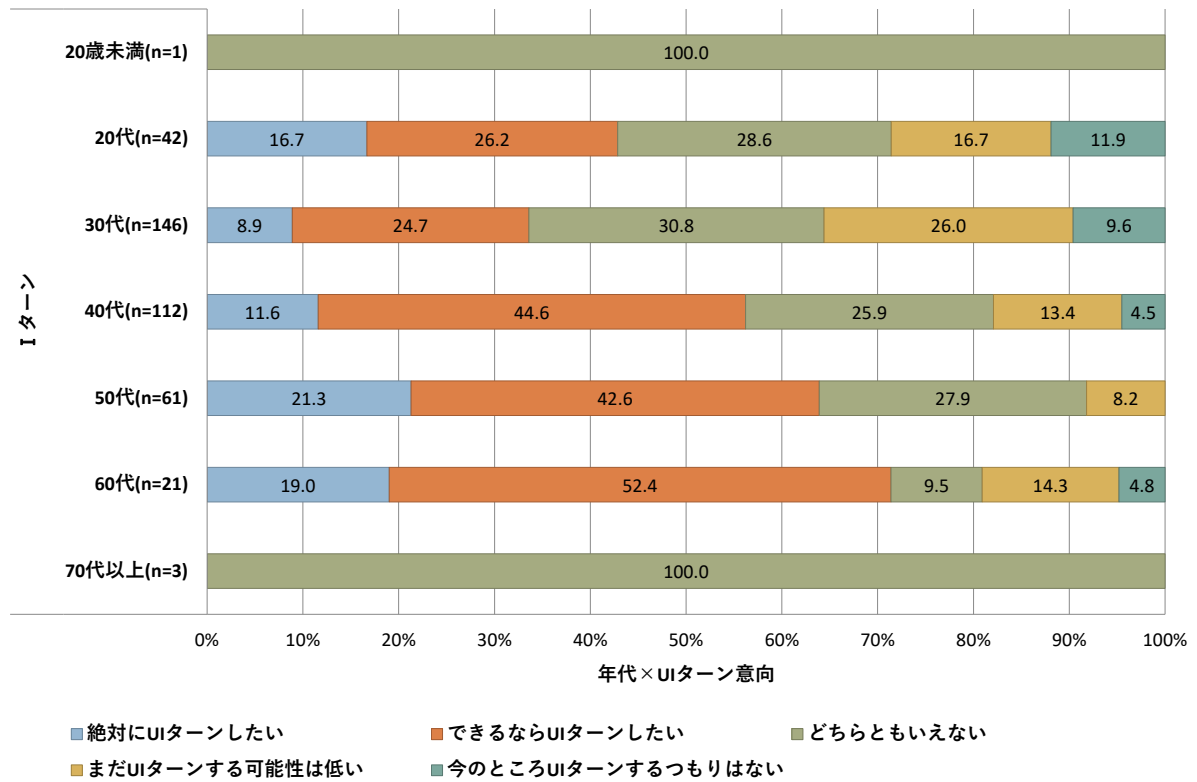
「Uターン/Iターン」×「今後のUIターン意向」のクロス集計（検討層）

次に、「Uターン/Iターン」×「年代」との多重クロス集計の結果を示す。



Uターン：「年代」×「今後のUIターン意向」のクロス集計（検討層）





Iターン：「年代」×「今後のUIターン意向」のクロス集計（検討層）

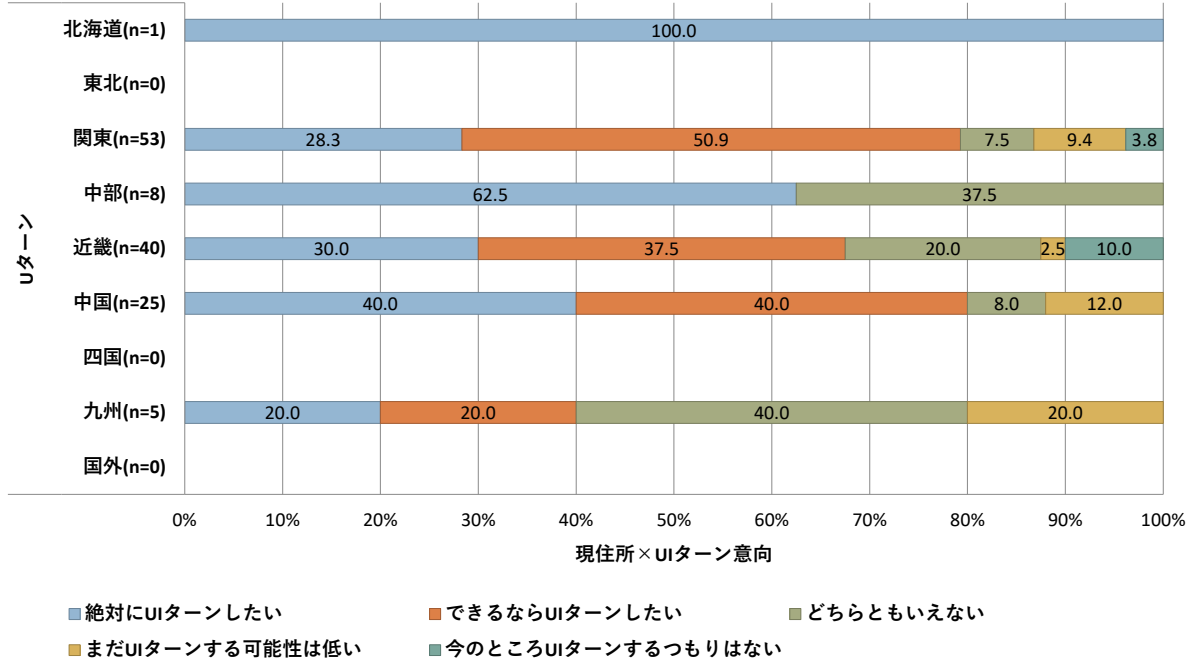
大まかに見て、Uターン検討者、Iターン検討者とも、年代が上がるにつれてUIターンの意思が高くなる傾向にある。特に、Uターン検討者の「50代」は「絶対にUIターンしたい」と「できるならUIターンしたい」を合わせて9割を超える割合となっており、極めて高い意思を持っている。

詳しくみると、Uターン検討者では「40代」、Iターン検討者では「30代」で、UIターン意思が低くなっている。

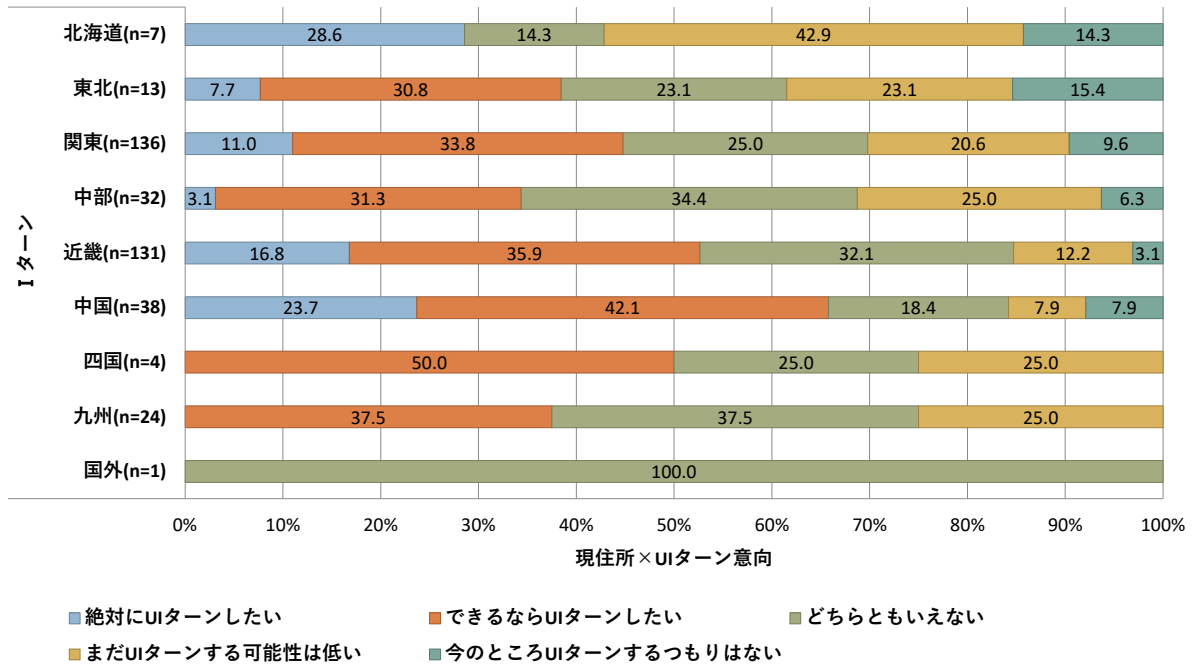


「Uターン/Iターン」×「現住所」との多重クロス集計の結果を示す。

Uターン検討者では、意向が高いのは「関東」と「中国」で、Iターン検討者では「中国」となっている。



Uターン：「現住所」×「今後のUIターン意向」のクロス集計（検討層）



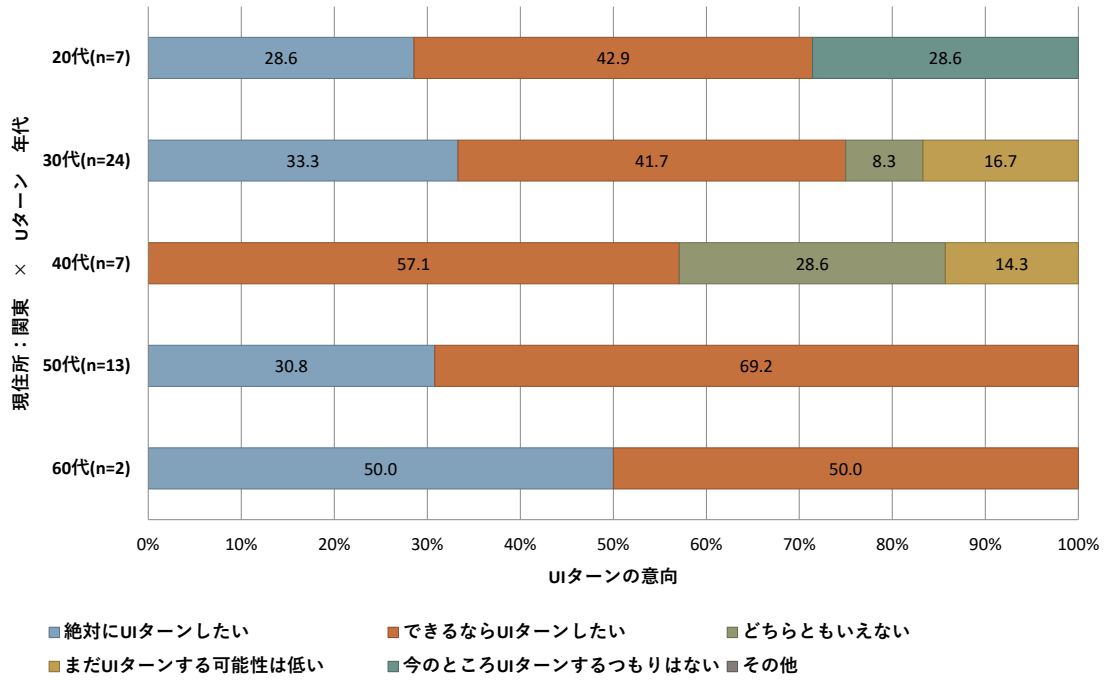
Iターン：「現住所」×「今後のUIターン意向」のクロス集計（検討層）



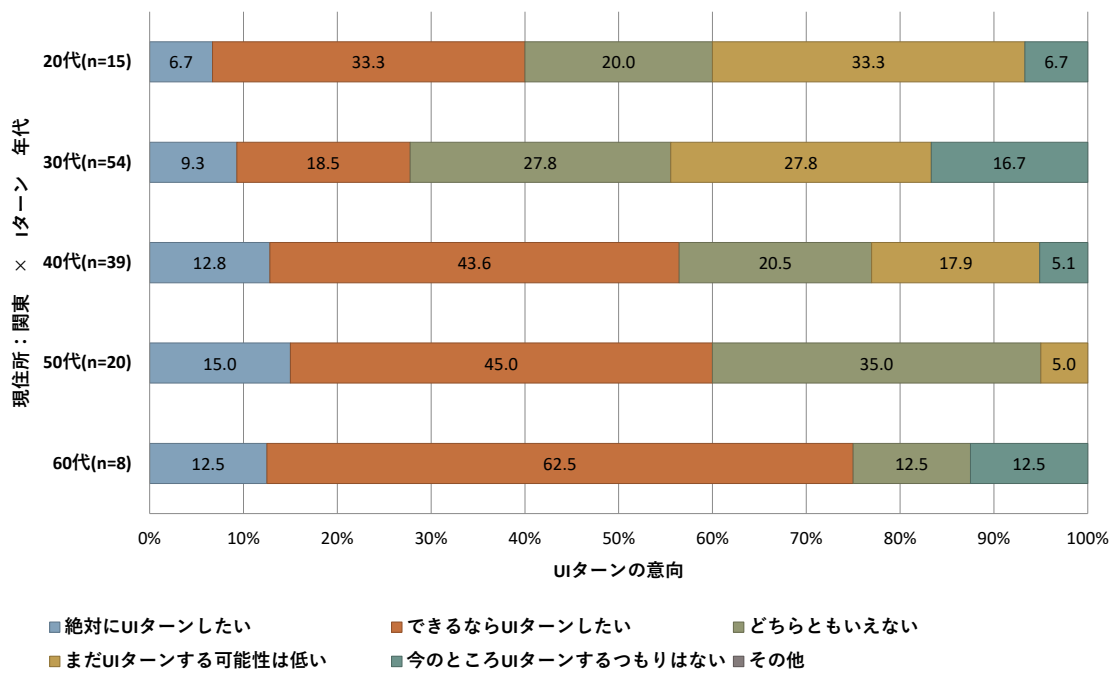
■現住所が「関東」と「近畿」の場合のUIターン意向

移住検討者の「現住所」として上位2つの「関東」、「近畿」について、そのUIターン意向の年代別詳細を以下に示す。

○現住所：関東

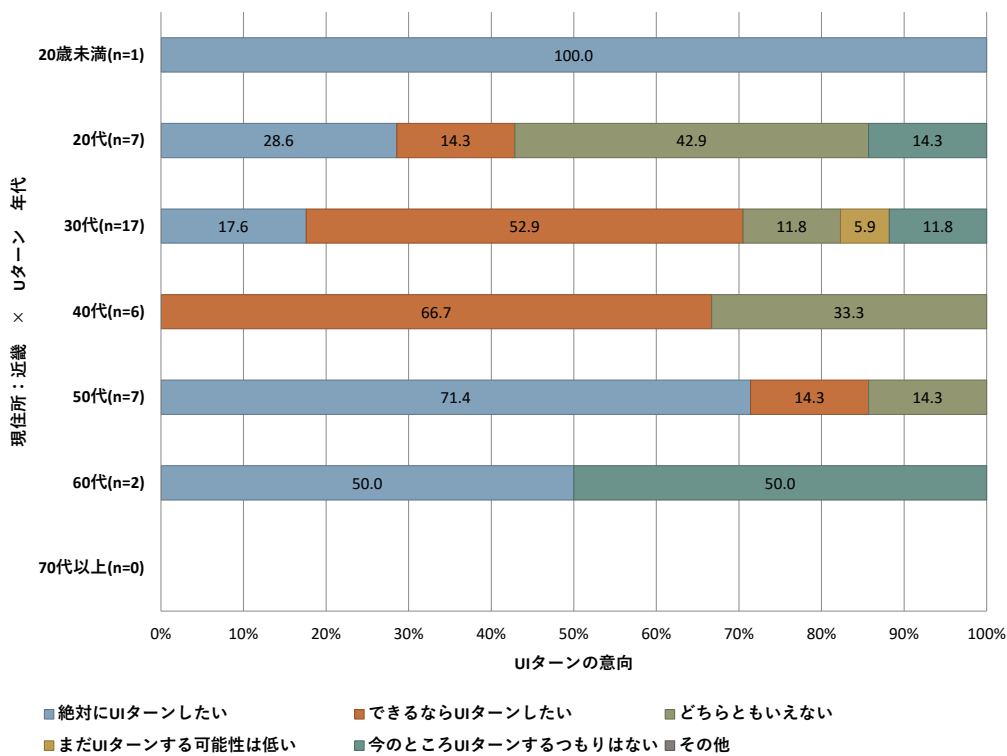


現住所：関東 × Uターン

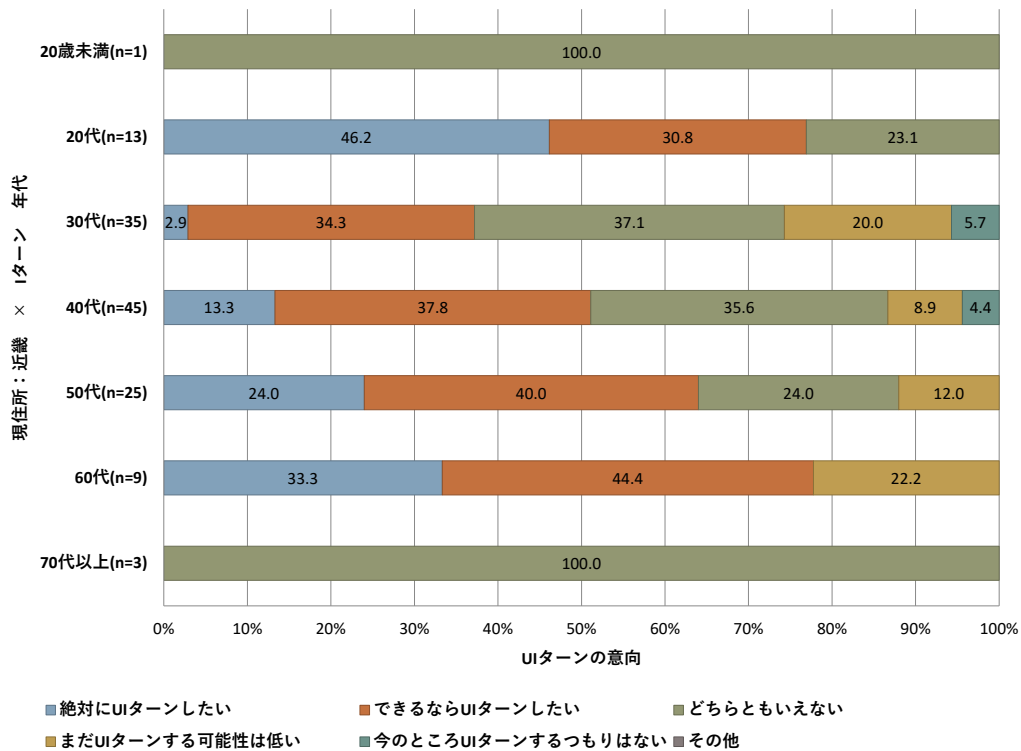


現住所：関東 × Iターン

○現住所：近畿



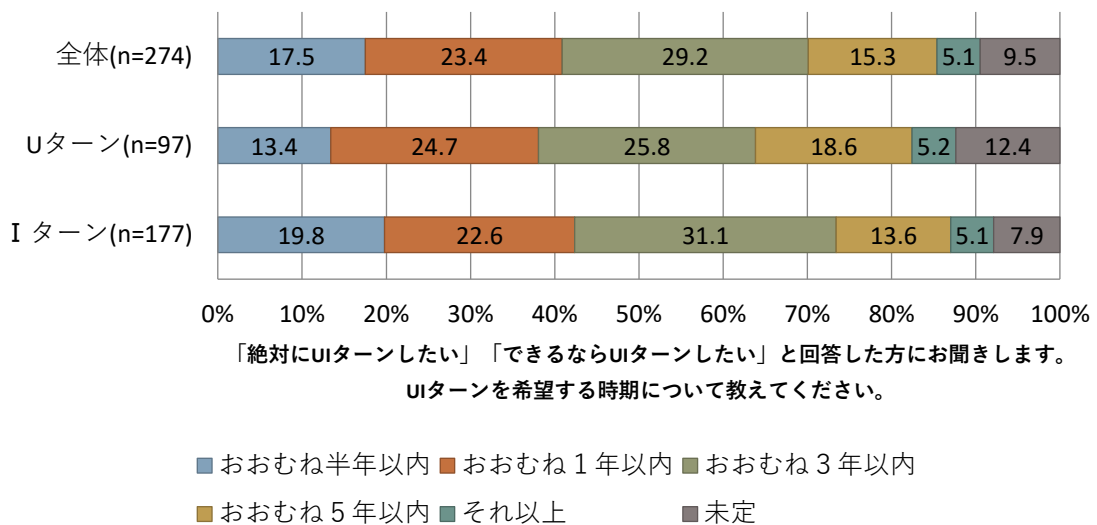
現住所：近畿 × Uターン



現住所：近畿 × Iターン

「絶対にUIターンしたい」「できるならUIターンしたい」と回答した方にお聞きます。UIターンの希望する時期について教えてください

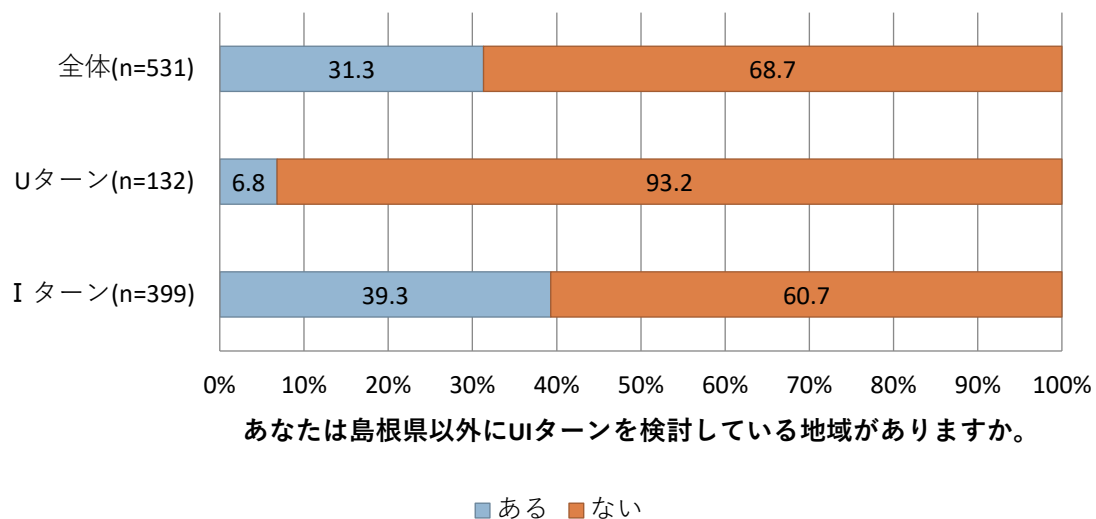
上の「今後のUIターン意向」では、Uターン検討者のほうがIターン検討者よりも、UIターン意向が高かったが、希望する時期についてのクロス集計をみると、Iターン検討者のほうがUターン検討者に比べて近い時期のUIターンの希望している。



「Uターン/Iターン」 × 「UIターンの希望する時期」のクロス集計 (検討層)

### あなたは島根県以外にUIターンを検討している地域がありますか

UIターン検討地域の有無の結果をみると、Uターン検討者は9割以上が「ない」と答えている。また、Iターン検討者は「ない」が6割程度であり、島根県のみをIターン先として検討している人が過半数を占めている。



「Uターン/Iターン」×「UIターン検討地域の有無」のクロス集計（検討層）

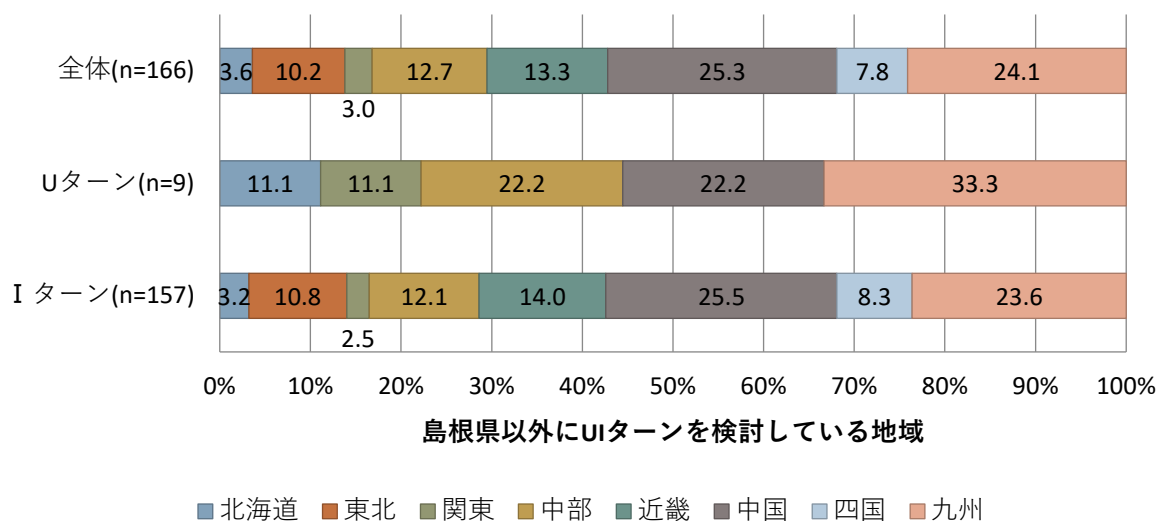
**島根県以外に UI ターンを検討している地域はどこですか。複数ある場合は最も関心の高い地域(都道府県)を1つ選んでください**

最も割合の高い検討地域は中国地方で、なかでも特に鳥取県の割合が高い。

地域	都道府県名	件数	割合
北海道地方	北海道	6	3.6
	青森県	3	1.8
東北地方	岩手県	4	2.4
	宮城県	3	1.8
	秋田県	2	1.2
	山形県	0	0.0
	福島県	5	3.0
	茨城県	1	0.6
関東地方	栃木県	1	0.6
	群馬県	2	1.2
	埼玉県	1	0.6
	千葉県	0	0.0
	東京都	0	0.0
	神奈川県	0	0.0
	中部地方	新潟県	3
富山県		2	1.2
石川県		3	1.8
福井県		2	1.2
山梨県		0	0.0
長野県		7	4.2
岐阜県		0	0.0
静岡県		3	1.8
愛知県		1	0.6

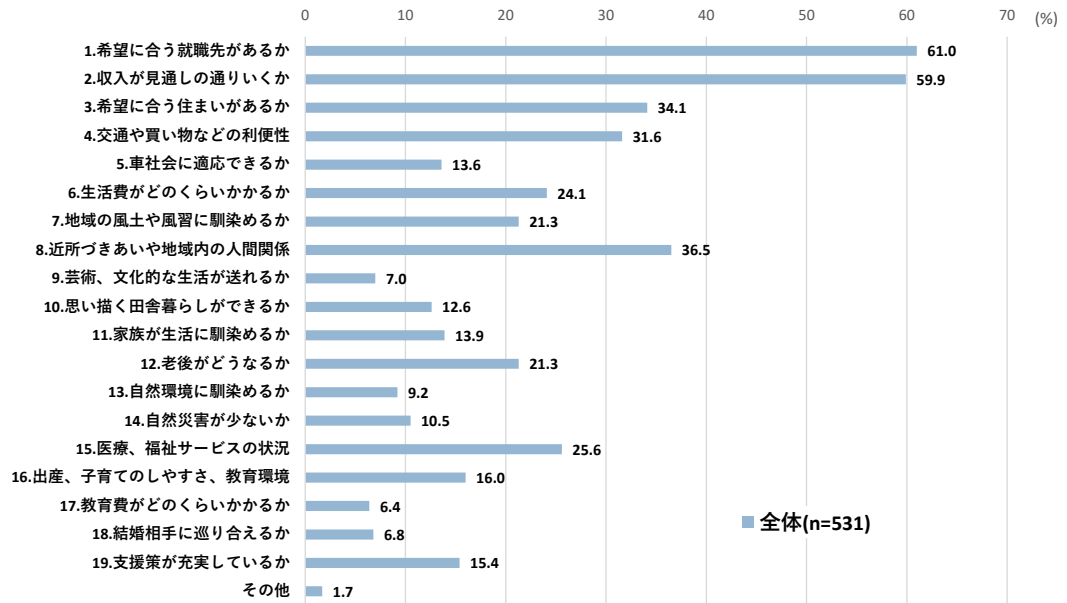
地域	都道府県名	件数	割合
近畿地方	三重県	1	0.6
	滋賀県	3	1.8
	京都府	3	1.8
	大阪府	5	3.0
	兵庫県	5	3.0
	奈良県	2	1.2
	和歌山県	3	1.8
	中国地方	鳥取県	18
岡山県		6	3.6
広島県		12	7.2
山口県		6	3.6
四国地方	徳島県	3	1.8
	香川県	5	3.0
	愛媛県	3	1.8
九州地方	高知県	2	1.2
	福岡県	2	1.2
	佐賀県	2	1.2
	長崎県	4	2.4
	熊本県	8	4.8
	大分県	5	3.0
	宮崎県	4	2.4
	鹿児島県	8	4.8
	沖縄県	7	4.2
合計		166	100

「島根県以外に UI ターンを検討している地域」の単純集計（検討層）



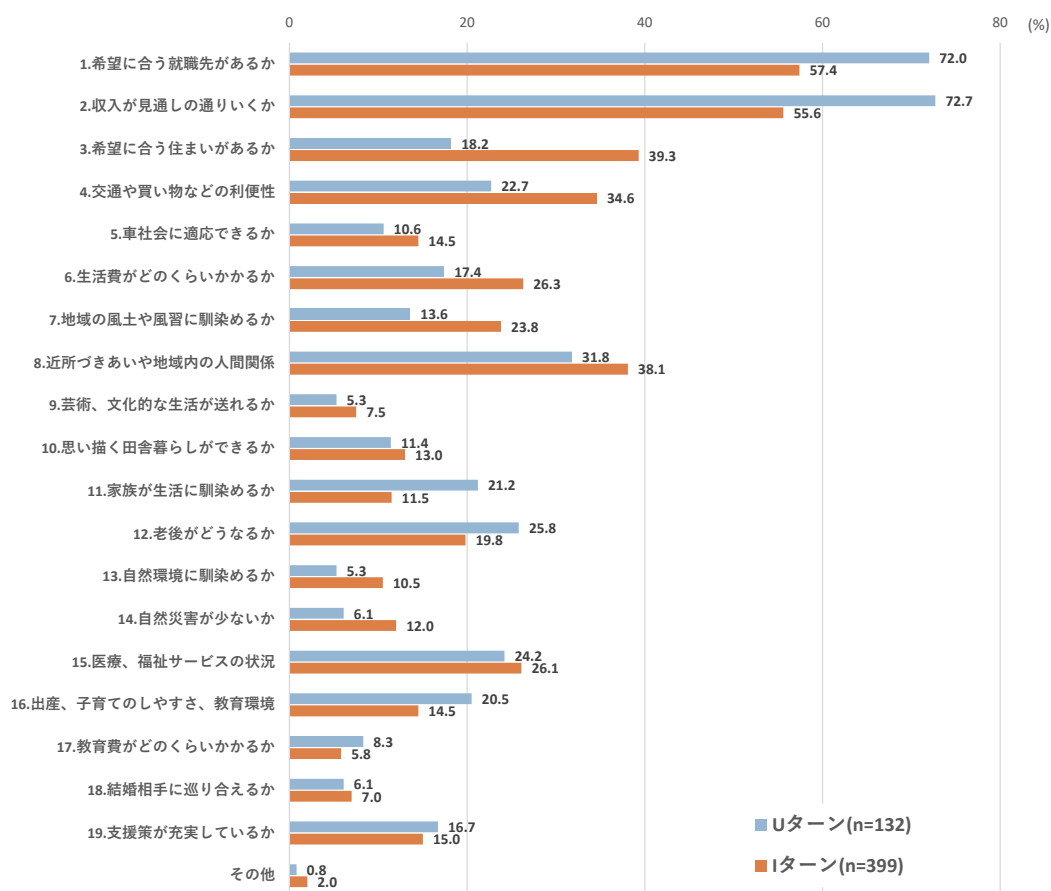
「Uターン/Iターン」×「島根県以外に UI ターンを検討している地域」クロス集計（検討層）

## UI ターンする際、どのような不安がありますか。(複数回答)



「UI ターンする際の不安」単純集計（検討層）



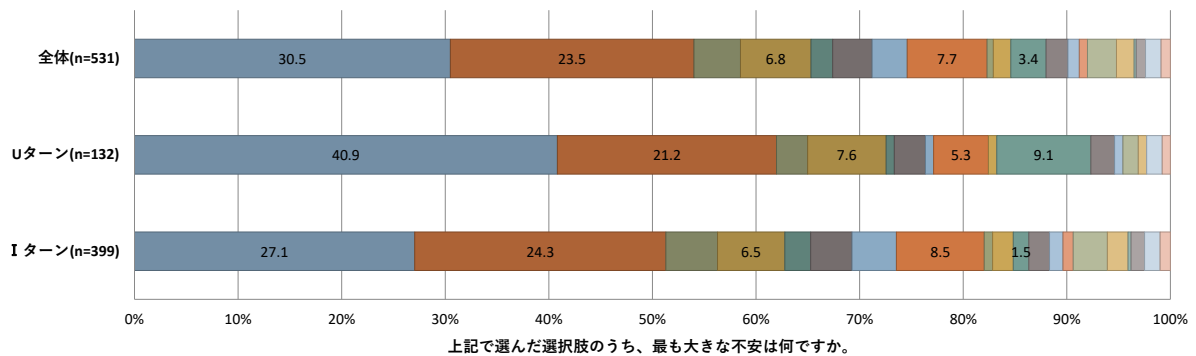


「Uターン/Iターン」×「UIターンする際の不安」クロス集計（検討層）

**最も大きな不安**

Uターン検討者、Iターン検討者ともに、仕事に関する項目（「希望に合う就職先があるか」と「収入が見通しの通りいくか」）が5割を超える割合となった。

Uターン検討者のほうが、仕事に関する項目を回答した割合は高い。この傾向は、「重視する項目」でも同様の傾向がみられた。

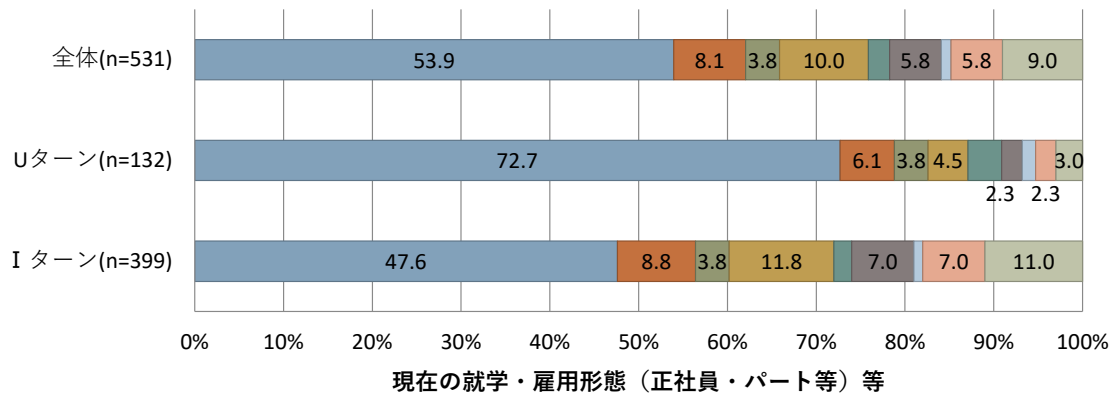


「Uターン/Iターン」×「最も大きな不安」クロス集計（検討層）

### 現在の就学・雇用形態

Uターン検討者、Iターン検討者ともに、最も高い割合を占めるのは「会社員（正規）」である。

Uターン検討者のほうが、「会社員（正規）」の割合が高く、72.7%となっている。



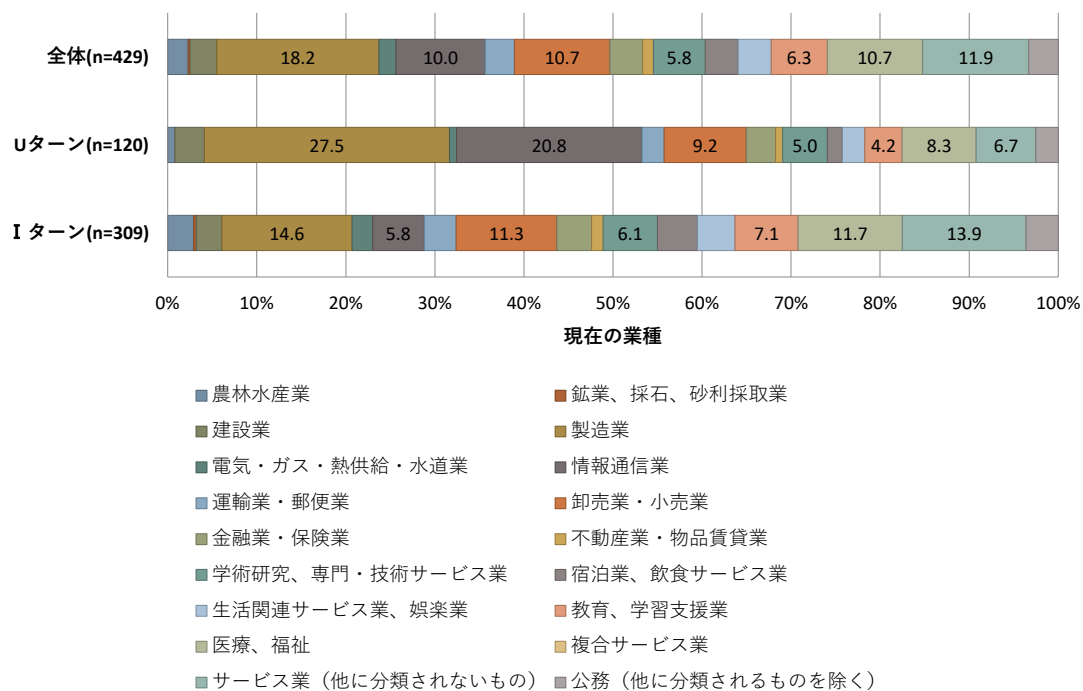
「Uターン/Iターン」×「現在の就学・雇用形態」クロス集計（検討層）

### 現在の業種

全体の傾向をみると、最も割合が高いのは「製造業」18.2%である。

Uターン検討者とIターン検討者の差異としては、Uターンは「情報通信業」の割合が20.8%と、Iターンの「情報通信業」5.8%を大きく上回っている点に着目できる。

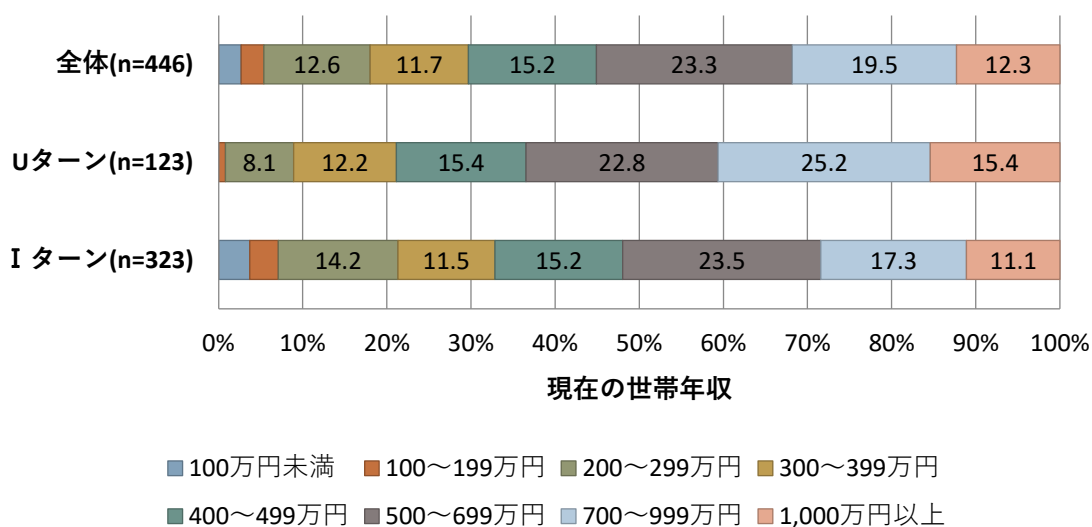
Uターン、Iターンとも「製造業」の割合が最も高いが、Uターンのほうがその割合が高く、27.5%となっている。



「Uターン/Iターン」×「現在の業種」クロス集計（検討層）

### 現在の世帯年収

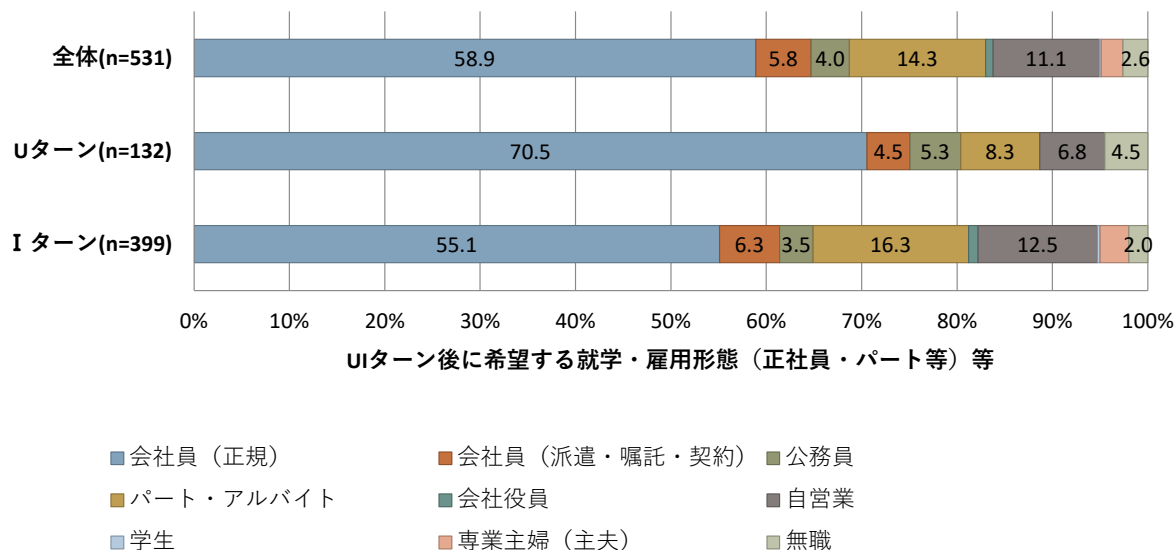
Uターン検討者のほうが、Iターン検討者よりも世帯年収が大きい傾向がある。



「Uターン/Iターン」×「現在の世帯年収」クロス集計（検討層）

## UIターン後に希望する就学・雇用形態

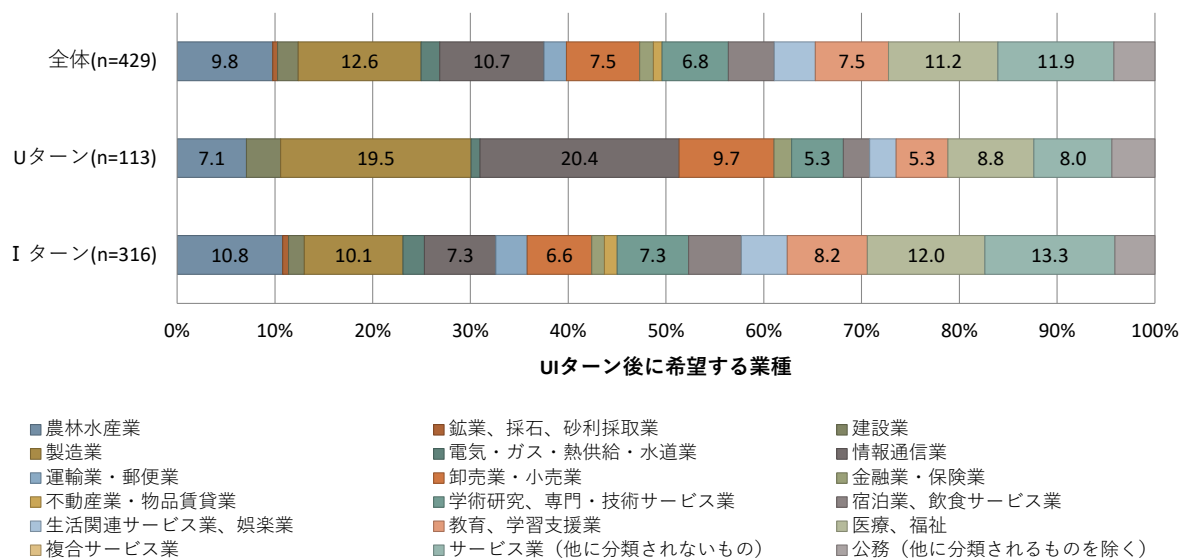
おおむね、「現在の就学・雇用形態」と同様の傾向を示している。



「Uターン/Iターン」 × 「UIターン後に希望する就学・雇用形態」クロス集計 (検討層)

## UIターン後に希望する業種

「現在の業種」と比較すると、Uターン検討者、Iターン検討者ともに、「農林水産業」の割合が増えていることに着目できる。その他は「現在の業種」と同様の傾向である。



「Uターン/Iターン」 × 「UIターン後に希望する業種」クロス集計 (検討層)

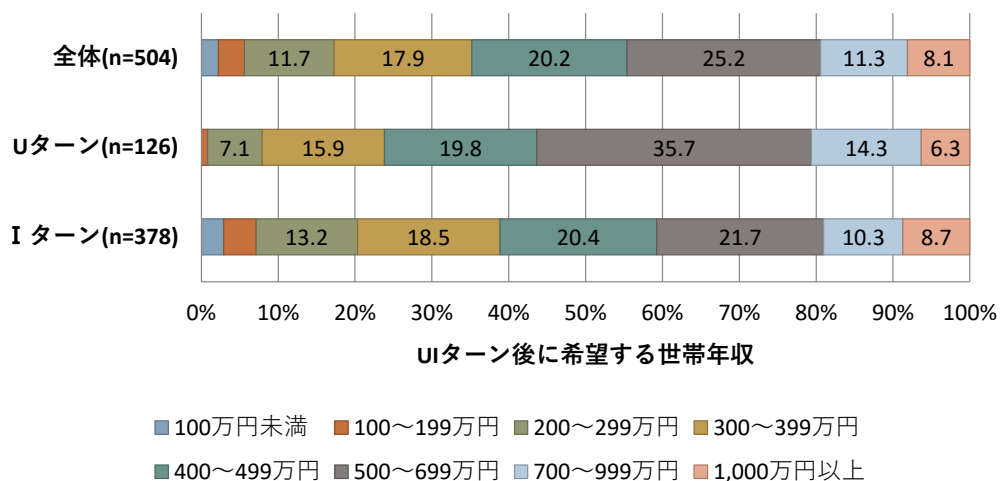


### UIターン後に希望する世帯年収

Uターン検討者のほうがIターン検討者よりも大きい世帯年収を希望している点は、「現在の世帯年収」と同様の傾向である。

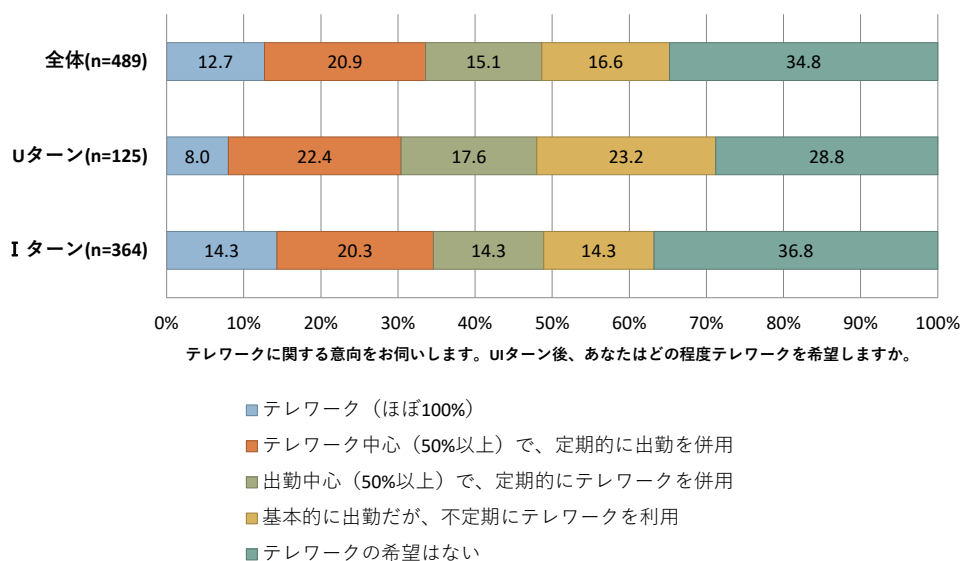
ただし、着目できる点としてUターンIターンともに「現在の世帯年収」よりも減少する傾向がある点である。双方で、「700～999万円」、「1,000万円以上」の割合が減少し、「500～699万円」以下の割合が増加する傾向がある。

以上から考察できることは、移住検討者はUIターン後にある程度世帯年収が減少することを見込んでいるといえる。先述の、重視項目や不安項目では給与や年収、生活費が上位の項目としてあがっていたが、検討者が世帯年収の減少を踏まえて、これらの項目を重視項目、不安材料として捉えている点に留意する必要がある。



「Uターン/Iターン」×「UIターン後に希望する世帯年収」クロス集計（検討層）

## UI ターン後、あなたはどの程度テレワークを希望しますか

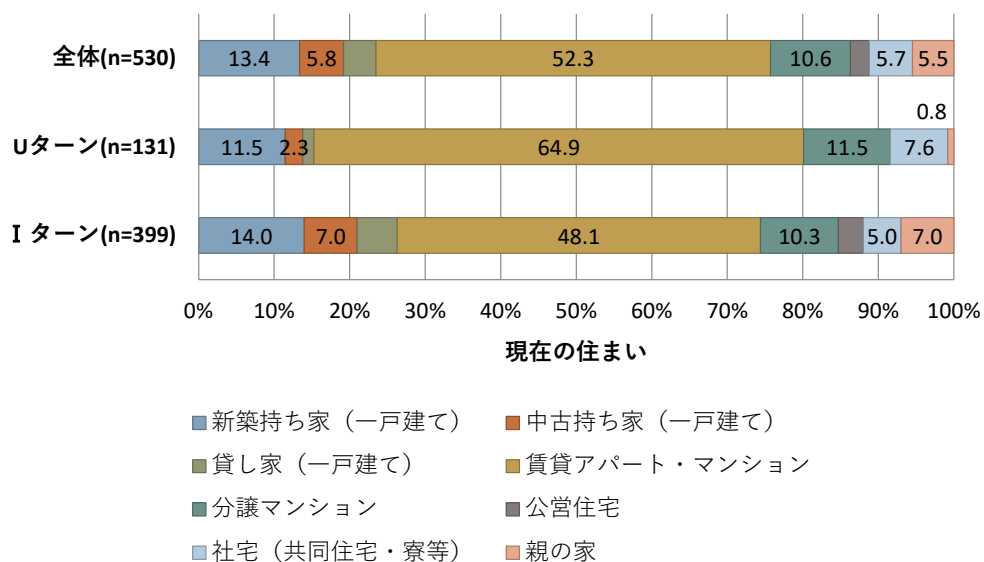


「Uターン/Iターン」×「UIターン後のテレワークの意向」クロス集計（検討層）

### 現在の住まい（住宅形態）

全体として、多数派は「賃貸アパート・マンション」である。

Uターン検討者、Iターン検討者とも持ち家・分譲マンションとして住宅を所有する人が3割程度存在する。



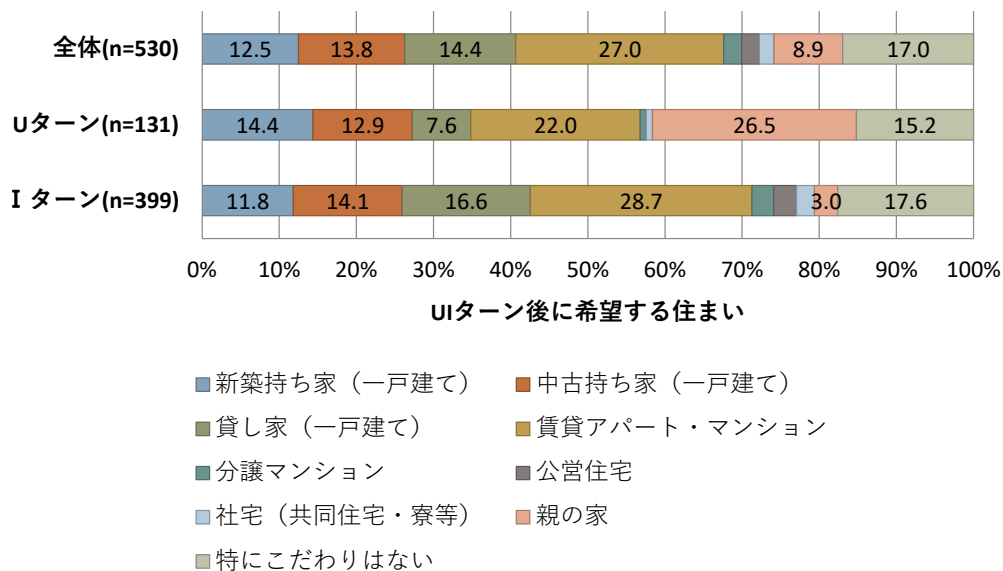
「Uターン/Iターン」×「現在の住まい」クロス集計（検討層）

### UIターン後に希望する住まい（住宅形態）

Uターン検討者は「親の家」26.5%、Iターン検討者は「賃貸アパート・マンション」28.7%

が、最も大きな割合となり、Uターン、Iターンで傾向に差異がみられる。

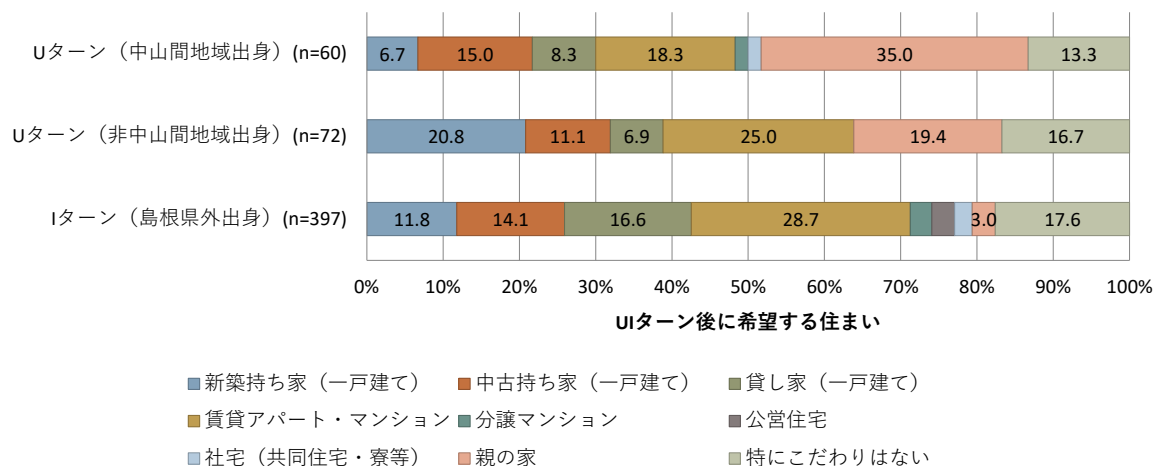
移住実践層で実際に「親の家」に住んでいるのは 25.5%であったので、移住検討者が希望する割合と近い値になっている。



「Uターン/Iターン」 × 「UIターン後に希望する住まい」 クロス集計（検討層）



UI ターン後に希望する住居形態を、出身地域別にみると、中山間地域出身の U ターン者は「親の家」が最も多く 35.0%である。

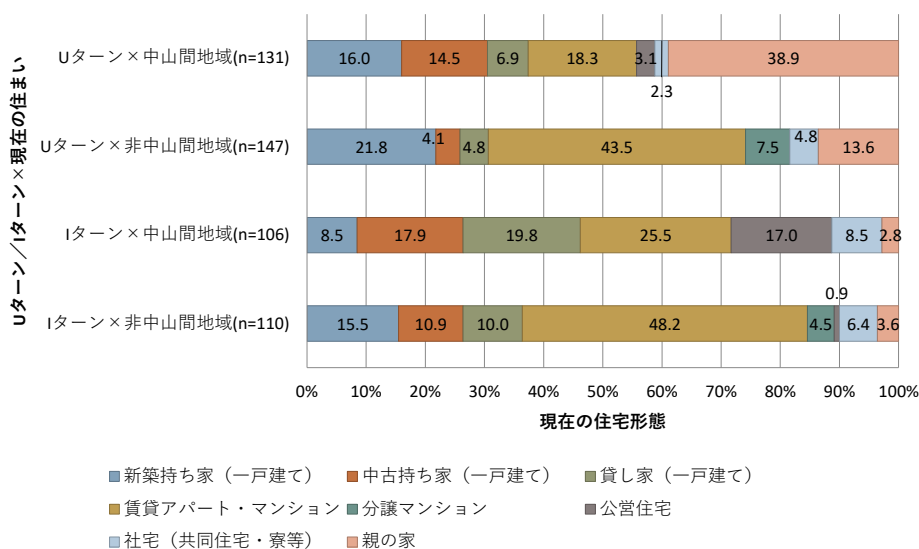


「出身地域」×「UI ターン後に希望する住まい」クロス集計（検討層）

なお、実態としての UI ターン後の住居形態（実践層の現在の住宅形態）と比較すると、中山間地域出身の U ターン者検討者の希望は、実態において希望の通りとなっていることが分かる。

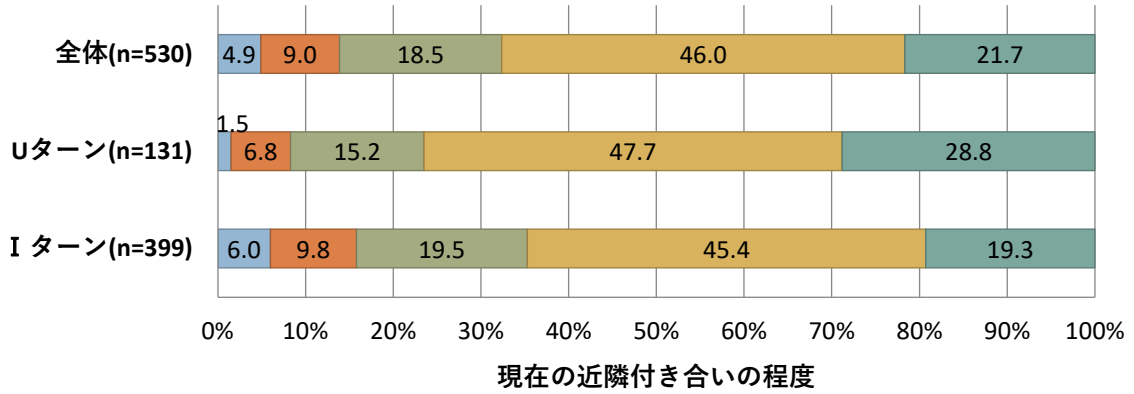
また、非中山間地域出身の U ターン者は、希望よりも「賃貸アパート・マンション」に居住するケースが多いことが分かる。

【参考】実践層の「現在の住宅形態」



「現住所」 × 「現在の住宅形態」 クロス集計（実践層）

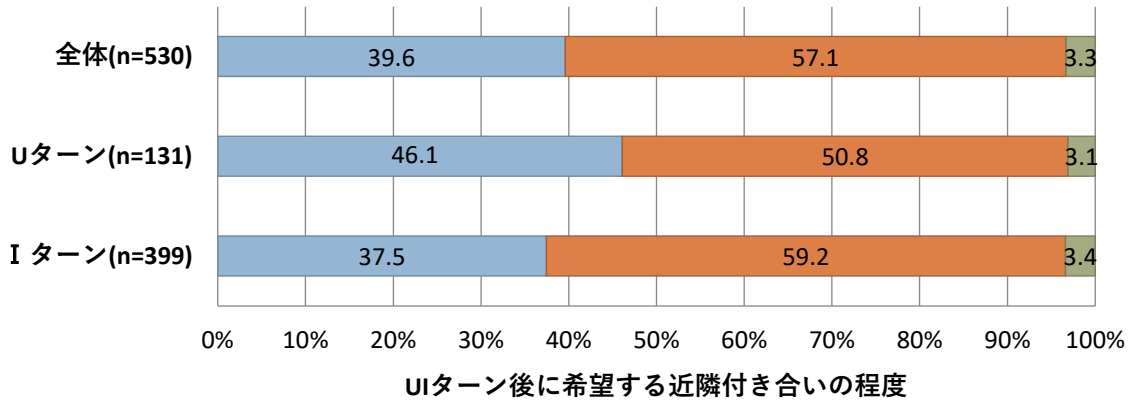
**現在、あなたは近隣住民の方とどの程度の付き合いをしていますか**



- 家族・友人のような深い付き合いをしている
- 日々の生活で助け合える付き合いをしている
- 日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている
- あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない
- 付き合いは全くしていない

「Uターン/Iターン」 × 「現在の近隣付き合いの程度」 クロス集計（検討層）

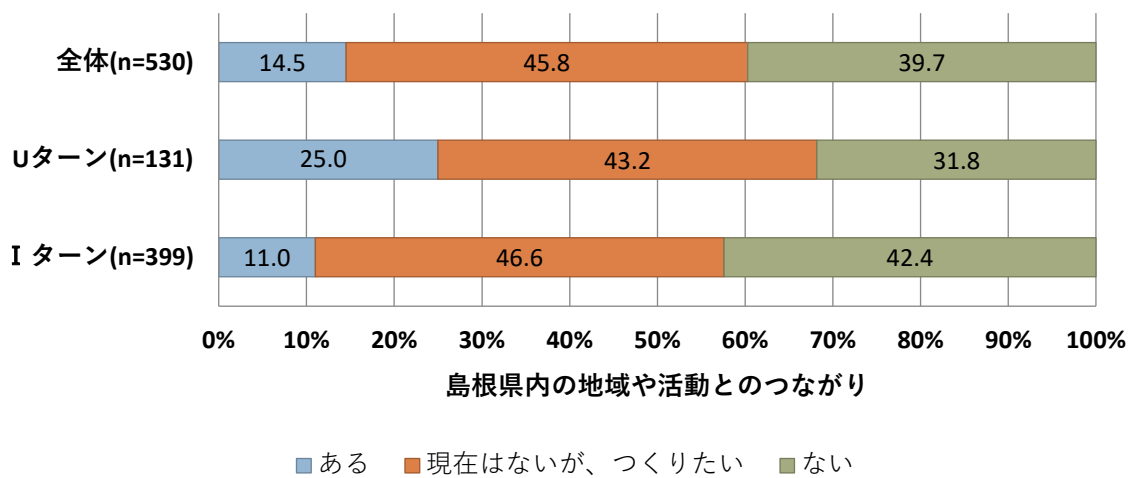
**Uターン後、近隣住民の方との付き合い方について、どのようにしたいとお考えですか**



- 現在よりも、付き合いを増やしたい
- 現在の付き合い程度で良い
- 現在よりも、付き合いを減らしたい

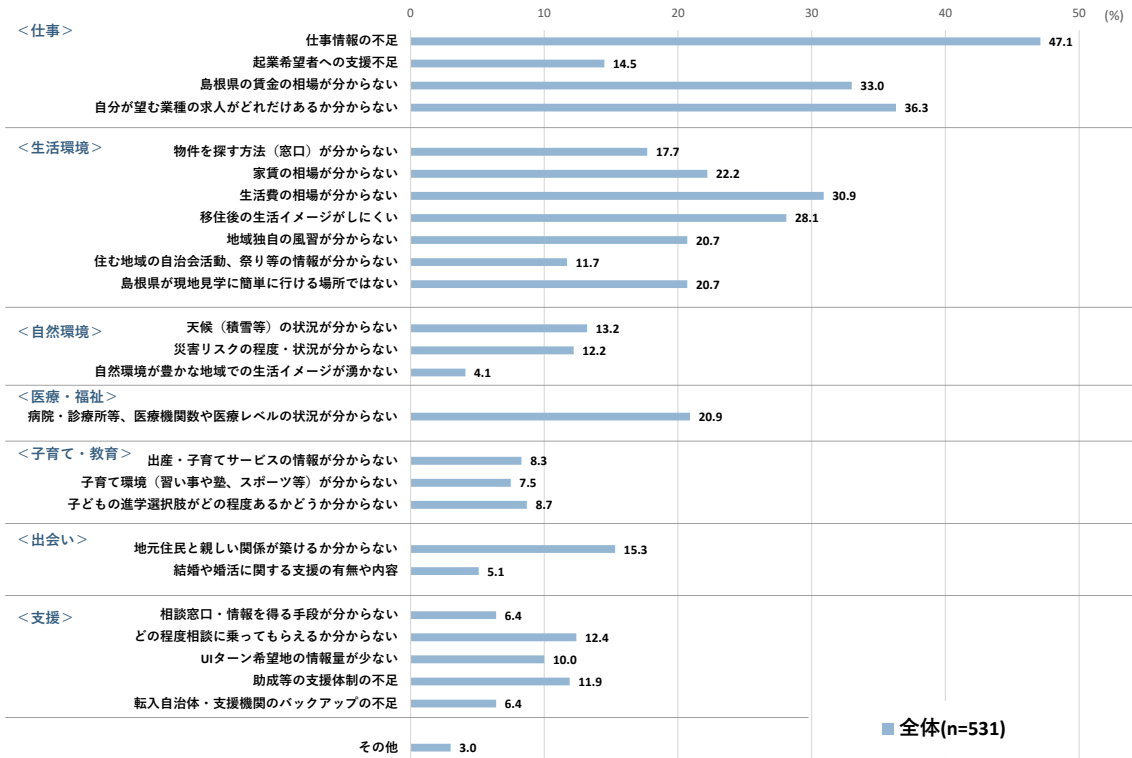
「Uターン/Iターン」 × 「今後希望する近隣付き合いの程度」 クロス集計（検討層）

現在、島根県内の地域や活動とのつながりはありますか。または、つくりたいですか

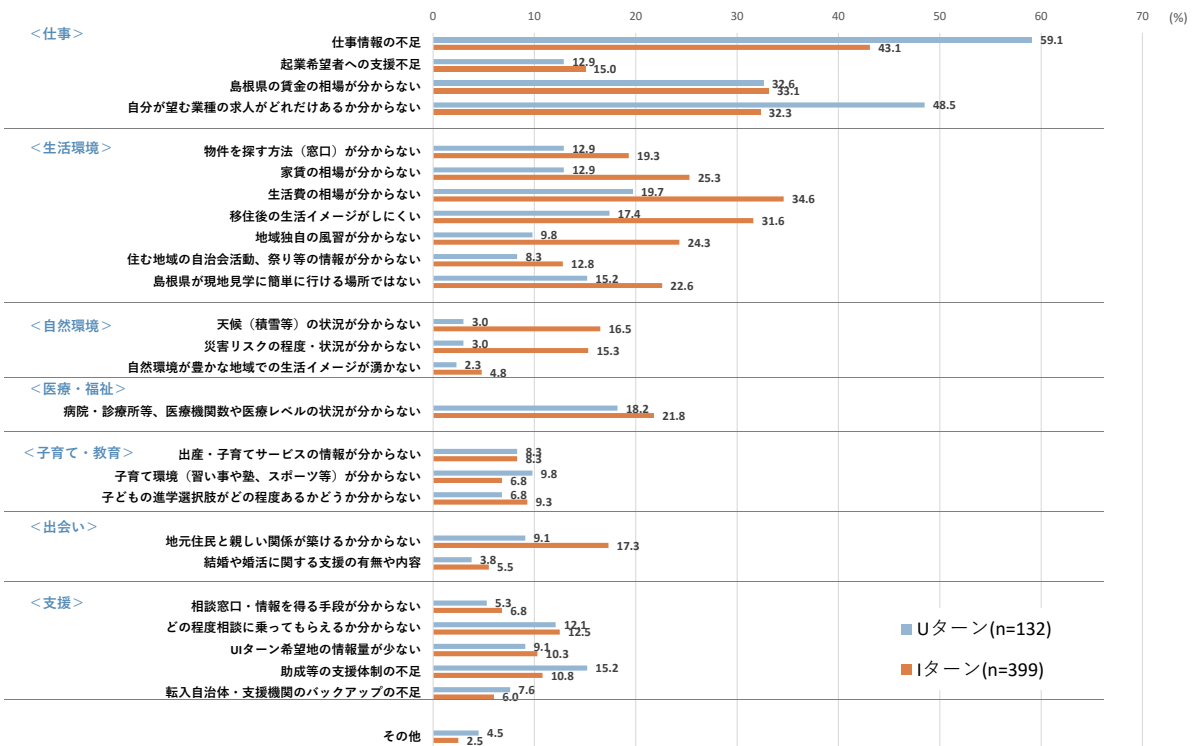


「Uターン/Iターン」×「島根県内の地域や活動とのつながり」クロス集計（検討層）

## UI ターンを検討するにあたり、困っていることや不便を感じていること(複数回答)



### 単純集計(検討層)

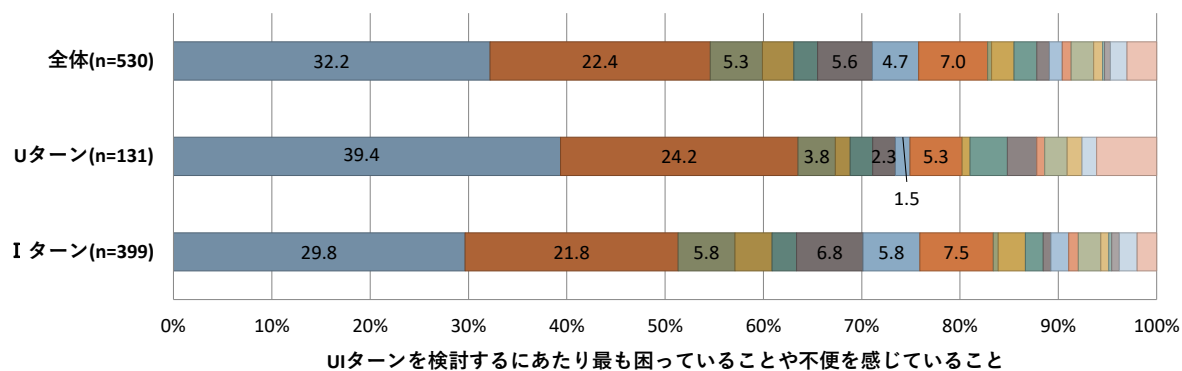


「UI ターンを検討にするにあたり困っていることや不便を感じていること」

Uターン/Iターン クロス集計（検討層）

## UIターンを検討するにあたり、最も困っていること・不便を感じていること

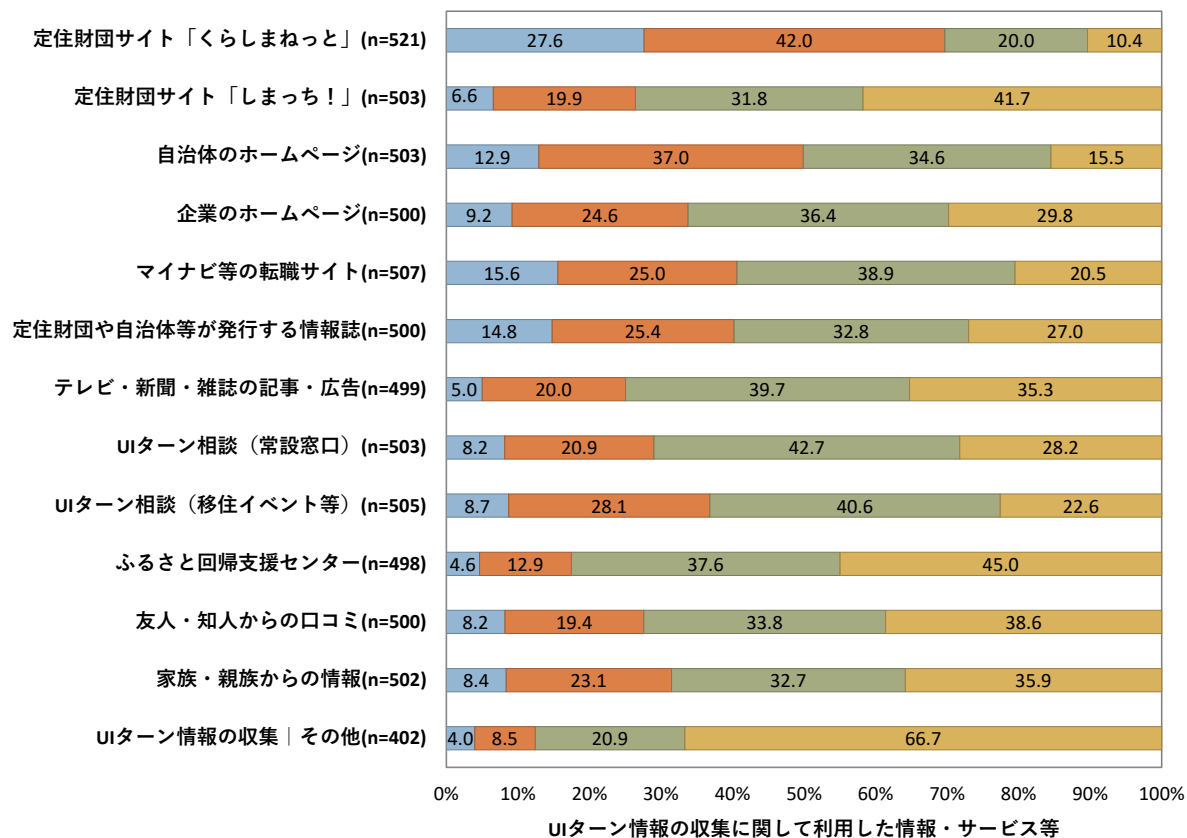
「希望に合う就職先があるか」、「収入が見通しの通りいくか」という仕事に関する項目が大きな割合を占めている点、特に U ターン検討者の方がその割合が大きい点は、「UI ターンする際の不安」と同様の傾向を示している。



「UIターンを検討するにあたり最も困っていることや不便を感じていること」

Uターン/Iターン クロス集計（検討層）

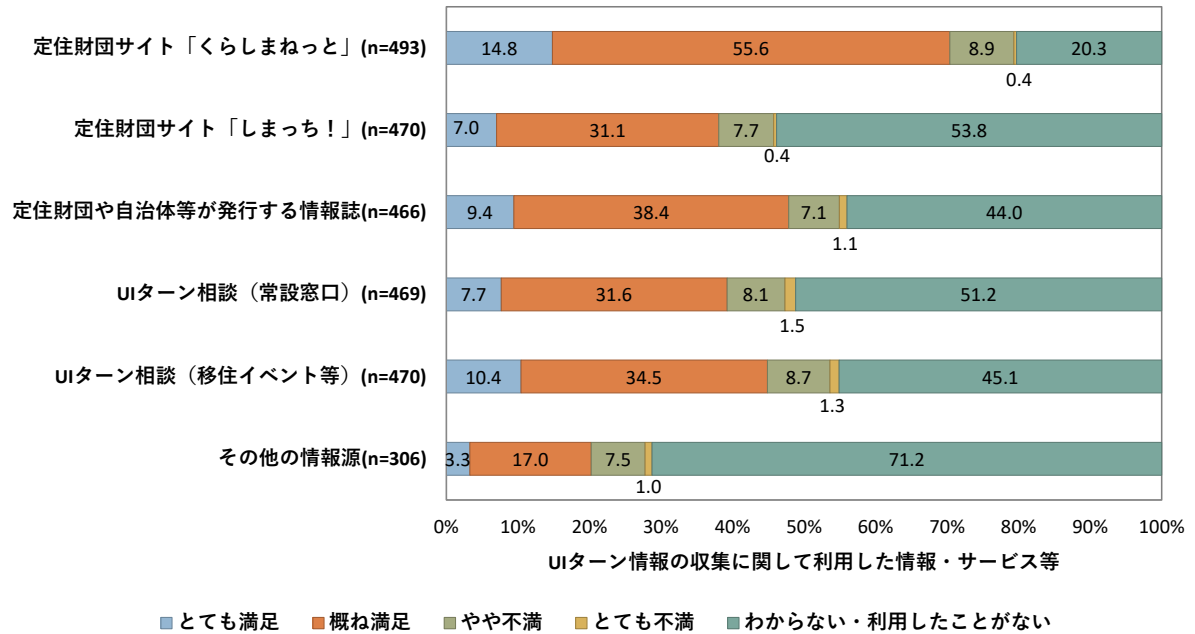
## UI ターン情報の収集に関し、以下の情報・サービス等を利用したことはありますか



■ 何回も利用している ■ 1~2回利用したことがある ■ 知っているが利用したことはない ■ 知らない



島根県および(公財)ふるさと島根定住財団が実施する以下の情報・サービスを利用したことがある方にお聞きます。それぞれの満足度を教えてください。



## ヒアリング調査の結果

### 回答者属性の概要

No.	性別	年齢	出身	現住所	家族構成
U-1	女性	35～39歳	出雲市	岡山県	単身
U-2	男性	50～54歳	松江市	埼玉県	単身
U-3	男性	55～59歳	大田市	大阪府	配偶者と2人
I-1	男性	45～49歳	愛媛県	東京都	配偶者と2人
I-2	男性	50～54歳	大阪府	埼玉県	配偶者と子ども

### Uターン検討者の傾向

- ・ 条件さえ整えばUターンを決意する意向であった。仕事があるか、生活できるだけの収入が得られるかという部分にハードルを感じている様子が窺えた。
- ・ 島根県への愛着は強く、県外に出てからも何らかの形で関わりを持ち続けていた。具体的には、地元の友人とのつながり、SNSコミュニティを通じた情報交換、頻繁な帰省などにより、継続的に関わりを持っている様子が窺えた。
- ・ 一方、医療、物流、交通、買い物難民、親の介護など、この先暮らしていく上での懸念も持っておられた。

### Iターン検討者の傾向

- ・ 過去に島根県内に滞在した経験があったり、両親の故郷だったり、Iターンではあるものの島根県と何らかのご縁はあるという状況であった。そうしたきっかけから、島根に大きな魅力を感じ、定期的に訪れたり、情報収集を進めたりといった行動を積極的にとっている様子が窺えた。
- ・ 最大の関心・不安は仕事の有無とのことであった。

## 移住関心層の調査結果

### 回答者属性の概要

関心層		
対象者	島根県への移住に関心を持つ方 回答数 540	
回答者の概	Uターン/Iターンの比率	「Uターン」 … 30.4% 「Iターン」 … 69.5%
	性別	「男性」 … 50.0% 「女性」 … 50.0%

	<b>年齢</b>	「20代」 … 16.5% 「30代」 … 27.8% 「40代」 … 22.8% 「50代」 … 23.5%	
	<b>現住所</b>	東京都 … 17.2% 大阪府 … 14.6% 神奈川県 … 9.1% 広島県 … 7.8%	関東 … 37.2% 近畿 … 27.6% 中国 … 13.7%

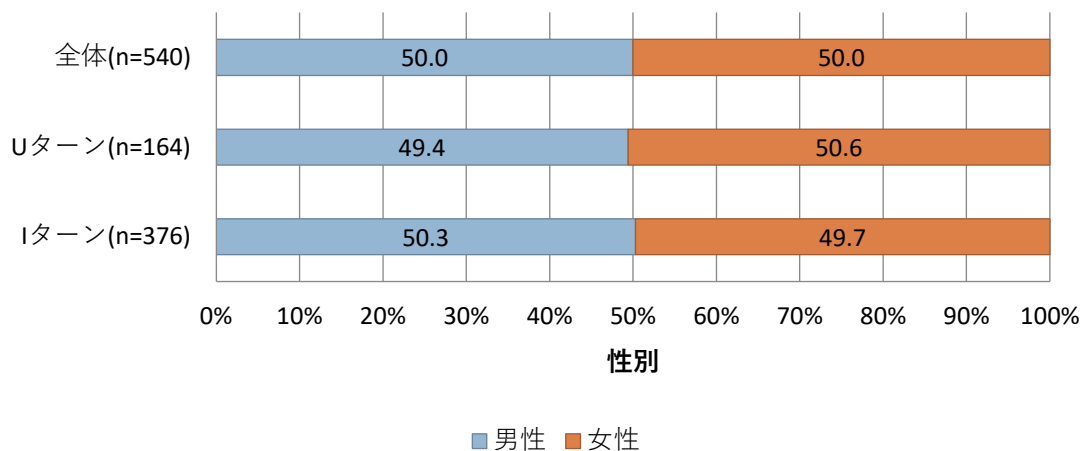
島根県への移住関心層の回答者属性を概観する。

### Uターン/Iターン

Uターン/Iターンの比率をみると、「Uターン」が30.4%、「Iターン」が69.5%と、Iターンの割合が高い。

### 性別

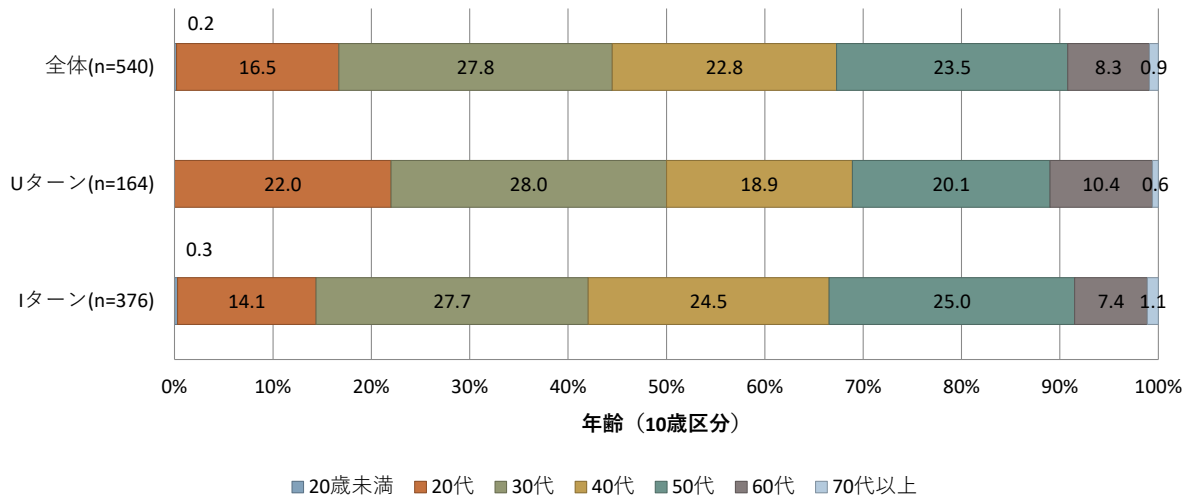
性別をみると、「男性」が50.0%、「女性」が50.0%でちょうど半々である。UIターン別でも同様の傾向である。



「Uターン/Iターン」×「性別」のクロス集計（関心層）

### 年齢

年齢をみると、割合の高い順に「30代」が27.8%、「50代」が23.5%、「40代」が22.8%となった。「Uターン/Iターン」とのクロス集計では、Iターンで40代、50代の割合が高くなった。



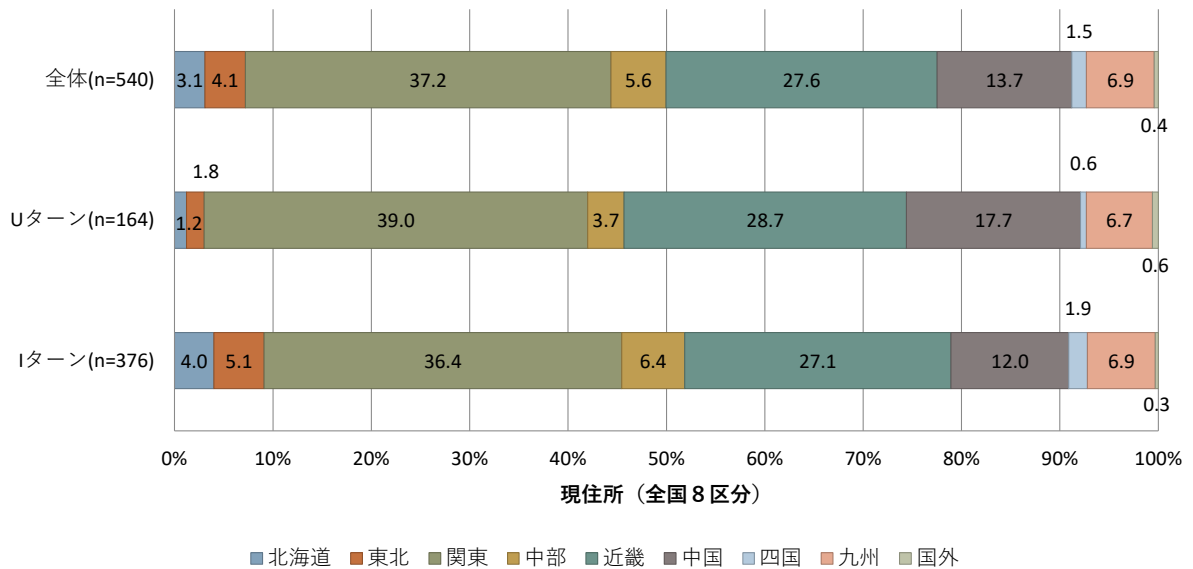
「Uターン/Iターン」×「年齢（10歳区分）」のクロス集計（関心層）

## 現住所

移住関心層の現住所を、全国8区分で以下に示す。

全体で最も多いのは「関東」37.2%、次に「近畿」27.6%である。

Uターン/Iターンそれぞれをみると、おおむねの傾向は同様であるが、Uターン関心者で少し「中国」の割合が高くなっている。この傾向は、移住検討層と同様である。



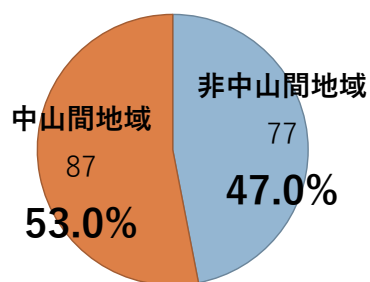
「Uターン/Iターン」×「現住所（全国8区分）」のクロス集計（関心層）

## 出身地

### 【Uターン関心者】

Uターン関心者の出身地を「非中山間地域」と「中山間地域」とに分けて以下に示す。  
出身地は、島根県の「非中山間地域」と「中山間地域」で半々程度である。

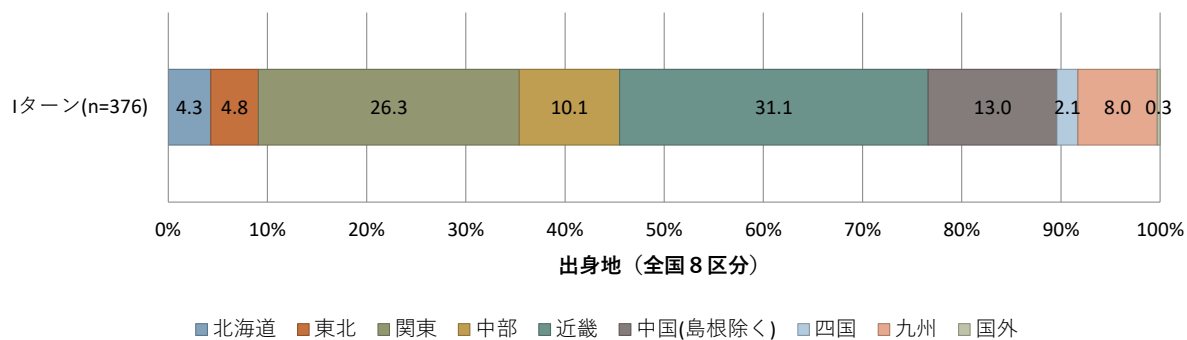
Uターン関心者(n=164)の出身地域



Uターン関心者の出身地

### 【Iターン関心者】

Iターン関心者の出身地を以下に示す。現住所は「関東」が最も多かったが、出身地では「近畿」31.1%、が最も多い。移住検討層の結果と同様の傾向である。



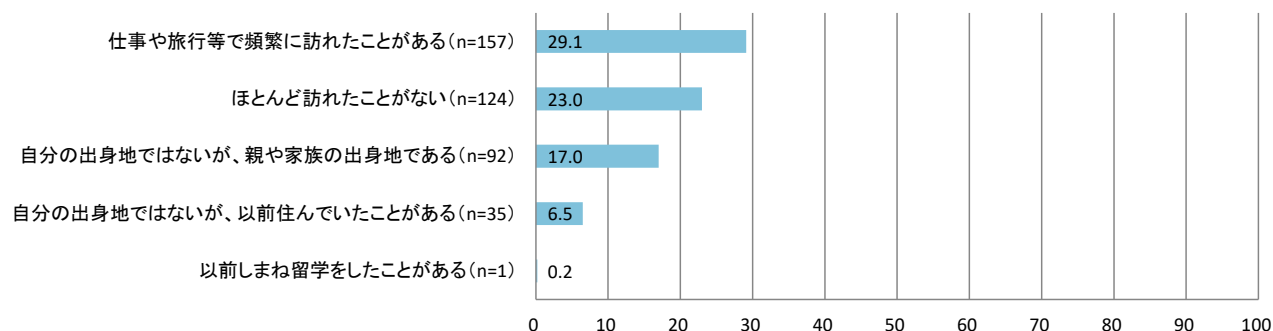
Iターン関心者の出身地

## 集計・分析の結果

### あなたと島根県との関係は以下のうちどれですか。(複数回答/Iターンのみ)

出身が島根県以外の方 (Iターン関心者) への設問である。

最も割合が大きかったのは「仕事や旅行などで頻繁に訪れたことがある」29.1%、続いて「ほとんど訪れたことがない」となった。移住検討層と比較すると、1位と2位とが逆転している。

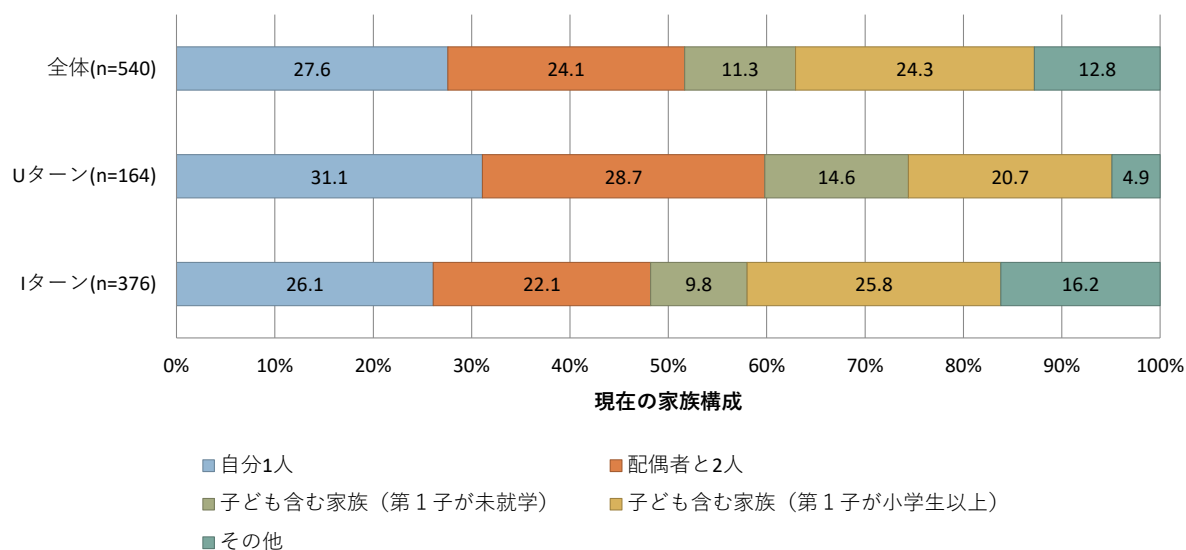


「島根県との関係」の単純集計 (関心層/Iターンのみ)

### 現在の家族構成

全体の傾向をみると、最も割合が大きいの「自分1人」で27.6% (約3割弱) であり、移住検討層と同様の傾向である。

「Uターン/Iターン」のクロス集計では、「自分1人」の割合がUターン者のほうが高くなっており、これも検討層と同様の傾向を示している。

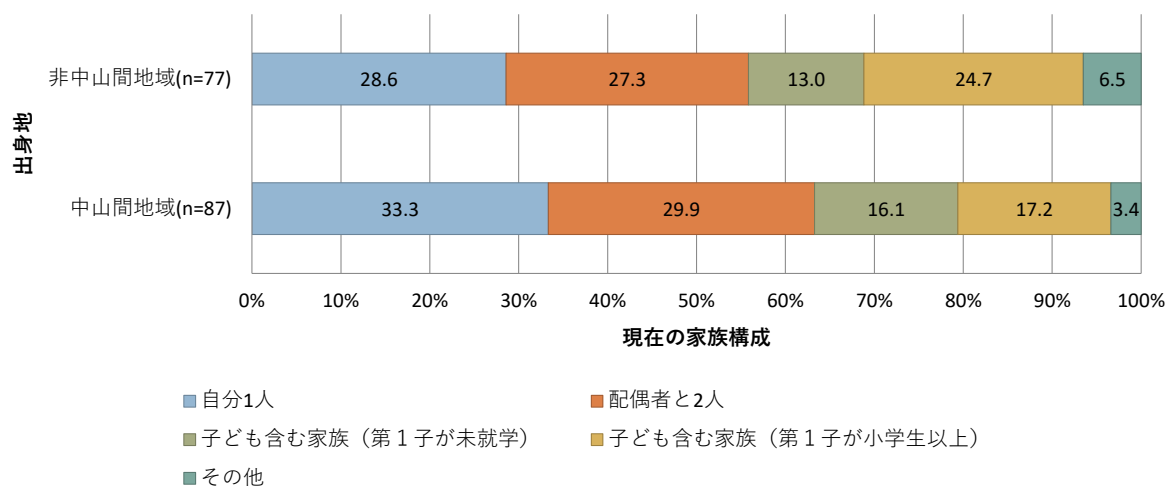


現在の家族構成

- 自分1人
- 配偶者と2人
- 子ども含む家族 (第1子が未就学)
- 子ども含む家族 (第1子が小学生以上)
- その他

「Uターン/Iターン」×「移住の際の家族構成」のクロス集計（関心層）

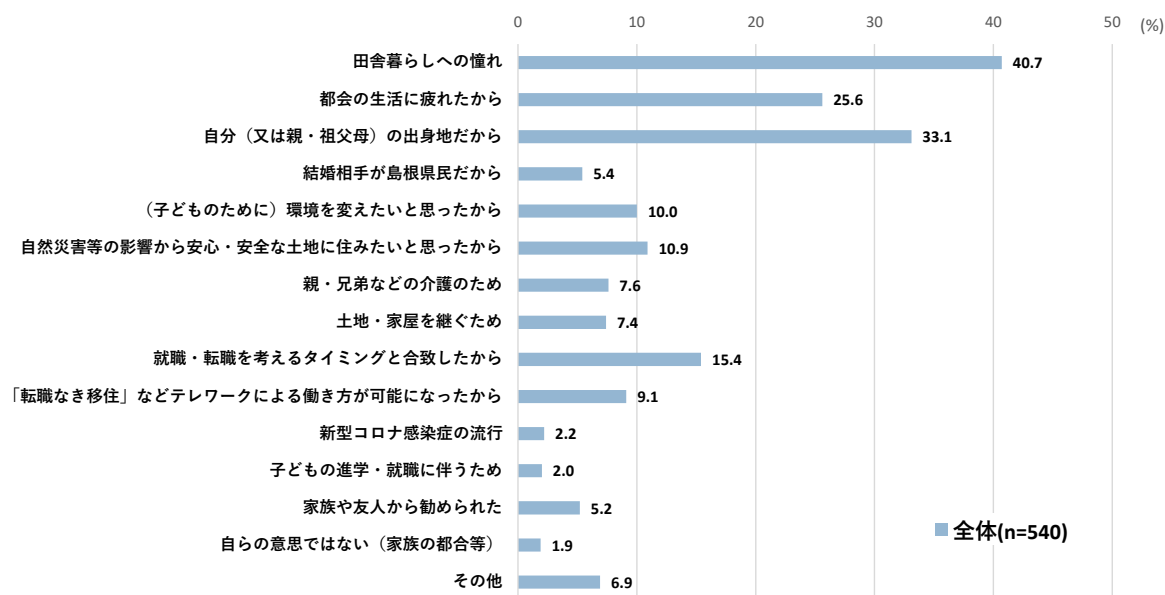
Uターン関心者について、出身地（非中山間地域、中山間地域）と家族構成のクロス集計をみると、「中山間地域」のほうが「自分1人」、「配偶者と2人」の割合が高く、「非中山間地域」のほうが「子ども含む家族（第1子が小学生以上）」の割合が高い。



Uターン関心者：「出身地」×「移住の際の家族構成」のクロス集計（関心層）

### UIターンに関心を持つようになったきっかけ(複数回答)

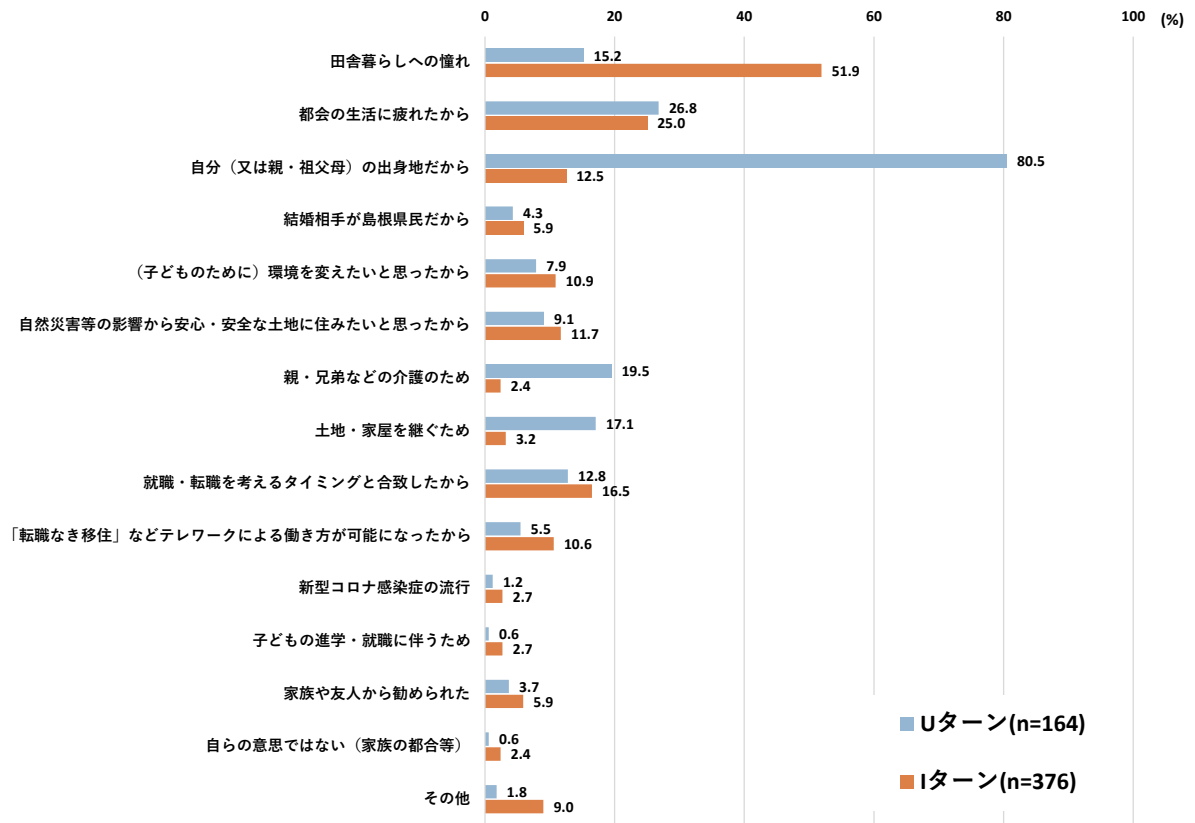
全体の傾向をみると、「田舎暮らしへの憧れ」が最も割合が高く40.7%である。これは検討層と同様である。検討層と比較すると、2位と3位が逆転しており、「自分（又は親・祖父母）の出身地だから」が2位で33.1%、「都会の生活に疲れたから」が3位で25.6%となっている。



「UIターンに関心を持つようになったきっかけ」の単純集計（関心層）



「Uターン/Iターン」のクロス集計をみると、「田舎暮らしへの憧れ」、「都会の生活に疲れたから」の割合が実践層よりも増えている点が、検討層との同様の傾向である。

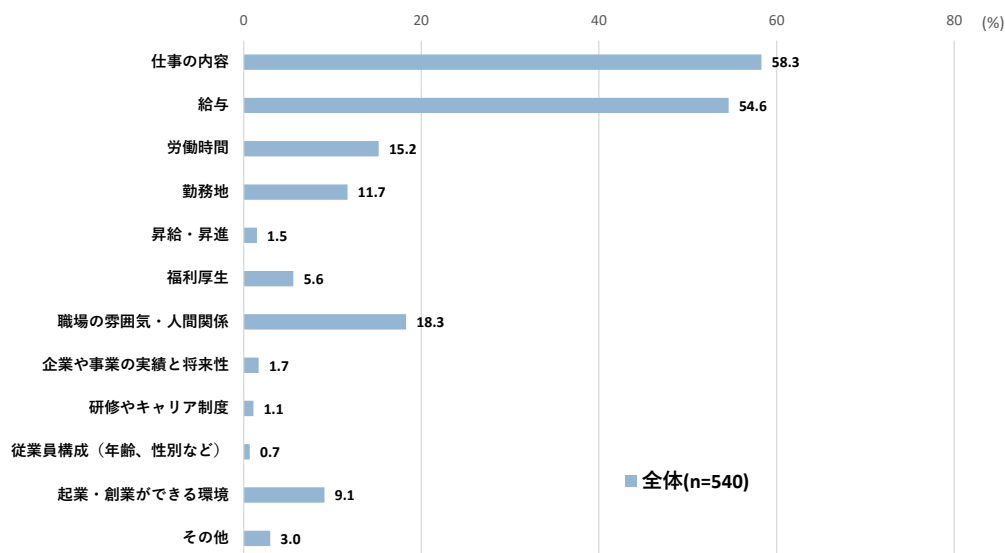


「Uターン/Iターン」×「UIターンに関心を持つようになったきっかけ」のクロス集計  
（関心層）

## UI ターン後の生活を考えるうえで、特に重視する項目（複数回答／最大2つ）

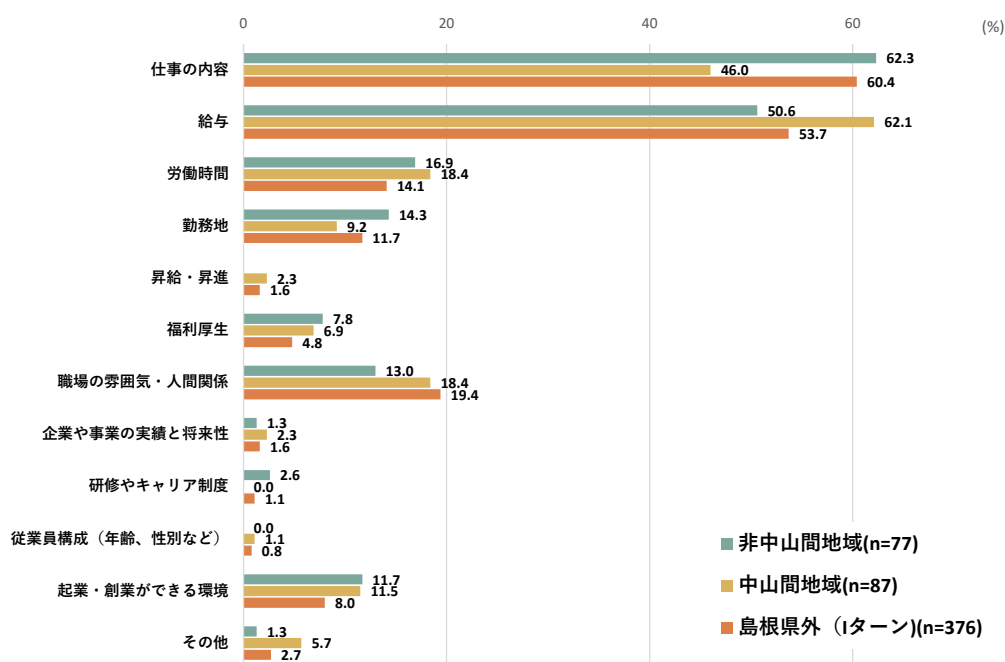
### 【仕事に関すること】

UI ターン後の生活で特に重視する項目は、全体の傾向として「仕事の内容」、「給与」が大きな割合を占める。



「UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目（仕事）」の単純集計（関心層）

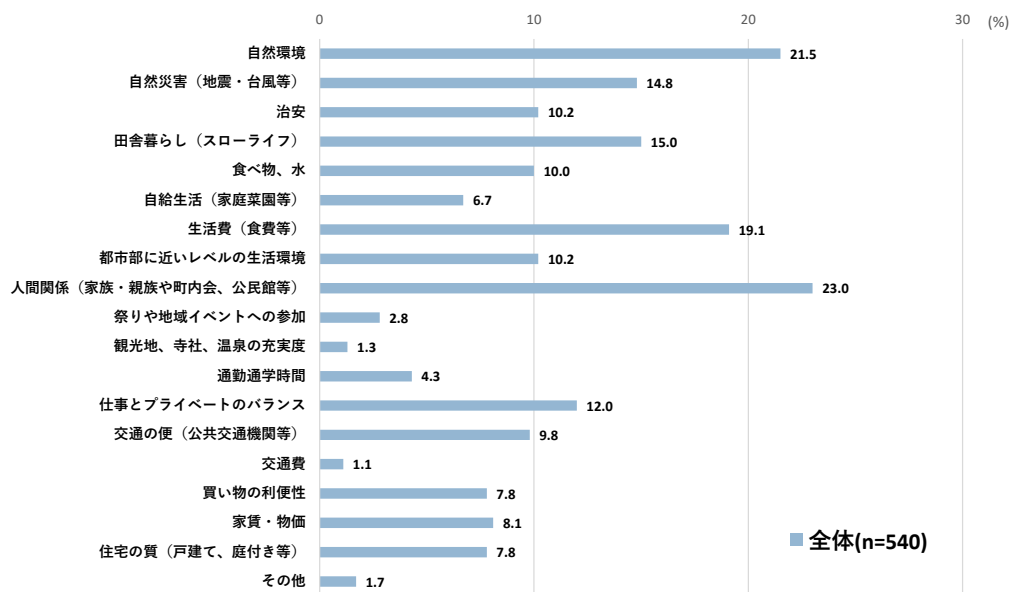
「出身地」とのクロス集計では、非中山間地域出身の U ターン関心者と I ターン者が、「給与」よりも「仕事の内容」を重視している結果となった。



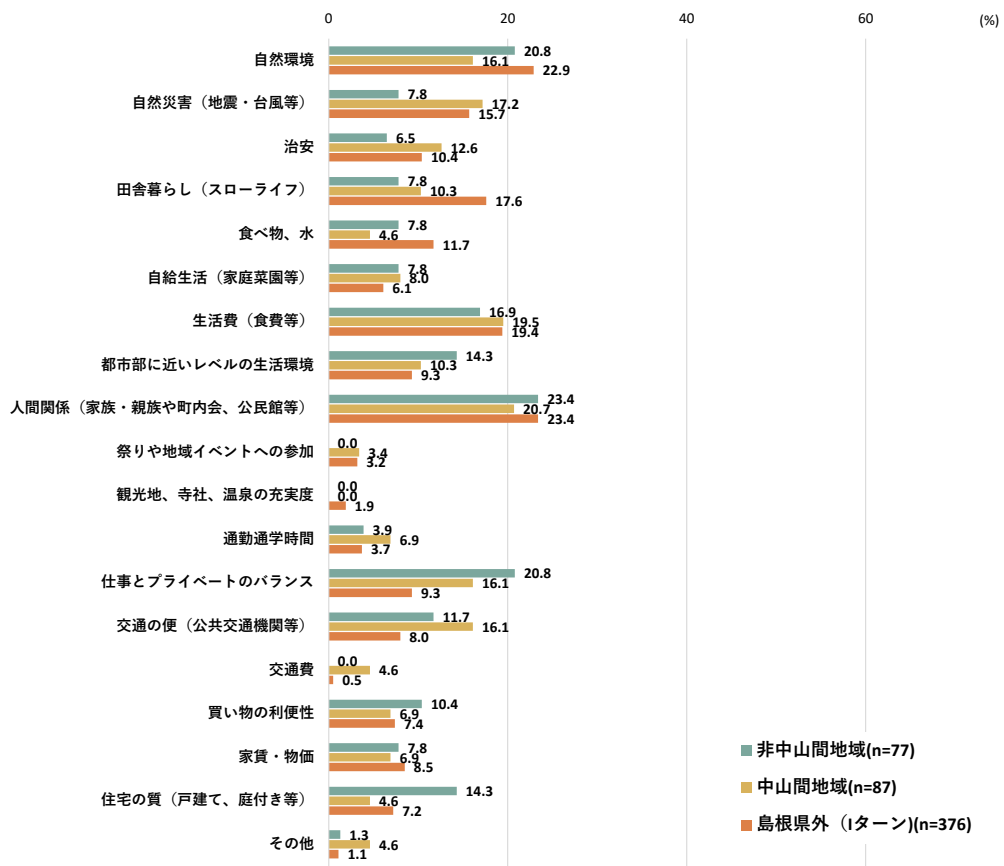
「出身地」×「UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目（仕事）」のクロス集計  
計  
(関心層)

【生活環境に関すること】

生活環境に関する重視項目について、全体の傾向をみると、「人間関係」が 23.0%で1位、次いで「自然環境」21.5%、「生活費」19.1%となった。



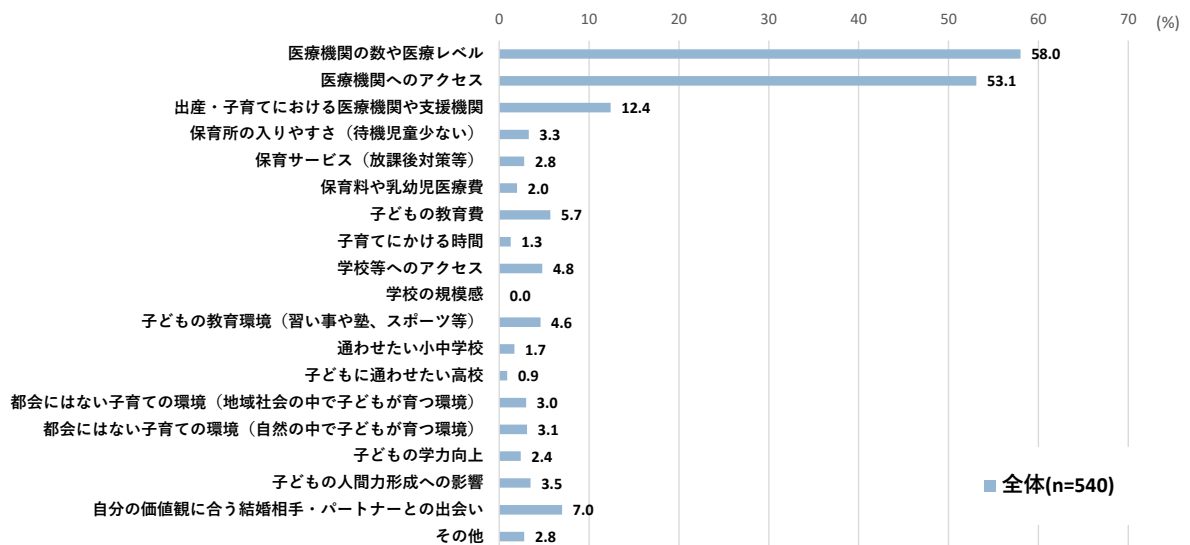
「UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目（生活環境）」の単純集計（関心層）



「出身地」×「UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目 (生活環境)」のクロス集計 (関心層)

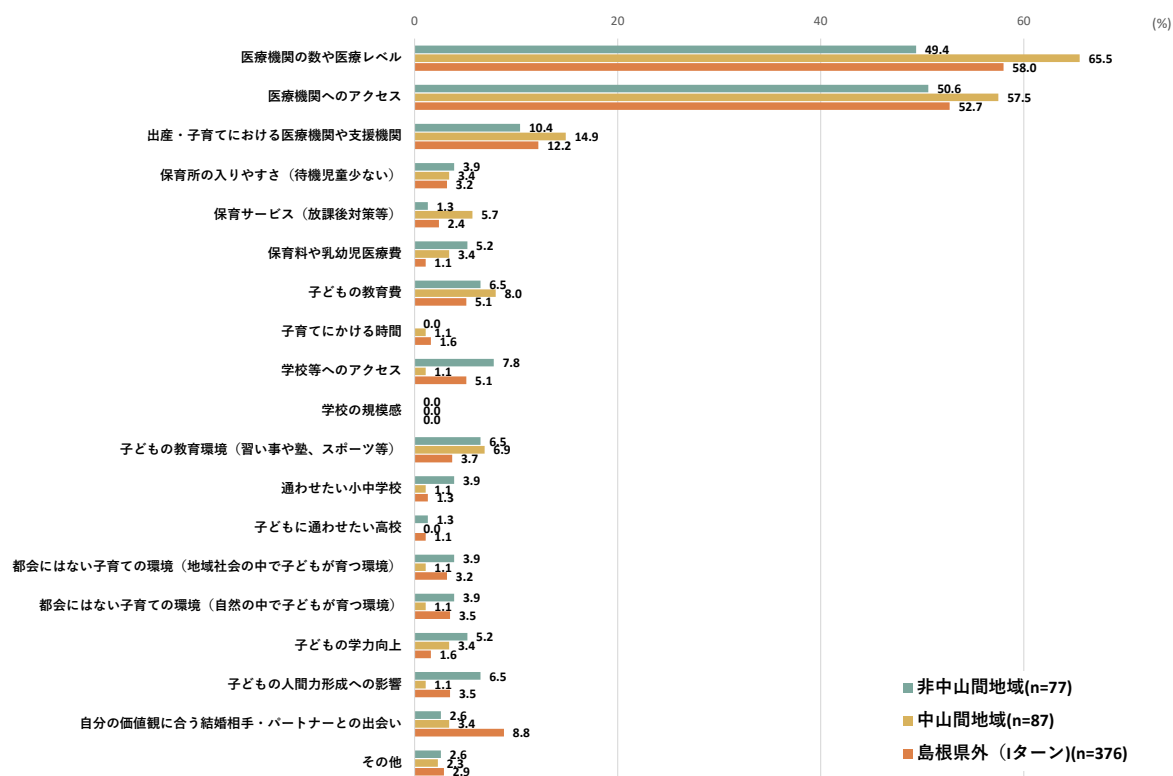
【医療福祉、教育・子育てに関すること】

単純集計による全体の傾向は、大半が「医療機関の数や医療レベル」、「医療機関へのアクセス」を重視していることである。



「UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目（医療福祉、教育・子育て）」の単  
純集計（関心層）

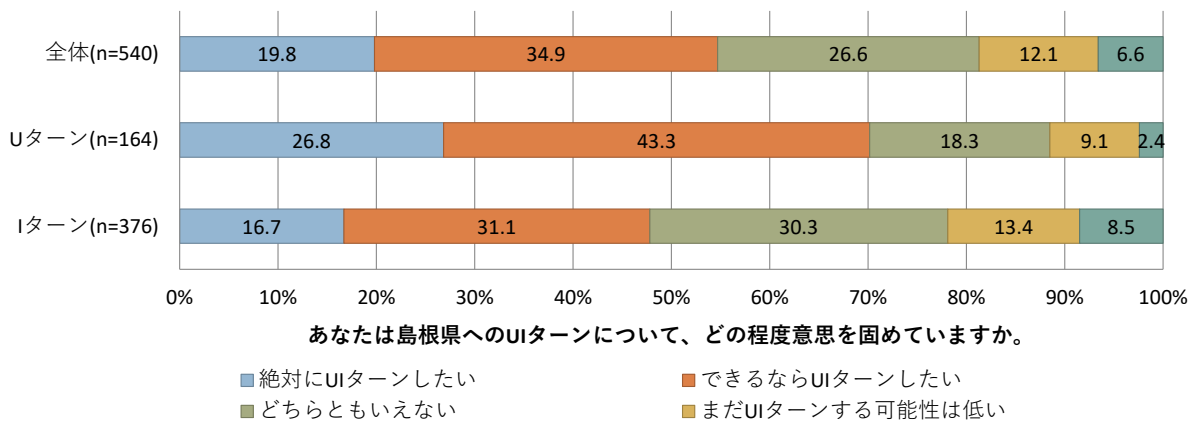
中山間地域出身者が、医療機関をより重視している傾向があり、検討層と同様の結果である。



「出身地」×「UI ターン後の生活を考えるうえで特に重視する項目  
（医療福祉、教育・子育て）」のクロス集計（関心層）

**今後のUIターン意向**

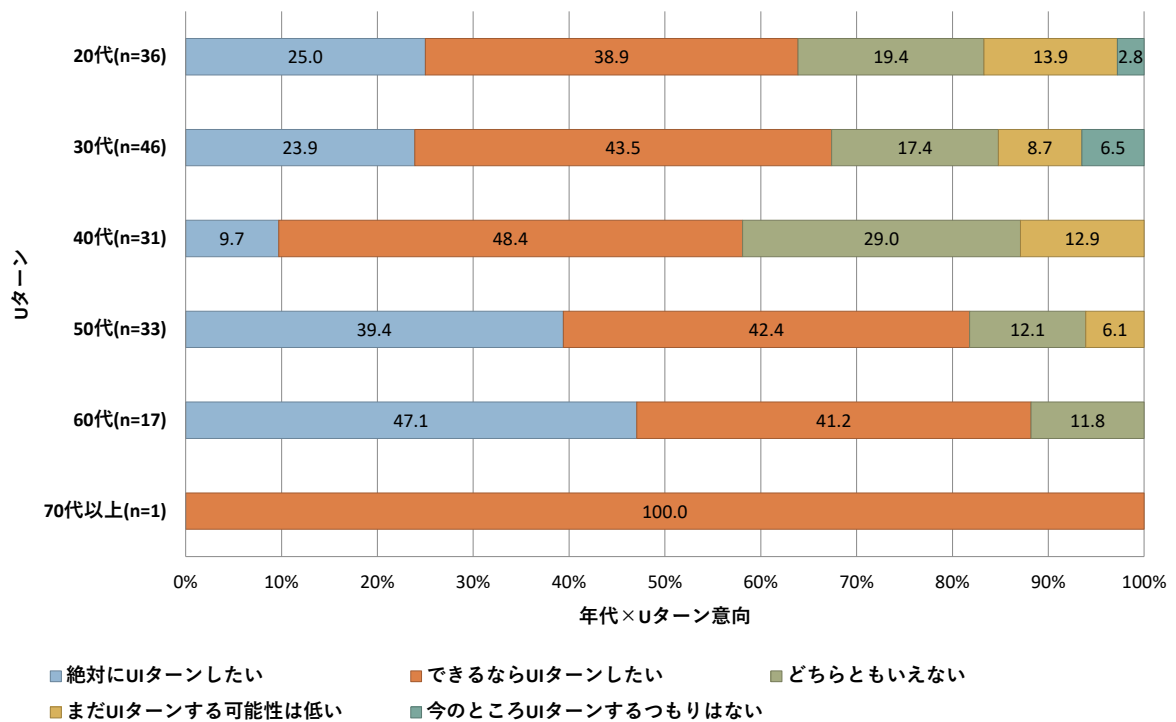
今後のUIターン意向について、Uターン/Iターン別にみると、Uターン関心者のほうがIターン関心者に比べて「絶対にUIターンしたい」と「できるならUIターンしたい」の割合が高く、UIターンの意思が高い。検討層と同様の結果である。



「Uターン/Iターン」×「今後のUIターン意向」のクロス集計（関心層）

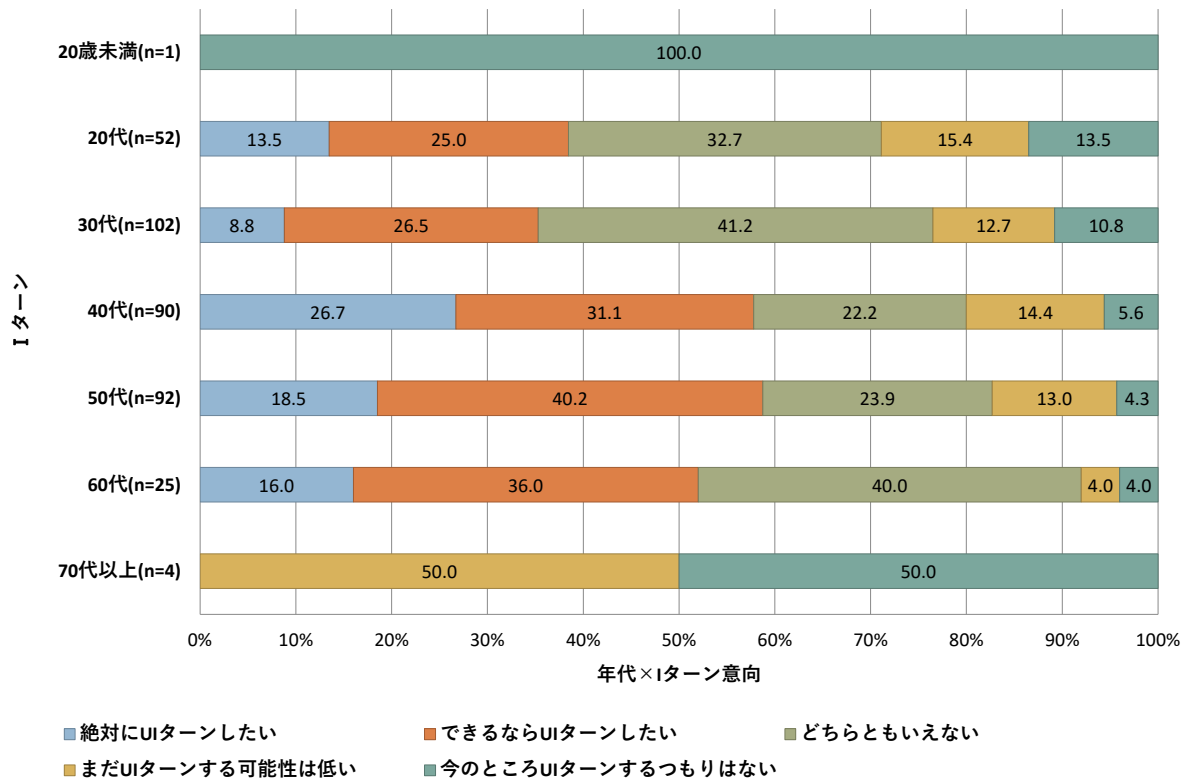
次に、「Uターン/Iターン」×「年代」との多重クロス集計の結果を示す。

Uターン関心者についてみると、年代があがるにつれてUIターン意向が高まる傾向があり、これは検討層と同様である。以降が低くなるのが「40代」である点が、「30代」で低くなっていた検討層との差異である。



Uターン：「年代」×「今後のUIターン意向」のクロス集計（関心層）

I ターン関心者についてみると、年代が高くなるにつれて意向が高くなる傾向はそこま  
で見られず、検討層と異なる結果となった。



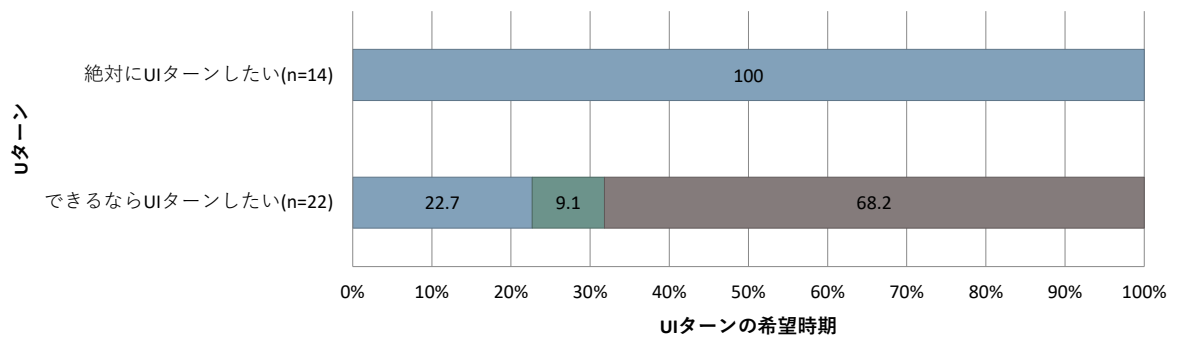
I ターン : 「年代」 × 「今後の UI ターン意向」 のクロス集計 (関心層)

【ポイント】

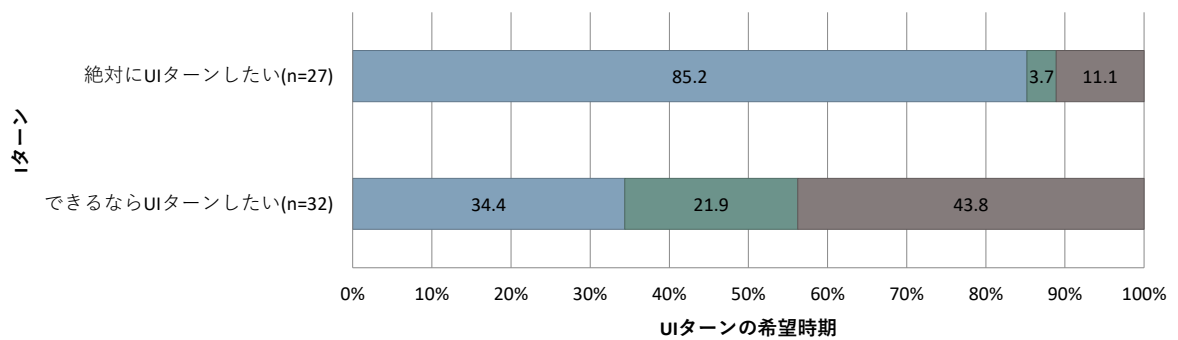
- ・ U ターン関心者のほうが、I ターン関心者よりも、UI ターンの意向が高い。
- ・ UI ターン意向のあるものは、U ターン関心者は 70.1%、I ターン関心者は 47.8%。

**「絶対にUIターンしたい」「できるならUIターンしたい」と回答した方にお聞きます。UIターンの希望する時期について教えてください。**

希望する時期は、「絶対にUIターンしたい」と回答した方はその多く（Uターンで100%、Iターンで85.2%）が、「おおむね半年以内」と回答した。



■ おおむね半年以内 ■ おおむね1年以内 ■ おおむね3年以内 ■ おおむね5年以内 ■ それ以上 ■ 未定



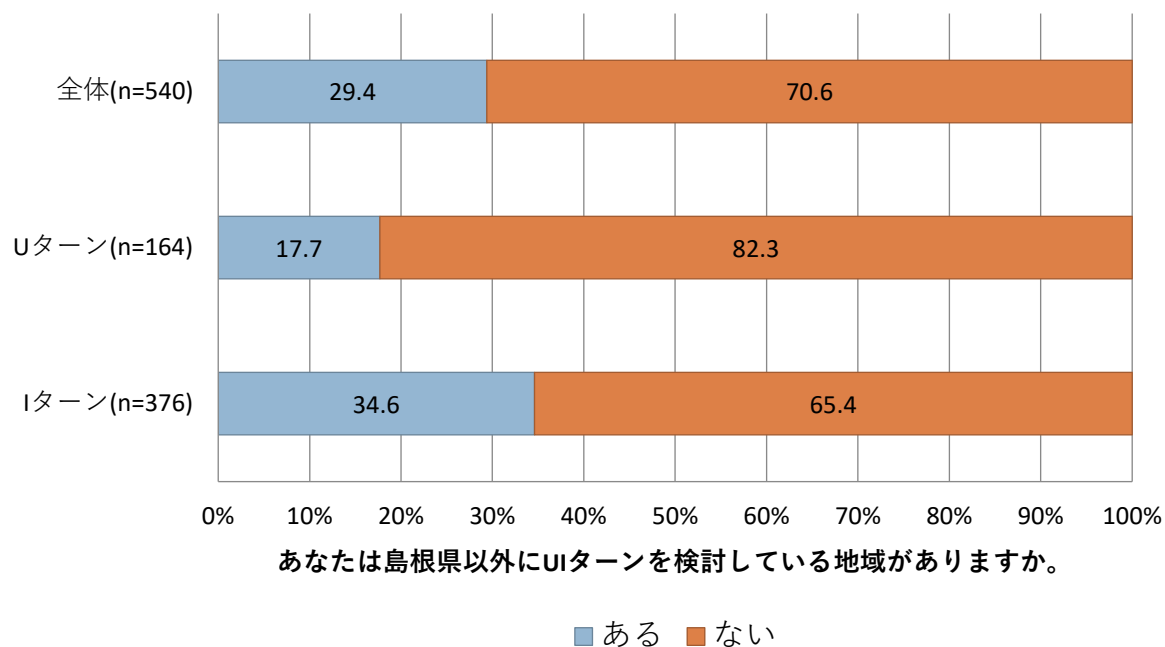
■ おおむね半年以内 ■ おおむね1年以内 ■ おおむね3年以内 ■ おおむね5年以内 ■ それ以上 ■ 未定

**UIターン意向×UIターンの希望時期のクロス集計（関心層）**



### 島根県以外にUIターンを検討している地域の有無

UIターン検討地域の有無の結果をみると、Uターン関心者は8割以上が「ない」と答え  
ており、大きな傾向は移住検討層の結果と同様である。



「Uターン/Iターン」×「UIターン検討地域の有無」のクロス集計（関心層）

**島根県以外に UI ターンを検討している地域はどこですか。複数ある場合は最も関心の高い地域(都道府県)を1つ選んでください**

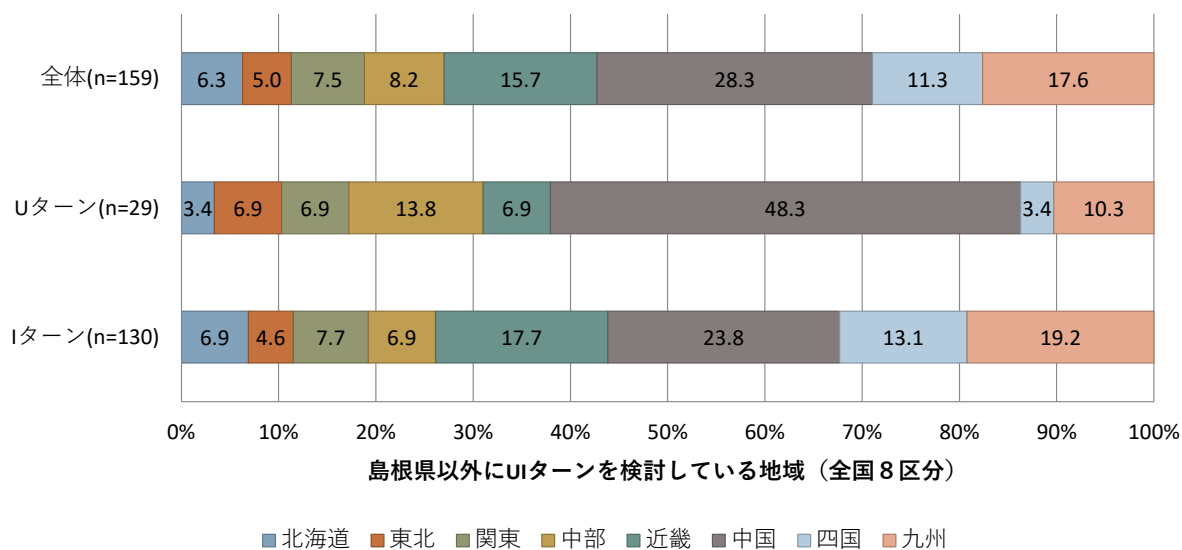
最も割合の高い検討地域は中国地方で、なかでも特に鳥取県の割合が高い。

移住検討層と同様の結果である。

地域	都道府県名	件数	割合
北海道地方	北海道	10	6.3
	青森県	2	1.3
東北地方	岩手県	0	0.0
	宮城県	2	1.3
	秋田県	2	1.3
	山形県	1	0.6
	福島県	1	0.6
	茨城県	0	0.0
関東地方	栃木県	2	1.3
	群馬県	3	1.9
	埼玉県	0	0.0
	千葉県	2	1.3
	東京都	4	2.5
	神奈川県	1	0.6
	中部地方	新潟県	1
富山県		1	0.6
石川県		0	0.0
福井県		0	0.0
山梨県		1	0.6
長野県		8	5.0
岐阜県		0	0.0
静岡県		1	0.6
愛知県		1	0.6

地域	都道府県名	件数	割合
近畿地方	三重県	1	0.6
	滋賀県	4	2.5
	京都府	1	0.6
	大阪府	5	3.1
	兵庫県	10	6.3
	奈良県	1	0.6
	和歌山県	3	1.9
中国地方	鳥取県	20	12.6
	岡山県	10	6.3
	広島県	10	6.3
	山口県	5	3.1
四国地方	徳島県	1	0.6
	香川県	3	1.9
	愛媛県	12	7.5
九州地方	高知県	2	1.3
	福岡県	6	3.8
	佐賀県	0	0.0
	長崎県	2	1.3
	熊本県	2	1.3
	大分県	3	1.9
	宮崎県	1	0.6
	鹿児島県	1	0.6
沖縄県	13	8.2	
合計		159	100

「島根県以外に UI ターンを検討している地域」の単純集計（関心層）

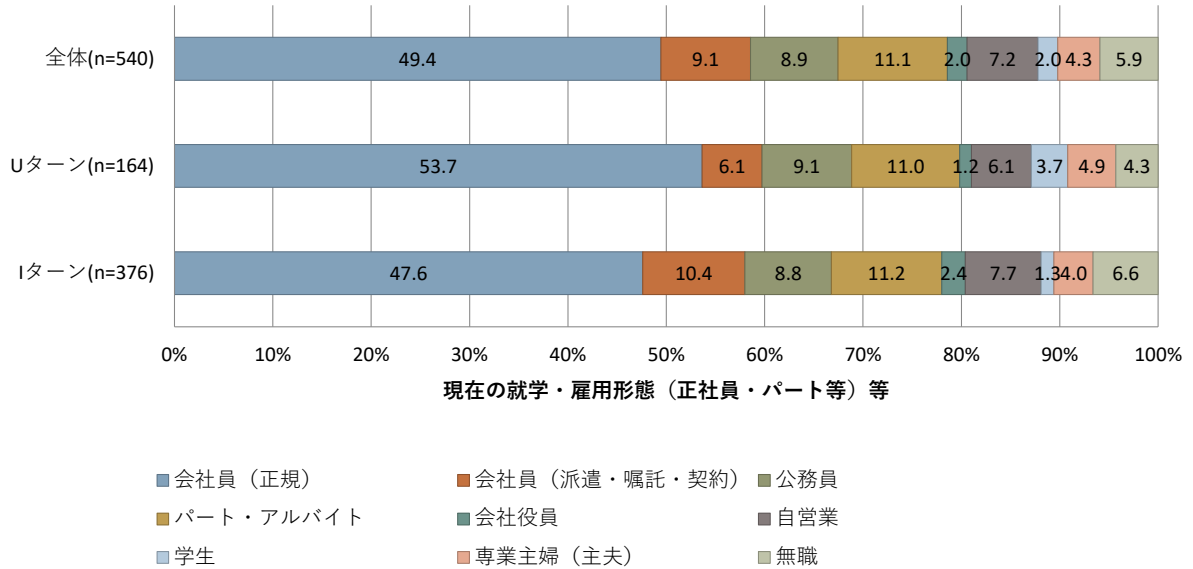


「Uターン/Iターン」×「島根県以外に UI ターンを検討している地域」クロス集計

(関心層)

### 現在の就学・雇用形態(正社員・パート等)等(SA)

Uターン関心者、Iターン関心者ともに、最も高い割合を占めるのは「会社員(正規)」である。Uターン関心者のほうが、「会社員(正規)」の割合が高く、検討層の結果と同様である。

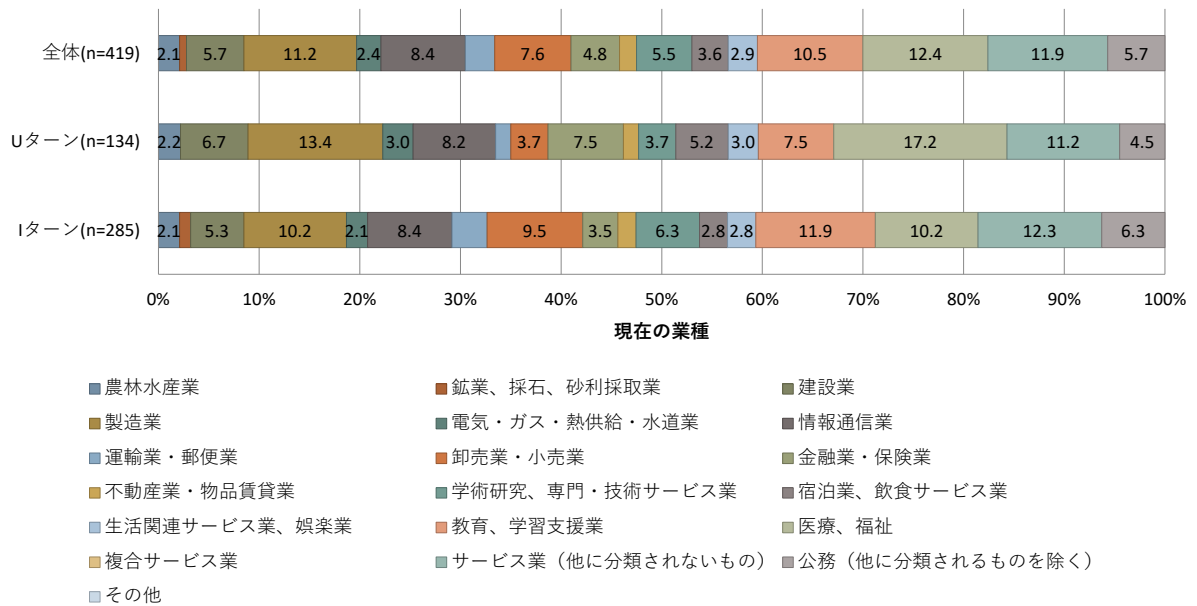


「Uターン/Iターン」×「現在の就学・雇用形態」クロス集計(関心層)

### 現在の業種

全体の傾向として「製造業」が最も割合が高い(11.2%)。

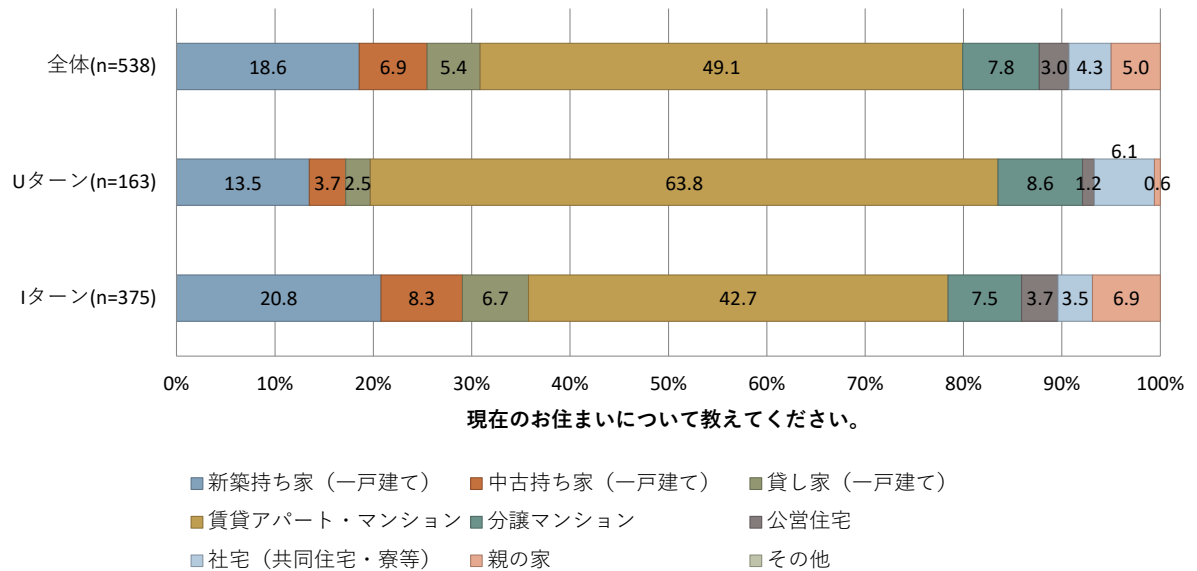
「Uターン/Iターン」とのクロス集計をみると、検討層でみられたような「情報通信業」の差は見られなかった。



「Uターン/Iターン」×「現在の業種」クロス集計（関心層）

### 現在の住まい

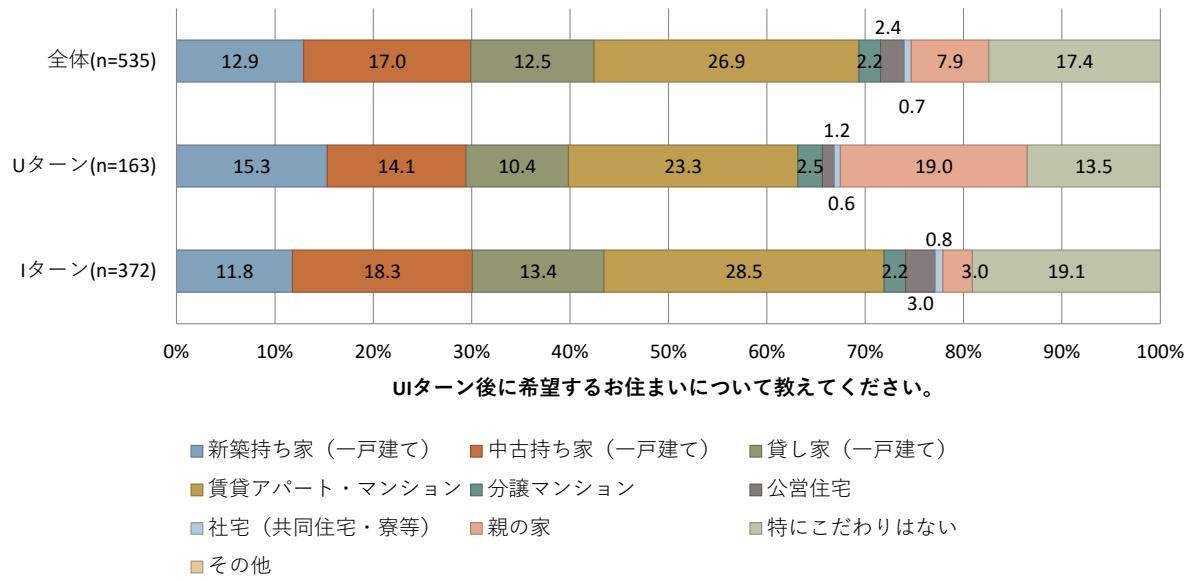
多数派が「賃貸アパート・マンション」であり、検討層と同様の結果である。



「Uターン/Iターン」×「現在の住まい」クロス集計（関心層）

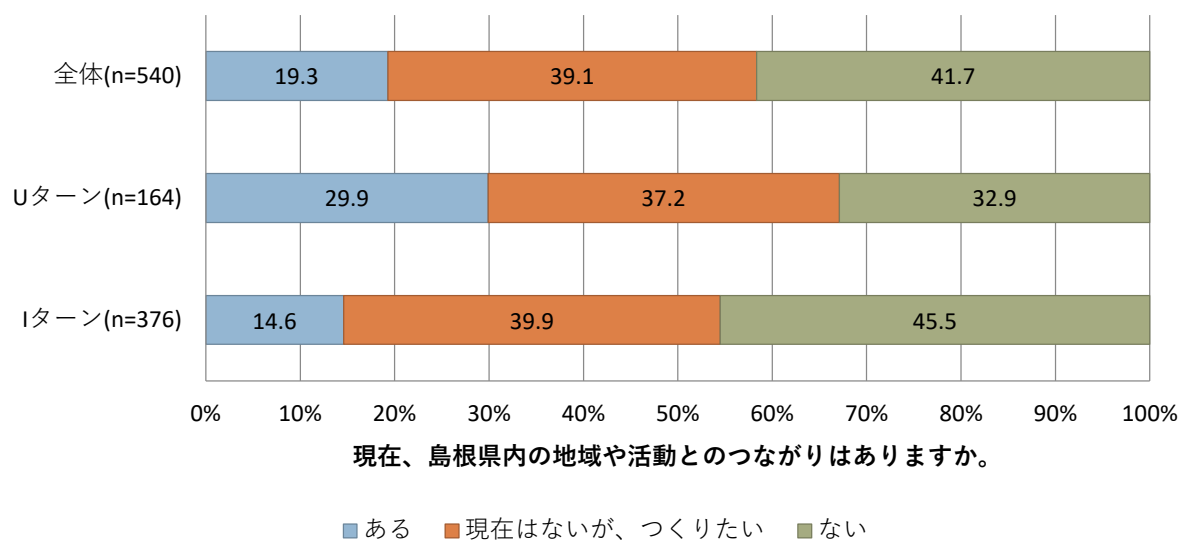
### Uターン後に希望する住まい

Uターン関心者、Iターン関心者ともに、「賃貸アパート・マンション」と回答する割合が最も高い結果となった。



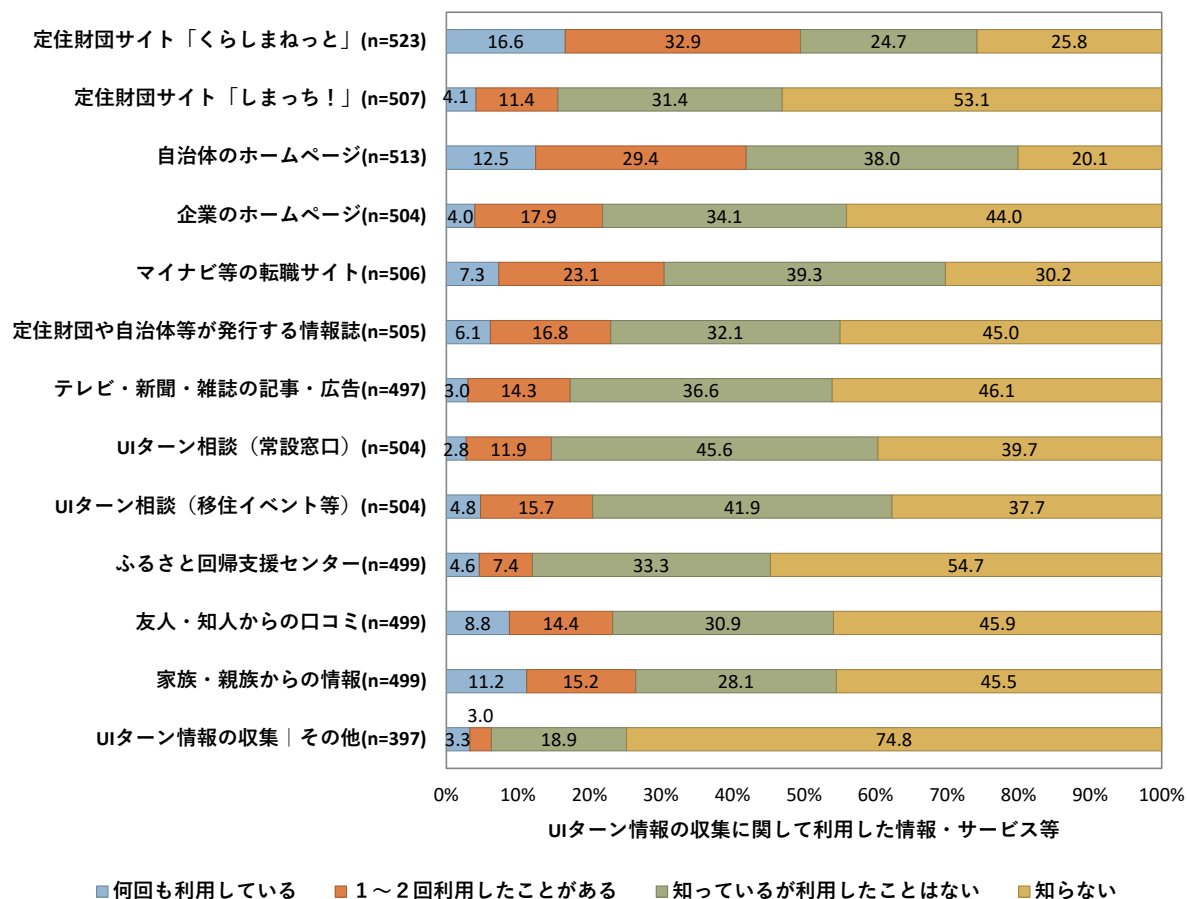
「Uターン/Iターン」×「UIターン後に希望する住まい」クロス集計（関心層）

**現在、島根県内の地域や活動とのつながりはありますか。または、つくりたいですか**

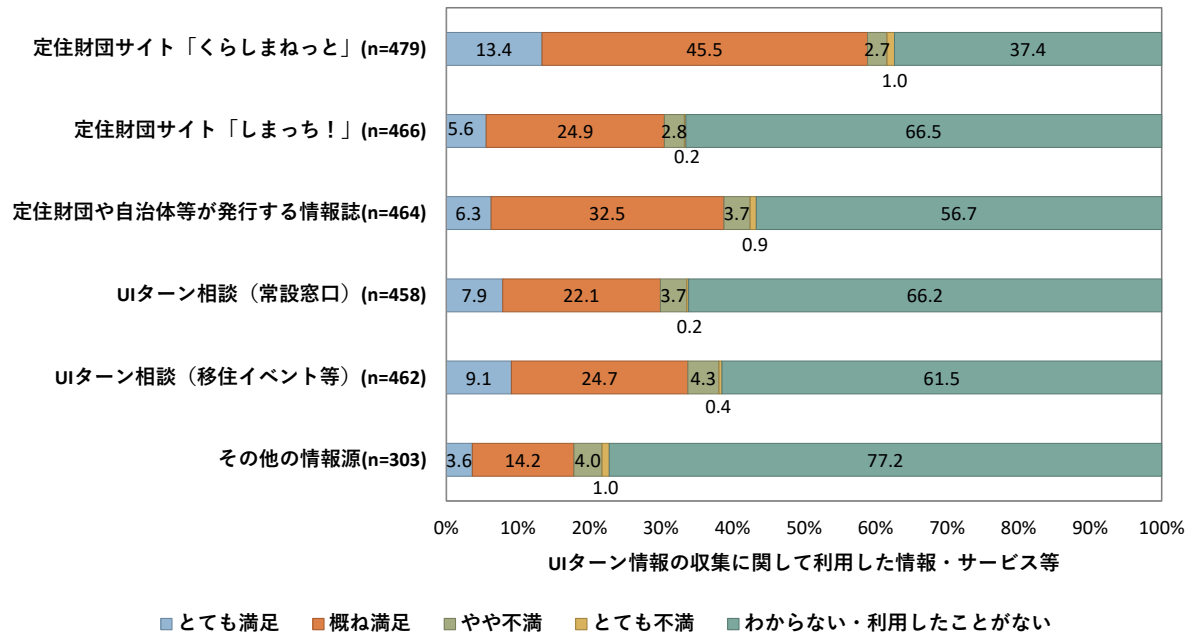


「Uターン/Iターン」×「島根県内の地域や活動とのつながり」クロス集計（関心層）

あなたはUIターン情報の収集に関し、以下の情報・サービス等を利用したことはありますか。  
それぞれの情報・サービスについて利用頻度を教えてください。



島根県および(公財)ふるさと島根定住財団が実施する以下の情報・サービスを利用したことがある方にお聞きます。それぞれの満足度を教えてください





## ヒアリング調査の結果

### 回答者属性の概要

No.	性別	年齢	出身	現住所	家族構成
U-1	男性	25～29歳	松江市	京都府	配偶者と2人
U-2	女性	30～34歳	松江市	神奈川県	配偶者と子ども
U-3	男性	50～54歳	隠岐の島町	長野県	配偶者と2人
U-4	男性	55～59歳	益田市	東京都	単身
I-1	男性	45～49歳	岐阜県	岐阜県	配偶者と子ども
I-2	女性	55～59歳	大阪府	大阪府	単身

### Uターン関心者の傾向

- ・ Uターンに関心を持ったきっかけとしては、親の介護やよりよい子育て環境といった家族の事情とする回答が多くみられた。
- ・ 実現に向けた課題として、仕事面の条件を満たすことや、家族の了解を得ることなどを挙げており、現実的なハードルの高さが窺えた。
- ・ インターネットやUIターンフェアなどのイベントを通じて情報収集をしているが、定住財団による直接の支援は受けていない状況であった。

### Iターン関心者の傾向

- ・ どちらの方も島根への地縁・血縁はなく、島根県への旅行によって移住に興味を持ったとのことであった。
- ・ 現在の仕事を辞めるタイミングでの移住を検討されており、新たな仕事を見つける必要がある状況であった。
- ・ インターネットやUIターンフェアなどのイベントを通じて情報収集をしているが、定住財団による直接の支援は受けていない状況であった。